2019年度シラバス

科目名:キャリアデザインⅡ	担当者:全専任教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
・講演：学科長講演、外部講師による講演会が行われます。講師の先生からは就職活動や職場の実情、働くことの意義を学び、社会人として生きる力を身に付けます。
・講義：「社会と私」という統一テーマで、専任教員が社会で活躍するために有益となる話や心構え、メッセージ、アドバイスも含めて講義をします。
・芸術鑑賞会：豊かな感性の育成と、公の場でのマナーを身に付けることが目的です。

授業の到達目標
毎回の授業から自分自身を振り返り、今後の自身の生き方を積極的に捉え、行動できる人間として成長することを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
講演会および芸術鑑賞の事前学習は、テキストやプリント等を使用し必ず行うこと。「社会と私」では、すべての講義から学んだことを自分の視点でまとめつつ、全講義のつながりを模索し、視覚化する時間を持つこと。

評価方法
講演会と芸術鑑賞会のレポート30%、「社会と私」の出席状況等60%、レポート試験10%の割合で評価する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講演会や芸術鑑賞会などはスケジュールが不規則なので、初回に配布するスケジュール表や掲示板で日程を確認すること。

01	オリエンテーション
02	学科長講演
03	進路講演会（エントリーシートの作成に向けて）
04	ガイダンス～「社会と私」を学ぶにあたって
05	社会と私（１）「Shiny next decade、あるいはタラレバ娘としての生」
06	社会と私（２）「私と社会～〈自分創り〉は〈社会創り〉～」
07	社会と私（３）「決め付けないで行動しよう」
08	社会と私（４）「10年後の私たち～子育てについて考える～」
09	社会と私（５）「動物から学ぶ、ヒトの生き方」
10	社会と私（６）「社会と私の言語学」
11	社会と私（７）「カラフルに生きよう」
12	社会と私（８）「社会保険（年金）について」
13	芸術鑑賞
14	社会と私（９）「社会人デビューの前にちょっと伝えておきたいこと」
15	社会と私（１０）「アイデンティティ～社会で生きていく私」
16	卒業講演会

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:茶谷　淳一	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
泰阜村でフィールドワークを行い、泰阜村の魅力と村づくりへの提言を考えます。活動目的はゼミで話し合い、みんなが決めます。活動は村民の皆様と協働（ともに活動する）し、交流を深めながら、村が元気なる方法を現教生らしい視点で考えましょう。4月に活動内容を決め、５～7月に月１回、7月末の夏祭りのお手伝い合宿のほか、活動目的に応じて夏休みに合宿します。提言は12月に村役場で発表していただきます。その他、ボランティアもあります。

授業の到達目標
フィールドワークをしながら、ゼミの仲間や村の人たちとともに活動しながら、泰阜村の魅力と提言を考え、役場で発表することを通して、①自分の考えをまとめ、発言、文章化、発表することができる。②社会で多くの人とともに一つの目標に向かって話し合い、活動することができる。③周りの状況を的確に把握し、自らの役割を発見し、行動することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①ゼミでは農山村が抱えている問題について学んだり、活動についての話し合いをします。活動は土曜日、または休日に行います。②発表内容を考えたり、卒業研究レポートを作成するための大切な資料となる活動記録（ゼミノート）を付け、整理しておくこと。③時間内にできなかった展示や発表資料、レポートなどの作成④テキストを事前に読んでおくこと

評価方法
①出席状況や発言、行動などゼミ活動に取り組む姿勢･･･40%②各種のレポート、ゼミノート、展示資料、プレゼンテーション･･･60%

教科書	参考図書
農山村再生～限界集落問題を超えて（小田切徳美　岩波ブックレット）	「奇跡のむらの物語」（辻英之　農文協。科目「自然と生活」のテキストです）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アルバイトなど自己都合でゼミや活動を休んだり、やる気のない姿勢は絶対にに許しません。厳格に対処します。活動すればするほど、楽しくなります。やりがいがあります。予定が変更されることがあります。

01	泰阜村のファンを増やすにはどうすればよいか　～ゼミでの学びについての説明（第１週）
02	テキスト「農山村再生」を読む　（第２週～第６週）
03	人のために役立つ活動を体験する①　～名古屋市障害者スポーツ大会ボランティア（5月）
04	泰阜村を知る　フィールドワークの目的と内容を決める　（第７・８週）
05	「月一日、日帰り訪問」で決めた目的に沿った活動をしながら、村民と交流する（5，6，7月）
06	「月一日、日帰り訪問」の振り返り　夏祭りの活動を決める（第９週～第15週）（5，6，7月）
07	やすおか夏祭りでのブース出店、お手伝い　（7月末）
08	人のために役立つ活動を体験する②　～全国ジュニア選抜車いすバスケ大会ボランティア（8月）
09	夏休みゼミ合宿　～魅力と提言を考えるための活動　　（8月または9月）
10	フィールドワークの振り返り　泰阜村の魅力と提言を考える　（第16週～第17週）
11	フィールドワークの活動の様子と「泰阜村の魅力と村づくりへの提言」をまとめる　（第18週）
12	大学祭での展示資料の作成　スポーツ祭典・模擬店出店の準備　　（第19週～第22週）
13	卒業レポート作成・報告会準備　　（第23週～第30週）
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　11名のグループでテーマに基づいて継続的な学習を続ける。語学(英語)の研鑽、パーソナルカラーの技能の習得、野外での作物の育成経験、大学祭での活動、学外での研修などを題材に、ゼミという集団での活動を行う。新しいことを学び、新しい人間関係を構築しながら、楽しく時間をすごせる集団になれるようみんなが工夫する。

授業の到達目標
(1) 問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、目的に向かって着実に努力を続けられる行動力を成長させる。
(2) 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力を成長させる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　・学外での見学、ゼミでの研修旅行、レポートなどの作成、学外活動の準備や打合せ
　・就職活動でのエントリーシートなどの作成、面接の練習

評価方法
ゼミの時間における活動を主体性、働きかけ力、情況把握力、発信力、傾聴力、規律性 の観点で評価（78%)、
レポートなどの提出物を文章や内容で評価（22%)
の合計で評価する

教科書	参考図書 はじめてのパーソナルカラー

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡が取れるようにして下さい。

01	年間の計画の作成
02	進路の面談
03	講演会
04	作物栽培の準備
05	資格試験対策１
06	資格試験対策２
07	学外見学会
08	資格試験対策３
09	資格試験対策４
10	学外見学
11	資格試験対策５
12	資格試験対策６
13	前期の振返り
14	学外研修の準備１
15	学外研修の準備２
16	後期の予定の確認
17	大学祭の準備１
18	大学祭の準備２
19	大学祭の準備３
20	学外見学
21	学外研修の準備３
22	学外研修の準備４
23	学外研修の準備５
24	学外研修の準備６
25	学外見学
26	学外研修の準備７
27	学外研修の準備８
28	学外研修の準備９
29	学外研修の反省
30	1年間の振返り
31	まとめ

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:高谷　邦彦	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「SNSと情報発信」というテーマで、企業や大学の広報活動や地域活性化のためにTwitterやInstagramなどのSNSをどのように活用するかについて、自分たちで取材と投稿を実践しながら学びます。

授業の到達目標
ソーシャルメディアの時代に必要な知識と経験を身につけることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分がSNSに投稿する際の意識や他のユーザの投稿内容などを注意深く観察する習慣を身に付けましょう。

評価方法
授業参加度（50%）と各種ゼミ活動への参加意欲と取組内容（50%）で評価します。

教科書	参考図書
必要に応じてプリント等を配布します。	授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
何にでも興味と疑問を持って調べてみる／試してみるという好奇心と自主性を大切にしましょう。

01	SNS（Twitter、Facebook、Instagram等）の基本を学ぶ
02	自分たちがSNSを利用する際の意識・動機などを客観化してみる（１）
03	自分たちがSNSを利用する際の意識・動機などを客観化してみる（２）
04	広報の基本を知る
05	インターネット（SNS）広報について学ぶ（１）
06	インターネット（SNS）広報について学ぶ（２）
07	インターネット（SNS）広報について学ぶ（３）
08	大学広報・地域広報のアイディアを練る（１）
09	大学広報・地域広報のアイディアを練る（２）
10	SNSによる大学広報・地域広報を実践する（１）
11	SNSによる大学広報・地域広報を実践する（２）
12	SNSによる大学広報・地域広報を実践する（３）
13	SNSによる大学広報・地域広報を実践する（４）
14	卒業研究のテーマを検討する（１）
15	卒業研究のテーマを検討する（２）
16	SNSを活用した大学広報・地域広報のアイディアを議論する（１）
17	SNSを活用した大学広報・地域広報のアイディアを議論する（２）
18	SNSを活用した大学広報・地域広報のアイディアを議論する（３）
19	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（１）
20	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（２）
21	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（３）
22	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（４）
23	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（５）
24	有松、桶狭間などキャンパス外で取材活動を行う（６）
25	大学祭準備（模擬店・展示等）（１）
26	大学祭準備（模擬店・展示等）（２）
27	SNSを活用しながら広報活動を実践し、その成果を分析する（１）
28	SNSを活用しながら広報活動を実践し、その成果を分析する（２）
29	SNSを活用しながら広報活動を実践し、その成果を分析する（３）
30	SNSを活用しながら広報活動を実践し、その成果を分析する（４）
31	研修旅行

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:辻　広志	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
この演習では、「私たちの生活と環境」をテーマに、自然環境や動植物、食育を題材にした実践的活動を通して、様々な環境問題の実態と対策について学び、生き物のいのちと私たちの暮らしについて考える。

授業の到達目標
自然環境の調査や動植物の観察、作物の栽培等を通して、自然への理解を深める。また、実践的活動や課題研究を通して、社会人基礎力の向上をはかる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究のテーマについて、資料の収集、調査・分析・考察、原稿の作成、発表の準備を行う。

評価方法
出席状況（20%）、ゼミでの取り組み姿勢（30%）、報告内容（レポート、発表）（50%）等から総合的に評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
チームワークを大切にして、何事にも真面目に取り組くむこと。天候や進行状況等により、授業計画を変更することがあります。

01	ガイダンス
02	学内実習と学外研修の事前学習
03	文献輪読①
04	学外研修①（藤前干潟で干潟生物の観察）
05	文献輪読②
06	学内実習①（キャンパスの樹木の葉の採取）
07	学内実習②（キャンパスの樹木の葉の標本作製）
08	卒業研究準備①
09	学内実習③（サツマイモの苗植え）
10	学外研修②（名古屋市科学館見学）
11	文献輪読③
12	学内実習④（キャンパスの池の水生生物調査）
13	学外研修③（竹島水族館で生物観察）
14	卒業研究準備②
15	学外研修④（伊吹山で高山植物観察）
16	学外研修レポート作成
17	卒業研究中間発表
18	大学祭ゼミ展示準備①
19	学内実習⑤（サツマイモの収穫）
20	大学祭ゼミ展示準備②
21	学内実習⑥（サツマイモの調理）
22	学内実習⑦（キャンパスの紅葉・ドングリ観察）
23	卒業研究論文作成①
24	卒業研究論文作成②
25	卒業研究論文作成③
26	卒業研究論文作成④
27	卒業研究論文作成⑤
28	卒業研究発表①
29	卒業研究発表②
30	まとめ
31	なし

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:綾部　六郎	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　全員で本授業のテーマである「社会の裏側を見てみよう！」プロジェクトに関係する課題文献を読み、プレゼンテーションもおこなうことなどを通じて、さまざまなスキルを学んでいきます。
　また、学内イヴェントの実施や学外の関連施設などを訪問する予定ですので、その準備もおこないます。

授業の到達目標
　上記の事項に加えて、2年次の前期に配当されている「女性と労働」や、1年次前期の「ジェンダーと法」などの授業で学んだ知識をより一層深めながら、自立した女性となるために必要なこともあわせて修得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
正課の授業だけではなく、関連する活動にも積極的に取り組んでください。

評価方法
授業での取り組みなどを総合的に評価します（100%）。

教科書	参考図書
授業中に指示します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
必要な事項については、開講後のガイダンスで説明します。

01	ガイダンスなどの実施
02	課題文献の検討・決定
03	効果的なプレゼンテーション方法についての解説
04	学術的なリサーチ・スキル向上についての解説
05	クリティカル・リーディング習得についての解説
06	課題文献の輪読・担当者によるプレゼン①
07	同上
08	同上
09	同上
10	同上
11	同上
12	学外研修実施のための準備
13	同上
14	同上
15	同上
16	学外研修の実施
17	同上
18	同上
19	学内イヴェント実施のための準備
20	同上
21	同上
22	同上
23	学内イヴェントの実施
24	同上
25	課題文献の輪読・担当者によるプレゼン②
26	同上
27	同上
28	卒業研究報告会の準備
29	卒業研究報告会の実施
30	授業のまとめなど
31	なし

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:矢澤　久史	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　多くの心理検査の実習を行い、就職活動やこれから社会に出た時に役立てることができるように自分に関する理解を深め、身近な現象に対して心理学的観点からの見方を学ぶことにより視野を広げ、自分探しと他者理解を目指す。授業のほとんどはグループ学習で進め、問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、目的に向かって着実に努力を続けられる行動力を養う。

授業の到達目標
①これまでになされた心理学の研究についての理解を深め、日常生活で人間関係をうまく形成するために心理学の知識を役立たせることができるようになることを目標とする。
②グループ学習を通して、他者とのコミュニケーションを取りながら共同して物事に取り組む力を付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①授業で興味を持った内容について、関連図書を読んで理解を深めること
②身の回りの様々な出来事について常に興味関心を持つこと

評価方法
ゼミの参加状況（発表、共同作業への参加）80%、提出レポート20%

教科書	参考図書 授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①受け身ではなく、すべて「自分から動く」と言うことが重要、何でもまずチャレンジしてみましょう。
②欠席や遅刻をする場合には、必ず事前に連絡をすること。

01	ガイダンス
02	心理検査実習①（ＹＧ性格検査）
03	卒業研究準備①（テーマの設定）
04	DVD「チンパンジーが教えてくれる希望の秘密」視聴 テキスト購読①
05	モンキーセンター見学
06	心理検査実習②（内田クレペリン）
07	テキスト講読①
08	卒業研究準備②（文献の調べ方）
09	テキスト購読②
10	心理検査実習③（バウムテスト）
11	テキスト講読③
12	卒業研究準備③（先行文献のまとめ方）
13	心理検査実習④（モーズレイ性格検査）
14	名古屋港水族館見学
15	卒業研究準備④（論文の執筆に向けて）
16	心理検査実習⑤（主要５因子性格検査）
17	テキスト講読④
18	心理検査実習⑥（主題統覚検査：ＴＡＴ）
19	テキスト購読⑤
20	大学祭ゼミ発表準備①
21	大学祭ゼミ発表準備②
22	明治村　or　リトルワールド見学
23	テキスト講読⑥
24	心理学実験実習（逆さメガネ、鏡映像描写）
25	卒業研究準備⑤（論文の執筆①）
26	卒業研究準備⑥（論文の執筆②）
27	卒業研究準備⑦（論文の執筆最終確認）
28	卒業研究準備⑧（要約集の作成準備）
29	卒業研究準備⑨（要約集の作成準備）
30	卒業を迎えるに当たって（ゼミ旅行）
31	なし

2019年度シラバス

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:山下　玲香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　自然を活用した様々なアクティビティを通し、１）仲間と協力したり、自ら積極的に活動に取り組む姿勢を養う、２）豊かな自然を活用し、柔軟に対応する能力を養う、ことをねらいとする。また、自然と人工物との対比を体感し、それぞれの良さを理解するために、学外実習として大府市の健康の森に赴き、屋外のアスレチック遊具の見学、室内のジムやプール、体育館の見学、健康に関する展示の見学などを行う。ゼミ合宿では長野県でキャンプを行う。
　卒業研究は「運動・スポーツ」「身体活動」「野外活動」「健康」に関することなどから興味のある内容を一人1テーマ設定し、取り組む

授業の到達目標
１）野外で役に立つ知識や技能を身につけ、ゼミ合宿で応用することができる
２）いろんな場面で身体活動をたのしむことができる
３）仲間と協力し、積極的な姿勢と柔軟に対応する能力が身につく

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
ゼミ活動で行う身体活動に関する文献や書物を読んでおく。
また、振り返り活動は毎回行い、適宜課題を提出するので期限を守って考察をする。

評価方法
参加態度　40%　　卒業研究の取り組み　40%　　課題（提出物）20%

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
仲間との協力・積極性を重視しますので、遅刻や無断欠席厳禁です。仲間と協力してゼミ活動に取り組んでください。

01	ガイダンス　ゼミ運営について
02	野外活動に関するテキストの読み合わせ
03	学内の自然観察およびロープワーク
04	救急救命・応急処置に関するテキストの読み合わせと実践①
05	救急救命・応急処置に関するテキストの読み合わせと実践②
06	学外実習に向けての準備
07	学外実習：大府市健康の森
08	情報リテラシーに関する講義　　文献の検索方法と活用
09	論文の読み合わせ　　問題提起と解決方法
10	学内の自然観察とロープワークの実践
11	野外活動用具の知識と理解
12	野外活動における食事の知識と理解
13	ゼミ合宿に向けての準備①
14	ゼミ合宿に向けての準備②
15	ゼミ合宿：長野県栂池高原
16	前期の振り返りレポートの作成と後期に向けての話し合い
17	学内の自然観察とロープワークの実践
18	前期および後期の学内の自然の比較と考察
19	大学祭展示準備
20	大学祭展示準備
21	大学祭展示準備
22	大学祭展示準備
23	大学祭の振り返りと卒業論文制作に向けての準備
24	卒業研究論文制作　　論文の執筆
25	卒業研究論文制作　　論文の執筆
26	卒業研究論文制作　　論文の執筆の最終確認
27	卒業研究論文制作　　要約集の作成
28	卒業研究論文制作　　要約集の作成
29	卒業研究発表
30	まとめ
31	

科目名:教養演習Ⅱ	担当者:小出　祥子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
私たちが普段、普通に使っている「日本語」を改めて見つめなおし、様々な視点から「なぜ？」と考え、その答えを見つける手法を学びます。具体的には、テーマに従って、日本語の用例を集め、分析し、発表し、議論します。プレゼンテーションや、ディスカッションのスキルを身につけるとともに、身の回りの「当たり前」を問い直し、客観的に観察する視点を養います。

授業の到達目標
・日本語についての基本的な知識を身につける
・物事を客観的に考察し、問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
発表の準備は前日までに行い、メンバー分のレジュメを用意してください。
学内のイベントへの参加や、学外見学(保育園で子どもの日本語に触れる)等も予定しています。積極的に参加してください。

評価方法
レジュメ作成・発表・ディスカッションへの参加態度50%、ゼミの行事への参加態度50%

教科書	参考図書
授業中に指示します	適宜、提示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ゼミ活動に積極的に取り組む姿勢を求めます。グループでの作業も多くなるため、各自責任感を持ち、協力して、様々な活動に楽しく取り組みましょう。

01	ガイダンス
02	発表内容の検討と担当決定
03	ゼミ行事についての話し合い
04	課題文献の輪読・担当者による発表1
05	課題文献の輪読・担当者による発表2
06	課題文献の輪読・担当者による発表3
07	課題文献の輪読・担当者による発表4
08	学外見学の準備
09	学外見学の実施(保育園で子どもの日本語に触れる1)
10	学外見学の振り返り発表会
11	課題文献の輪読・担当者による発表5
12	課題文献の輪読・担当者による発表6
13	課題文献の輪読・担当者による発表7
14	学外研修の準備1
15	学外研修の準備2
16	学外研修の実施
17	学外研修の振り返り
18	卒業研究のテーマ発表
19	大学祭ゼミ参加の準備1
20	大学祭ゼミ参加の準備2
21	大学祭ゼミ参加の準備3
22	学外見学の準備
23	学外見学の実施(保育園で子どもの日本語に触れる2)
24	学外見学の振り返り発表会
25	卒業研究の中間発表
26	卒業研究の執筆1
27	卒業研究の執筆2
28	卒業研究の執筆3
29	卒業研究発表会
30	ゼミ活動の振り返り
31	なし

2019年度シラバス

科目名:卒業研究	担当者:全専任教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本科目は受講生による主体的な取り組みが必要です。各自で課題を設定し、関連する文献や資料を収集したり、フィールドワークを行ったりして、担当教員の指導のもとに研究を進めていきます。最終的には本文8000字以上の文章にまとめて提出します。

授業の到達目標
　社会で必要とされる力、すなわち自ら設定した課題について深く学び、問題点を見つけ出し、その解決のために必要なことなどを文章化することができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　所定の時間だけですぐれた内容の文章を書くことは難しいので、授業時間外にも各自で研究・調査や執筆を進める必要があります。
　また、執筆開始までにパソコンやワープロソフトの基本的な使い方を習得しておかなくてはなりません。

評価方法
卒業研究への取り組み状況（50%）、卒業研究の内容・完成度（50%）で評価します。

教科書	参考図書
担当教員から指示します。	担当教員から指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　良い卒業研究をまとめるためには、社会に対する問題意識や旺盛な好奇心が必要です。インターネット上の記事だけに頼ることなく、さまざまな書籍や新聞を読むことや多くの人々との出会いも貴重な機会となります。何事にも積極的に挑戦しましょう。

01	卒業研究とは何かを学ぶI
02	卒業研究とは何かを学ぶII
03	卒業研究とは何かを学ぶIII
04	卒業研究とは何かを学ぶIV
05	卒業研究とは何かを学ぶV
06	文章の書き方指導I
07	文章の書き方指導II
08	文章の書き方指導・個別指導I
09	文章の書き方指導・個別指導II
10	文章の書き方指導・グループワーク
11	調査研究の進め方I
12	調査研究の進め方II
13	調査研究の進め方III・実践
14	調査研究の進め方IV・個別指導
15	課題登録準備
16	課題登録
17	個別指導および文献収集I
18	個別指導および文献収集II
19	個別指導および文献収集III
20	途中経過報告会資料作成I
21	途中経過報告会資料作成II
22	途中経過報告会I
23	途中経過報告会II
24	要約集作成作業I
25	要約集作成作業II
26	要約集個別指導
27	卒業論文発表会準備I
28	卒業論文発表会準備II
29	卒業論文発表会準備III
30	卒業論文発表会（各ゼミごとに）
31	まとめ

2019年度シラバス

科目名:若者の心理	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】 岡崎国立共同研究機構生理学研究所勤務
この授業では、担当者の経験を活かして、具体的な心理学の実験手法や、実験データなどの紹介を含めて授業展開していく。そして若者の心理として、胎児の状態から青年にいたるまでの発達に触れながら、「心の探求」を目指す。感覚や記憶、感情、学習、遺伝と環境、個人と集団などを題材に、心理学における考え方や研究の成果を紹介していく。

授業の到達目標
(1) 新生児から青年期を中心に、人間の一生を通しての発達への理解を深める (2) 若者に限らず、人間一般の心理行動について知識を得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の内容を日常生活のいろいろな場面に当てはめて考えてみると、より理解ができる場合がある。

評価方法
授業へ取り組み姿勢(40%)、期末試験の得点(40%)、小テストなどの提出物の評価(20%)をもとに評価する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2年の前期は就職活動があり、エントリーシート作成などで「自分とは何か」を真剣に考えないと行けない時期でもある。授業内容を単に知識とするだけでなく、自分を振り返ってみる材料にしてほしい。

01	受講の注意点と講義内容について 心理学について ～ 心をどうやって調べるのか 人間の行動 ～ 自分の心は自分のものなのか 人間の行動 ～ 好き嫌いって？ 人間の行動 ～ 迷信をなぜ信じてしまうのか 記憶と学習 受講の注意点と講義内容について
02	心理学について ～ 心をどうやって調べるのか
03	自分の心は自分のものなのか
04	好き嫌いなどの感情が生まれてくるメカニズム
05	迷信や占いをなぜ信じてしまうのか
06	発達とは
07	記憶と学習
08	胎児期が人間に与える影響
09	乳幼児期の発達
10	感情の発達
11	コミュニケーション能力の発達
12	発達段階と発達課題
13	青年期の問題１
14	青年期の問題２
15	確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:社会心理学	担当者:矢澤　久史	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】スクールカウンセラー
　この授業では、社会心理学的な観点だけでなく、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、恋愛をはじめとする様々な人間関係における現象について臨床的な観点に立った視点でも検討する。
①社会心理学の研究について、日常生活に役立つように具体的な例を挙げながら、わかりやすく解説していく。②身の回りのちょっとしたところにいろいろな心理学が関係していることを実感しながら、。幅広い分野にわたる　知識を身につけ、より広い視野に立って物事を考えていくことができる思考力を身に付ける。③心理テスト（２回）、簡単な心理学実験（１回）、ＤＶＤ視聴（２回）により理解を深める。

授業の到達目標
　単純接触効果、認知的不協和理論、対人魅力、同調、役割演技、責任分散仮説などのこれまでになされた社会心理学の研究についての理解を深め、日常生活で人間関係をうまく形成するために社会心理学の知識を役立たせることができるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で興味を持った内容について関連図書を読んで、理解を深めること。

評価方法
定期試験の結果（８０％）＋各授業時の小レポート（２０％）

教科書 指定なし	参考図書 授業中に適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業の最後に授業の感想や疑問点などを小レポートにまとめて提出してもらう。

01	社会心理学に関する知識は？（事前調査）、初めてのデートではどこへ行く？（吊り橋効果）
02	あなたの恋愛のタイプはどれ？　情熱的タイプ？　友愛的タイプ？　利愛的タイプ？
03	好意と恋愛、何回も逢うと好意度は増す？遠距離恋愛は実らないことが多い？（単純接触効果）
04	親が恋愛に反対するほど恋が燃え上がる？（ロミオとジュリエット効果、認知的不協和理論）
05	赤い色を身に付けるとモテる？一目ぼれのタイプとは？（対人魅力①）
06	どのような告白が効果的？お酒を飲むと異性が魅力的に見える？（ビアゴーグル効果）
07	なぜ女性は男性の指が気になるのか？左右対称（シンメトリー）の効果とは？（性選択①）
08	外見的魅力、美人顔の特徴とは？みんなの顔を合成したら、どんな顔になる？（対人魅力②）
09	相貌失認、プロポーション10：７、高級車に乗っているとモテる？（性選択②）
10	皆が紅茶を注文すると、コーヒーが飲みたくても紅茶を注文してしまうのはなぜ？（同調①）
11	「みんながそう言っている」という時の「みんな」とは何人？（同調②）、嘘を見破るには？
12	囚人役と看守役に分けて模擬刑務所で生活させたら？（役割演技、ＤＶＤ映画「エス」視聴）
13	ウワサはどのように広がるの？（流言の伝達実験実習、ＤＶＤ「200X・うわさ」視聴）
14	大勢で仕事をすると手抜きをする人がいるのはなぜ？（責任分散仮説）
15	第一印象はどのようにして決まる？　確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:日本の文学	担当者:鶴田　武志	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
映画化されている日本の文学作品を扱い、原作と映画の双方に触れることで映像表現と文章表現との違いを知り、それぞれの技法や構成を考えます。講義としては3回で1作品。映画も実際に観てもらいます。

授業の到達目標
映像表現と文章表現との違いから、それぞれのメディアの特性を考えることを目指します。また、「日本の文学」が人間関係というテーマを、どのような表現技法、あるいは物語の構成で描いていたのかを論理的に考えてもらいます。最終的には、それらの表現構造に対する自身の考えを書けるようにします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
講義で扱う小説を1冊以上を完読してもらいます。読書感想文の課題を出します。

評価方法
テスト80%、課題+コメントシート（毎時間）20%

教科書	参考図書
適宜プリントを配布	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、コメントシートを書くことで自分の考えを的確に記述できるようにしていきましょう。またコメントシートに書いてもらった質問には次回講義の冒頭で答えていきます。

01	オリエンテーション。授業のテーマの概説。授業の進め方の説明。
02	谷崎潤一郎原作『春琴抄』（2008）の前半を観る。谷崎潤一郎の文学史的意義について解説。
03	谷崎潤一郎原作『春琴抄』（2008）の後半を観る。『春琴抄』についての概説。
04	原作『春琴抄』の表現技法について解説。2008年版以外の『春琴抄』映画との比較。
05	東野圭吾原作『手紙』（2006）の前半を観る。東野圭吾についての解説。
06	東野圭吾原作『手紙』（2006）の後半を観る。前回、感想の共有。
07	原作『手紙』の表現技法を解説。映像表現と文章表現の比較。
08	松本清張『ゼロの焦点』（1961）の前半を観る。松本清張の文学史的意義、東野圭吾との関係について。
09	松本清張『ゼロの焦点』（1961）の後半を観る。松本清張についての解説。
10	原作『ゼロの焦点』の表現技法を解説。映像表現と文章表現の違いの意味について解説。
11	恩田陸原作『夜のピクニック』（2006）の前半を観る。恩田陸についての解説。
12	恩田陸原作『夜のピクニック』（2006）の後半を観る。前半の感想の共有。
13	原作『夜のピクニック』の表現技法について解説。原作を映像化への工夫について解説。
14	恩田陸原作『夜のピクニック』関連作品の解説。
15	まとめ
16	テスト

2019年度シラバス

科目名:福祉スポーツ	担当者:寺田　恭子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
様々な障がいのある人たちの身体活動とスポーツに関する歴史的変遷および現状について学び、全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育んでいくためのスポーツと社会の在り方について理論と実践から学ぶ。

授業の到達目標
学生は、個々人の違いを認めた上で、“共にスポーツを楽しみ”“共に生きること”をスポーツを通して深く考える。またそのために必要な行動両力が身につくことを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　2020年のパラリンピックに関する情報をあらゆる角度から収集し、パラリンピックに関するディスカッションに積極的に参加できるよう準備をする。また事後学修については、新しい用語や制度などをノートに整理すること。

評価方法
　合計4回のミニレポートが10点満点×4回＝40点。障がいのある方との交流活動参加後のレポート課題20点満点。学期末テスト40点満点。以上の合計100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布する。	必要なときに提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
掲示板を毎回チェックすること。授業は実技あり。実技の際には動きやすい服装と体育館シューズを忘れないように。スポーツを実践している障がいのある方を外部講師としてお呼びする（初級指導資格関連）ので、その授業には必ず参加すること。

01	オリエンテーション　Adapted Sports について
02	障がい者スポーツとはなにか。障害者福祉施策からひも解く
03	障がい児・者とスポーツの意義と理念および歴史的変遷
04	パラリンピックの歴史と現状
05	スペシャルオリンピックスおよび様々な障がい者スポーツ
06	障がい者スポーツボランティア・全国障害者スポーツ大会他ボランティアの現状と志度者制度
07	重症心身障がい者とスポーツ　日常生活と心身に対する知識および理解
08	様々な身体と表現するカラダ　車いすダンススポーツ・シンクロナイズドスイミング他
09	ドキュメンタリー映画「マーダーボール」障がい者とスポーツを取り巻く環境について考える
10	障がい者スポーツの実践の前に　スポーツ環境と安全管理　個々の身体への対応
11	実践活動①視覚障がい者とスポーツ　　理解と補助/サウンドテーブルテニスの体験と講義
12	実践活動②パラリンピック正式種目　ボッチャの体験と講義
13	実践活動③高齢者のための身体活動　高齢者・知的障がい者対象　社交ダンスの体験
14	実践活動④車いすダンススポーツの体験　外部講師（障がいのあるダンスアスリート）と共に
15	2020年に向けての課題とパラリンピックスポーツのレガシーについて考える。テスト。
16	まとめ

2019年度シラバス

科目名:現代の福祉	担当者:横井　優子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　日本の福祉は、広義には社会福祉制度や公衆衛生、教育、雇用、環境政策等を含むものと理解され、狭義には福祉サービスの意味で使われることが多い。授業では、様々な福祉の対象について、それぞれ事例を用いて具体的に課題を考える。グループワークを２回程度取り入れ、自分たちの考えや意見を共有し発表する。

授業の到達目標
　高齢者、児童など、福祉の対象は様々だが、福祉が現代社会で生きる我々にとって、必要不可欠であることを理解する。また、自分たちがボランティアなど福祉の担い手として参加するという視点についても、目を向けることができるようになる。学生は、福祉が自分たちにとって身近なものとして理解し、自分もその担い手であるという視点を持てるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　それぞれの福祉分野について、自分達でも課題や現状などを調べる。　また、情報を共有した後で再度、理解が深められたかを復習する。

評価方法
　学習態度と授業後に実施する小レポート（50%）確認テスト（50%）

教科書	参考図書
資料を配布	授業時に紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問は、小レポートに記入してもらい、次の授業で返答する。

01	福祉の対象と必要性について
02	社会福祉の歴史と現在
03	児童福祉の現場から
04	少子化社会と子育て支援
05	子どもが育つ環境と保育
06	女性福祉
07	障がい者および障がい児福祉
08	高齢者福祉１　現状
09	高齢者福祉２　問題点
10	セーフティーネットについて
11	医療福祉
12	地域福祉
13	司法福祉
14	ボランティアと社会参加
15	授業のまとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:生活と医療	担当者:辻　英之	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
日常生活に存在する様々なリスクについて、ワークショップやグループ学習を通して実践的・具体的に学ぶ参加型の授業。秋のセミナーで訪問した長野県泰阜村で子供達の教育活動（自然体験・生活体験など）を実施するＮＰＯの代表理事が、実践から導き出された知見（生活のなかで必要な医療に関する基本的な知識や技能）を提示する。なお講師は救命法国際トレーナーでもあり、緊急事態の対応や予防安全の観点から専門的知見も提示する。

授業の到達目標
日常生活に存在するリスクをコントロールしつつ、心と身体を守りながら豊かな暮らしを送ることができる初歩的な知識や技術を身につける。本講義はとりわけ、こどもと大人のリスクを比較しながら学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
こどもを取り巻く生活環境や危険要因などについて、インターネットや新聞などマスメディアを通しての情報収集に努めること。

評価方法
授業への参加態度30%　各回ごとのコメントペーパーの内容30%　筆記試験40%

教科書	参考図書
信州のへき地山村から毎週通い、山村のリアルタイムの情報を伝える。また、ビジュアルな教材を使用する。　資格取得についての質問は随時受け付ける。講師の連絡先は授業で提示する。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
信州のへき地山村から毎週通い、山村のリアルタイムの情報を伝える。また、ビジュアルな教材を使用する。　資格取得についての質問は随時受け付ける。講師の連絡先は授業で提示する。

01	オリエンテーション。
02	「最初のリスク」の乗り越え方を、体験型ワークショップで理解する。
03	安全管理ワークショップを通して、子どもの体験活動におけるリスクの存在について理解する。
04	実際にあった死亡事故の判例検証・裁判員ワークショップを通して、リスクと責任を理解する。
05	保険の仕組みの概要と保険チェックを通して、リスクと責任を理解する。
06	危険予知トレーニング教材を使用した実習を通して、リスク予知能力向上の必要性を理解する。
07	屋外でのグループワークを通して、見えるリスク、聞くリスクなど、多様なリスクを理解する。
08	リスク軽減と予防について、予見と回避の２大原則を理解する。
09	グループ実習を通して、こどもと大人の特性の違いと、ファーストエイドのイロハを理解する。
10	救命率向上ワークショップを通して、日米の救命率の差を埋める方策を考える。
11	グループ実習を通して、緊急事態における「初動これだけは！」を理解する。
12	グループ実習を通して、大切な人・愛する人の万が一の対応を理解する。
13	グループ実習を通して、AEDの本来の機能（魔法の箱なのか？）と意義を理解する。
14	実習を通して、日常的な病気・ケガの際の初動を理解する。
15	授業で得られた成果をまとめ、全員で共有することを通して学びを深める。確認テスト。
16	なし

2019年度シラバス

科目名:いのちの科学	担当者:山下　玲香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、、学校保健の知見から、生命科学を日常生活で活用するための具体的な方策を学ぶ。また女子教育において必要な知識を身につけるだけでなく、自ら課題を発見し、発表に向け計画・準備を行い、他者へ伝える発信力を養う。

「いのち」とは、2つの生命の結合により発生するものであり、その連続が今日の自分にたどり着いた生命の歴史そのものである。ヒトが生まれて死ぬまでの人体の不思議や身の回りの生き物の生態など、生命科学の基礎を学び、理解を深める。

授業の到達目標
1）ヒトが生まれて死ぬまでの人体の不思議や身の回りの生き物の生態など、生命科学の基礎を理解する。2）授業のテーマについて自ら考え、意見を述べたりまとめたりする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1）興味のあるテーマについて、書籍やインターネットで調べる。2）提出された課題について、授業内で指定された方法で取り組む。

評価方法
1）確認テスト50%、平常点50%（出席状況、課題、授業への取り組み姿勢）の合計100点満点で評価する。2）授業中の迷惑行為（私語、飲食、化粧、スマホや携帯電話等の使用、遅刻、無断退出等）を行った場合は、平常点から減点する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1）授業には前向きな姿勢で取り組むことを期待しています。課題には真摯に打ち込み、グループワークは積極的に発言してください。2）授業中に配布された資料、書いたメモなどは全て1つのファイルに綴ってください。

01	オリエンテーション、いのちのはじまり：生命の誕生、自分の年表の作成
02	自分年表の発表：少人数で自分年表を紹介し合う
03	ヒトの体の不思議①：肘とあごはくっつかない！　指一本で立ち上がれない、腕相撲の角度
04	ヒトの体の不思議②：ヒトは視覚に頼っている！　ブラインド・ウォーキング、錯視、似顔絵
05	人体の構成：自分の体は何でできている？　骨と筋肉のはなし
06	動物の生態の不思議：睡眠、繁殖、食事
07	常在細菌：あなたの手はキレイ？
08	感染症：インフルエンザ
09	ヒトと病気：人間が病気と闘ってきた歴史
10	医療：医療に関連する仕事や職業と実態
11	情報リテラシー：情報の収集と活用方法、マインドマップの活用と実践
12	グループワーク①：調査活動をしよう　製作活動
13	グループワーク②：調査活動をしよう　制作活動
14	グループワーク③：発表会
15	まとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:女性と労働	担当者:伊藤　静香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本講義では、グローバル化や多様化が進む現代社会のさまざまな問題に、適切に対応する力を養うために、知識の習得にとどまらず、自ら考える力やコミュニケーション力を身に着けます。授業は「労働」をテーマに、講義だけでなく、プリント資料やDVDを活用して、すぐに役立つ実践的な内容で進めていきます。また、コメントシート記入（毎回）やグループワーク・グループ発表（1回）で自ら考える力を養います。
授業の到達目標 現代社会における働く女性の現状と課題を知り、学習を通して、一人ひとりが自分の人生に向き合あい、働く目的、目標を持つことができるようになる。労働に関する法律や制度を学び、雇用社会を生き抜く知恵を身に着けられるようになる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修：次回の授業で学習するテーマについて具体的な事例を考える事後学修：労働に関する記事や情報に関心を持ち、毎日1回は新聞やインターネットで労働に関連する記事や探し読み、自分なりの考えを持つ。　(準備学修、事後学修あわせて毎週4時間程度)
評価方法 ①授業への参加態度10%　②授業に出席した際に配布するコメントシートへの記入内容40%　③「女性と労働」に関するレポート50%

教科書	参考図書
特に指定はしません。	『働くときに知っておきたい労働関連法の基礎知識』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 社会に出ると、労働の問題には、誰もが一度は遭遇するでしょう。個人的な問題とせずに、社会的な視点で考えることも重要です。最初は、ぜひ自分のこととして考えてみましょう。

01	現代社会で女性が働くこと「自分こととして考えるために！」
02	働く女性のあゆみ「20年前、30年前、40年前の女性たちの働き方は？」
03	女性が働き続けるために「家事・育児、そして仕事もしたい！」
04	労働者を守る法律―労働基準法「残業ばかりで、休みがとれない？」
05	女性労働者を守る法律―男女雇用機会均等法「仕事は同じなのに男性ばかりが昇進？」
06	育児・介護をする労働者を守る法律―育児介護休業法「育休中、給料はもらえない？」
07	セクシュアル・ハラスメント「上司が性的発言をするので、気分が悪いのですが…」
08	賃金「女性社員の給料は、男性社員に比べると安いって本当？」
09	労働時間「今日は約束したデートの日。残業を断ってもだいじょうぶ？」
10	配置転換「3歳で病気がちな子どもがいるのに、突然、遠い支店に転勤に！」
11	解雇「遅刻を繰り返していたら、解雇された！」
12	パート・派遣労働「パート労働者なので、有給休暇を取れない？」
13	労働保険「仕事中にけがをしたときは？」「会社が倒産したとき、どうする？」
14	社会保険「高齢期！仕事ができなくなったときの生活保障は？」
15	職業生活と家庭生活の調和：ワーク・ライフ・バランス(グループワークと発表)
16	なし

2019年度シラバス

科目名:企業と会計	担当者:窪田　嵩哉	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
私たちの身の回りでは、沢山の企業が活動しています。会計は、それら企業の活動を「貨幣」という尺度で写し取り、財務諸表を通じて私たちに多くの情報をもたらしてくれるものです。この授業では、財務諸表を適切に読みとり、経営の良し悪しを判断するための、基本的な考え方を学びます。

授業の到達目標
①財務諸表を読んで、企業の安定性・収益性・成長性を判断できるようにようになります。
②大阪商工会議所主催「ビジネス会計検定試験3級」合格レベルの財務諸表分析の知識および会計学の基礎知識を得られることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①ニュースや新聞などで最新の企業の活動をチェックしてください。②身の回りの企業が、どうやってお金を稼ぎ、そのためにどんな支出をしているか、考えてみてください。

評価方法
小テスト：3回実施、各10点　中間レポート：30点　確認テスト：40点　合計：100点

教科書	参考図書
講義資料を配布予定	谷武幸・櫻井久勝　編著『１からの会計』中央経済社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は財務諸表の「読み方」を中心に学習します。もっと会計のことを知りたい、という皆さんは財務諸表の「作り方」を学ぶ簿記を並行して学習するとよいでしょう.

01	講義についての説明・会計情報の役割
02	会計制度と社会－会計が必要とされるのはなぜ？
03	重要な三つの財務諸表－貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書
04	貸借対照表Ⅰ－企業の財政状態を読み取る表
05	貸借対照表Ⅱ－企業の持つ資産とは
06	貸借対照表Ⅲ－企業の持つ負債・純資産とは
07	損益計算書Ⅰ－企業の経営成績を読み取る表
08	損益計算書Ⅱ－企業の儲けはどのように計算されるのか？
09	キャッシュフロー計算書－お金の出入りを読み取る表
10	安全性分析－倒産しない企業を見極める
11	収益性分析－儲かりそうな企業を見極める
12	成長性分析－将来性のある企業を見極める
13	ケース・スタディ①－実際の企業を分析してみよう
14	ケース・スタディ②－実際の企業を分析してみよう
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:事務管理	担当者:上野　真由美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代教養学科ディプロマポリシーの3.他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力について、ビジネスの分野では、事務的な職務に携わる者にビジネス文書が書ける能力を誰に対しても求めていることから、この授業ではオフィス事務の知識や実践的技能を習得する。ビジネス文書には一定の型や特有の言葉遣いがあり、それらを会得しビジネスの場に対応できる正確・迅速な文書を学ぶ。実践練習ではグループワークを行う。検定試験受験を視野に入れ授業を進める。

授業の到達目標
① 事務の役割を理解し、事務を合理的に処理する能力を養う。② ビジネス文書検定の合格を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から自分宛の対外的な手紙等に関心を持ち、一つひとつの言葉を注意深く読んでみる。そこから読み取れる言葉遣いなどの知識・技能を実社会において活用できるよう努めること。

評価方法
確認テスト・提出物（60%）、授業に対する意欲的な取り組み・参加態度（40%）を評価し総合的に行う。

教科書	参考図書
ビジネス文書検定受検受験ガイド3級　早稲田教育出版	ビジネス文書検定受験ガイド1・2級

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段：金曜1限後の休み時間講師控室

01	ガイダンス　授業の進め方と評価方法の確認
02	職場のルール・仕事の進め方
03	ビジネス文書の種類と役割
04	ビジネス文書の書式・用語
05	ビジネス文書の表現技能・伝言メモ
06	社内文書
07	議事録
08	社外文書
09	メールのルール
10	グループワーク　ビジネスでの言葉遣い・名刺
11	グループワーク　はがきと封筒の書き方
12	グループワーク　慶弔の取り扱い
13	グループワーク　慶弔の作成と実践
14	問題演習と解説
15	学習のまとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:生活経営	担当者:関根　美貴	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　この科目は「キャリア」ユニット内の専門教養科目の１つで、生活経営に関する専門教養を身に付けることができます。
　卒業後は社会人として、自分自身で主体的に生活を営むことが必要になります。この授業の前半では、そのために必要な基礎知識について経済的な側面を中心に学びます。後半では、これらの基礎知識を活かしながら将来のライフプランを実際に考えていきます。

授業の到達目標
　授業では、生活を営む上で必要な基礎知識についていろいろな例から学び、また自分自身の希望する将来を描きながら考察することで、卒業後の社会人としての生活を自分らしく主体的に営ために必要な能力を養うことを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　課題の報告などの発表の準備、レポート作成のほか、授業で興味を持った内容についてインターネット、新聞、雑誌、図書などから関連する情報を入手して、理解を深めてください。

評価方法
　中間に筆記試験を実施し、期末に課題を提出してもらいます。ほかに授業参加態度などを加味して評価します。（筆記試験30%、期末課題40%、授業への参加態度30%）

教科書	参考図書
なし（授業は配布するプリントに基づいて進めていきます。）	授業時間内に随時、紹介していく予定です。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講生の皆さんの授業への積極的な取り組みを望みます。

01	ガイダンス　あなたが望む自分の将来とはどのようなものですか？
02	家計について考えてみよう
03	収入と所得税の基礎知識
04	ビッグイベントとその費用
05	預貯金の基礎知識（１）
06	預貯金の基礎知識（２）
07	住宅ローンの基礎知識（１）
08	住宅ローンの基礎知識（２）
09	これまでのまとめ
10	ライフプランの基礎知識（１）
11	ライフプランの基礎知識（２）
12	自分のライフプランを立ててみよう（１）
13	自分のライフプランを立ててみよう（２）
14	みんなのライフプランを比較してみよう（１）
15	みんなのライフプランを比較してみよう（２）
16	

2019年度シラバス

科目名:秘書実務	担当者:吉田　智美,加藤　洋美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、秘書だけでなくあらゆる業種や職種において必要とされるビジネス実務のマナー、ルールを理解する。グループディスカッション（全2回）、グループワーク（全４回）やインバスケット（全7回）を行い、知識を理解し、臨機応変に応用できる力を修得する。社会でより良い人間関係を構築するために、コミュニケーションに必要な知識を学ぶ。

授業の到達目標
前半では、ビジネスにおいて必要とされる言葉遣い、電話応対、来客応対などの仕事の基本的な進め方を理解することを目標とする。後半ではインバスケットを行い、ビジネススキルの応用力を磨き、卒業後の社会生活に対応できるよう知識を身に付ける。さらに、秘書検定2級、準1級の取得を目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会の出来事について、興味をもって新聞やニュースを見て理解すること。事前課題、事後課題、復習、試験対策などでおおよそ30時間程度の予習復習を要する。具体的な内容は授業中に指示する。2～３回（事後）授業で学んだ内容を意識しながら、普段の生活でのコミュニケーションスキル振り返り、より良いコミュニケーションができるよう対応する（4時間）。4～10回（事後・事前）普段使用する言葉（アルバイトなど）や電話応対を振り返り、疑問点を出し、正しい言葉遣いで対応する（4時間）11～14回(事後）接遇での知識をアルバイトや、自分が客になった場合に対応する（4時間）15回（事前）確認テストの勉強　16～21回（事後）授業内容をまとめる（4時間）23～30（事前・事後）忘れていた箇所をまとめる（4時間）

評価方法
授業への参加態度30%　実技・提出課題30%　確認テスト40%

教科書	参考図書
『ビジネスマナー・文書・実務の基礎知識』	授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業後の社会人生活を意識しながら授業に参加してほしい。

01	学習の目的と進め方について　グループディスカッション
02	必要とされるコミュニケーション①聴き方　グループワーク
03	必要とされるコミュニケーション②伝え方　グループワーク
04	言葉遣い①　敬語について
05	言葉遣い②　接遇用語
06	言葉遣い③　状況対応
07	電話応対①　求められるマナー
08	電話応対②　かけ方について
09	電話応対③　受け方について
10	電話応対④　状況対応について　ケーススタディ、グループワーク
11	来客応対①　心構えについて
12	来客応対②　名刺交換、案内、グループワーク
13	来客応対③　席次、茶菓のマナー、見送り
14	来客応対④　状況対応
15	前半のまとめと確認テスト
16	慶弔のマナー①　慶事のマナー
17	慶弔のマナー②　弔辞のマナー
18	慶弔のマナー③　贈り物のマナー
19	ビジネス文書①　社内文書
20	ビジネス文書②　社外文書
21	ビジネス文書③　はがき、封筒の書き方
22	食事のマナー　和食、洋食、立食など　グループディスカッション
23	インバスケット１　仕事の優先順位について
24	インバスケット２　社外文書・社内文書復習
25	インバスケット３　電話応対復習
26	インバスケット４　慶弔の取り扱い復習
27	インバスケット５　出張業務
28	インバスケット６　ファイリング
29	インバスケット７　報告、連絡、相談について
30	まとめ、確認テスト

31	なし

2019年度シラバス

科目名:Ｅｘｃｅｌプログラミング	担当者:木下　博光	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 企業において幅広く活用されている表計算ソフトウェアExcelの基本関数を学び、実戦に近い練習問題をすることで、具体的な問題解決にチャレンジし、知っている関数から、使える関数にしていきます。
授業の到達目標 企業などにおいて即戦力としてエクセルが使えるように、より実務的な機能を習得することを目的とします。基礎で学んだものをベースに、複合関数の使い方を学んでいく。知っている関数ではなく、使える関数40個を目指す。製作者以外の人が、まちがいなく使いやすい入力方法やレイアウトを習得する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 日常生活で困ったことをメモに残し、エクセルを使用して効率のよい方法を考える。
評価方法 授業への参加態度50％　随時提出ファイル50％により評価する。

教科書	参考図書
随時プリント配布	ビジネスExcel 完全版　出版社: 日経BP社　ISBN-10: 4822258459

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 複合関数を使い１セル内で結果が出せるように、がんばってみましょう。

01	ガイダンス、複合関数体験
02	エクセル基礎の確認 1　基本的な操作、ファイル形式と保存方法 エクセル基礎の確認 1　基本的な操作とファイル保存形式と方法
03	エクセル基礎の確認 2　基本的な関数　SUM・AVERAGE・IF・VLOOKUP
04	IF関数のマスター　ネスト処理　NOTとAND
05	VLOOKUP　完全一致と近似値のちがい、エラー表示をなくそう
06	INDEXとMATCHで送料を求めよう
07	INTで金種計算と四捨五入
08	WEEKDAY で日曜日を赤色表示
09	リスト入力　動的変化するリストで簡単入力
10	ROWとCOLUMN で消えない行番号表示
11	文字列を制御 LEFT・MID・RIGHT
12	時間を制御 TIME・HOUR・MINUTE・NOW　給与計算にチャレンジ
13	日付を制御 DATE・YEAR・MONTH・DAY・TODAY　スケジュール帳作成
14	総合問題
15	総合質問・復習
16	

2019年度シラバス

科目名:応用Ｅｘｃｅｌプログラミング	担当者:木下　博光	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
エクセル攻略！。VBA (Visual Basic for Application) を使用し、エクセルの可能性にチャレンジしながら学びます。より多くの例題、企業でのエクセル使用例やサンプルプログラム作成を行うことで、VBAの使い方を身に付けます。関数ではできない高度な処理が可能になり利用範囲が広い。

授業の到達目標
サンプルプログラムを作成をすることでコマンドの基本、プログラミングの流れを学び、VBA基礎知識の習得を目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
時間内に完成しなかった課題は次の演習までに完成しておくこと。

評価方法
授業への参加態度50%　作成したスケジュール帳50%で評価する。

教科書	参考図書
随時プリント配布	授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分で使いたい、他人が使ってみたいと思うような作品をつくることが必要。

01	ガイダンス、ＶＢＡ体験　マクロとVBAの違い
02	ＶＢＡ基本操作方法の実習　エディタの使い方　デバッグとエラー処理
03	ＶＢＡの基礎実習　コントロールの使用法　ラベル、ボタン、テキストボックス、フォーム
04	ＶＢＡの基礎実習　簡単なプログラムをつくってみよう 1　変数、データ型、代入
05	ＶＢＡの基礎実習　簡単なプログラムをつくってみよう 2　セルとワークシートの操作
06	ＶＢＡの基礎実習　簡単なプログラムをつくってみよう 3　動的配列、配列の演算
07	ＶＢＡの基礎実習　簡単なプログラムをつくってみよう 4　ループ処理For文、While文
08	ＶＢＡの基礎実習　簡単なプログラムをつくってみよう 5　文字列の操作
09	スケジュール帳を作ってみよう 1
10	スケジュール帳を作ってみよう 2
11	スケジュール帳を作ってみよう 3
12	スケジュール帳を作ってみよう 4　提出
13	エクセルの復習　関数
14	Windowsの基本操作の復習
15	パソコン全体について復習
16	

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化Ⅱ	担当者:李　正子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
これからの時代は、外国人との共生が必要となる。このような時代や社会環境の変化に対して的確に対応するためにも、英語以外の外国語習得、特にアジア言語の習得は必須であると思われる。また、より広い視野に立って物事を考えるためにも他国の言語や文化を学ぶことは有意義である。韓国語と韓国文化２では、上記の内容を念頭におき、中級レベルの韓国語の文法と会話、文化について理解を深める。

授業の到達目標
韓国語と韓国文化１ですでに学んだ文法をもとに、同じ教科書の続きを学ぶ。教科書終了後には、Kポップの歌詞、映画などを教材として学び、その内容とその背景にある文化、思考方式を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学習：前の週に配られたテキストの単語を調べ、読み込んでおく。
事後学習：その日に学んだ単語を覚え、テキストとともに覚える。

評価方法
授業への参加態度：30%、確認テスト（4回）：50%、課題・提出物：20%

教科書	参考図書
その都度、担当教員がテキストを配布	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
好奇心、興味をもって授業に臨むこと。日常生活において、韓国の音楽、ドラマ、映画はもちろん、それだけでなく、SNSのやりとりもハングルでチャレンジするなど、いろいろなところで韓国語に触れてほしい。

01	授業の説明、導入
02	ウォーミングアップ１　합니다体と助詞
03	ウォーミングアップ２　해요体
04	会話編　第８課（１）固有数詞と助数詞
05	会話編　第８課（２）何時から何時まで、名詞の丁寧語表現 ㄹ
06	会話編　第９課（１）過去形１
07	会話編　第９課（２）過去形２、時に関する言葉
08	まとめと確認テスト
09	文化体験　映画鑑賞
10	会話編　第１０課　尊敬語、～く見える、～のように見える
11	会話編　第１１課　～したい、～してみる、（人・動物）に/から
12	まとめと小テスト、文化講義「韓国の食事マナー」
13	会話編　第１２課　理由、意志・推量、まだ～していません
14	会話編　第１３課　尊敬の過去形、助詞の尊敬形
15	まとめと確認テスト
16	ウォーミングアップ　過去形、尊敬形
17	会話編　第１４課　条件、理由、勧誘
18	会話編　第１５課　意志・意向、逆説、許可
19	まとめと小テスト、文化講義「韓国の結婚式」
20	会話編　第１６課　意図、丁寧な依頼、助言
21	会話編　第１７課　으変則活用、不可能、理由原因
22	確認テスト
23	Ｋ－ｐｏｐ編１　Gee
24	Ｋ－ｐｏｐ編２　내가 제일 잘나가
25	Ｋ－ｐｏｐ編３　나 혼자
26	まとめと小テスト　文化講義「韓国の祝日、記念日」
27	映像編１　イルマーレ
28	映像編２　JSA
29	映像編３　私たちの幸せな時間
30	確認テスト
31	

科目名:中国語と中国文化Ⅱ	担当者:張　書 涵	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:中国語と中国語文化Ⅰを履修した者		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　授業では、一年生で学んだ基礎的な語彙や文法を用いながら、平均１課２回のペースで発音練習や文法事項の確認、会話発表の流れで進めていく。毎回グループ会話発表を通して定着を図り、また必要に従い、授業の補助手段として音声教材、視覚教材などを使って行い、更に中国の食文化、観光名所および若者の生活などについても理解を深めていく。

授業の到達目標
　既習した単語や文法などを活用しながら、日常の簡単な会話などの表現ができるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業は演習を中心とするため、添付のＣＤを十分に利用し、授業中に出された課題や予習、復習をしっかりと行い、授業に取り組んでください。

評価方法
　授業で会話発表や参加状況20%、テスト80%

教科書	参考図書
「実学実用初級中国語」陳　淑梅・劉光赤　著　朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日々の積み重ねが大切なので、積極的な授業への参加を望みます。メールなどで連絡手段とする。

01	ガイダンスと復習
02	第11課　交番で道を尋ねる
03	第11課　ドリルの練習と会話①
04	第12課　今年はいくつ？
05	第12課　ドリルの練習と会話②
06	文化体験　映画鑑賞
07	第13課　毎日何時に起きますか？
08	第13課　ドリルの練習と会話③
09	第14課　セールでの買い物
10	第14課　ドリルの練習と会話④
11	現代中国の紹介
12	第15課　歴史記念館で
13	第15課　ドリルの練習と会話⑤
14	前期のまとめ
15	確認テスト
16	前期の復習（第11課～第15課）
17	第16課　テニスに誘う
18	第16課　ドリルの練習と会話⑥
19	第17課　バトミントンを楽しんだ後
20	第17課　ドリルの練習と会話⑦
21	食文化体験
22	第18課　中国語が聞き取れなくて
23	第18課　ドリルの練習と会話⑧
24	第19課　今何をしているの？
25	第19課　ドリルの練習と会話⑨
26	現代中国の紹介
27	第20課　引っ越し
28	第20課　ドリルの練習と会話⑩
29	後期のまとめ
30	確認テスト
31	なし

2019年度シラバス

科目名:アジアの社会と文化	担当者:都　恩珍	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: 特になし		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
本科目での学びは幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力を身につけるための学びです。アジアの中でも、とりわけ韓国と日本に焦点をしぼり（１）韓国の最新トレンドを中心に取り上げ、両国の違いが何かを理解し、その上で（２）両国の抱えている問題が何か、解決に向けて両国はどうしているかについて学びます。授業では最初に指定のトピックについて各自が事前に調べた内容をグループで確認してから教員の講義を始めます。

授業の到達目標
次を目標とします。
（１）韓国の社会・文化を理解すると同時に、自国の文化について改めて理解を深める。
（２）日韓問題を理解することの意義について考える。
（３）アジアの国々の関連性について学ぶ。
（４）日本と韓国の過去・現在・未来について自分なりの視点を持つ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：毎週のトピックについて各自が文献、雑誌、ネットなどを利用して調べる（約２時間）。
事後学修：授業中にグループで確認しあった内容および講義内容を総合的に理解し、授業ノートを完成（約2時間）。
＊オリジナルの授業ノートは授業の最初の時間に配布します。

評価方法
事前調査20%　　グループ活動20%　　授業ノート20%　　期末レポート40%

教科書	参考図書
オリジナル資料	『新版日韓の文化比較と日韓問題ーよりよいに日韓関係を築くためにー』梁禮先　朝日出版社　2018年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自身の視点をもって取り組みましょう。連絡方法は授業中に提示します。
諸事情により授業内容を変更することがあります。オフィスアワー：水曜日2限

01	ガイダンス、似ているようで違う日本と韓国
02	日韓比較（１）自衛隊と国軍
03	日韓比較（２）教育制度
04	日韓比較（３）アイドル・韓流・日流
05	日韓比較（４）ファッション・化粧品・整形手術
06	日韓比較（５）食べ物
07	日韓比較（６）年中行事・宗教
08	日韓比較（７）産業
09	日韓問題（１）日本の中の韓国文化、韓国の中の日本文化
10	日韓問題（２）教科書問題
11	日韓問題（３）靖国神社問題
12	日韓問題（４）従軍慰安婦問題
13	日韓問題（５）領土問題
14	日韓問題（６）在日朝鮮人問題
15	まとめ…日本と韓国の未来について
16	なし

2019年度シラバス

科目名:国際社会と日本	担当者:櫻井 雅俊	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
授業は講義形式で進められる。「アジア太平洋と日本」をテーマに、①アジア太平洋地域を支える政治・経済のしくみと②その中での日本・アメリカ・中国・東南アジア関係のあり方について歴史的に遡り学んでいく。各回終わりに、講義のポイントについて問いが示されるので、カードに解答を記入し提出することが求められる。誤答が目立つ箇所は次回講義冒頭で補足解説される。

授業の到達目標
この授業を通して、日本がアジア太平洋地域において現在抱える政治・経済の課題が何か、それらがどのような歴史的背景の下で生じたのか、について基本的な知識を得る。その上でアジア太平洋地域における今後の日本のあり方を展望する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞に目を通す習慣をつけてほしい。毎日30分、授業内容と関連する記事を中心にチェックするように。（「新聞の読み方」については後で詳しく授業で学ぶことになる。）

評価方法
①授業への参画態度（40%）　②確認テスト（60%）

教科書	参考図書
使用しない。	各回ごとに紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特になし

01	ガイダンス
02	アメリカの世紀
03	近代日本の膨張1
04	近代日本の膨張2
05	新聞の読み方
06	戦後アメリカの地域構想
07	戦後日本外交とアジア太平洋
08	第1回論述テスト／これまでの補足
09	アジア太平洋の確立1　開発独裁
10	アジア太平洋の確立2　雁行型経済発展
11	アジア太平洋の確立3　中国の統合
12	21世紀のアジア太平洋1　不安定化する地域秩序
13	21世紀のアジア太平洋2　日米の対応
14	21世紀のアジア太平洋3　東南アジアのポテンシャル
15	第2回論述テスト／授業全体の振り返り
16	なし

2019年度シラバス

科目名:地域文化研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
世界には多様な文化、習慣が存在します。それらと接することで私たちは新たな視点が芽生え、創造的なアイデアを生み出す源になることもあります。映像を駆使して、世界を旅行する感覚で学びます。文化と地域による違いを「旅」しながら考えます。

授業の到達目標
本講義では様々な地域文化を知ると共にその背景を学ぶことにより、多面的な視野と発想力を身につける一助になることを目指します。なお、明るい表の面だけでなく社会の影の面も合わせ考え、国際社会における地域文化の理解をバランスよくできるように学ぶものとします。真面目に勉強する姿勢で学んだ方は、大きく視野が広がることでしょう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段からテレビのニュース、新聞に目を通すようにする。近場の土地でも始めて行った場所であるならば、その地の文化的背景が何かを考えるように意識付けすることが重要です。

評価方法
授業への参加姿勢30%　授業内レポート30%　期末レポート40%　なお、私語等､授業を妨げる言動や行動があった場合は出席として扱いません。『履修の手引き』にあるように、3分の1以上を欠席した場合は単位が認められません。

教科書	参考図書 図書館の教員指定図書(高橋)に目を通しましょう。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外のみならず、国内の地域文化も扱います。受講者は日々の日常生活にある地域文化を意識ながらこの授業を履修すると地域文化がより身近な存在となるでしょう。

01	授業概要　　(以下の講義は順番が入れ替わる場合があります)
02	地域文化を学ぶことで重要なポイント1　・深夜特急ツアー 東アジア編
03	地域文化を学ぶことで重要なポイント2　・深夜特急ツアー 東南アジア編1
04	地域文化を学ぶことで重要なポイント3　・深夜特急ツアー 東南アジア編2
05	東南アジアの地理と地域文化　　・深夜特急ツアー 南アジア編1
06	地域文化の衝突 ・アフリカと地域紛争
07	タイ仏教に見る出家の社会的・文化的価値観とその背景
08	インドを知る ・深夜特急ツアー 南アジア編2
09	地域文化を映像の観点から学ぶ
10	イスラム教とイスラム文化
11	地域文化による死生観の違い
12	西アジア文化 〜 パキスタン・イラン　・深夜特急ツアー 西アジア編
13	西洋文化 その考え方の一端
14	深夜特急ツアー ヨーロッパ編
15	まとめ　　まとめのレポート提出
16	

2019年度シラバス

科目名:観光と地理	担当者:辻　のぞみ	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、全世界の人々にとって共通の財産であり未来へ引き継ぐべき「世界遺産」を中心に学びます。また、世界遺産の価値が自然、歴史、文化、産業などさまざまな要素から成り立っていることを理解します。世界遺産検定3級のテキストに沿って学習するほか、学生による発表も行います。また、学外研修により地元にある「桶狭間の戦い」の歴史観光資源についての理解も深めます。

授業の到達目標
世界遺産検定３級程度の知識の習得を目指します。学内で実施予定の同検定を受検し、形になる成果を残しましょう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
世界遺産検定用のテキストを予習復習に活用しましょう。過去問題に取り組んで、検定に備えましょう。

評価方法
授業参加度、積極性及び授業時の提出物40%、発表、ミニテスト及び確認テスト、学外研修レポート60%

教科書	参考図書
「きほんを学ぶ世界遺産100」（監修、発行所：NPO法人世界遺産アカデミー、発売元：株式会社マイナビ）　その他随時プリントを配布します。	中学・高校時代の、日本と世界の地図帳があると役立ちます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段はメール及び研究室

01	世界遺産検定イントロダクション
02	世界遺産の基礎知識
03	テーマ別日本と世界の世界遺産①
04	テーマ別日本と世界の世界遺産②
05	テーマ別日本と世界の世界遺産③
06	テーマ別日本と世界の世界遺産④
07	テーマ別日本と世界の世界遺産⑤、発表①
08	テーマ別日本と世界の世界遺産⑥、発表②
09	テーマ別日本と世界の世界遺産⑦、発表③
10	世界遺産検定対策講座
11	世界遺産検定模擬テスト
12	世界遺産発表④
13	学外研修予習
14	学外研修（予定）
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:フランス語とフランス文化Ⅱ	担当者:伊奈　友梨子,内田　智秀	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、「フランス語とフランス文化I」で学んだことを応用しながら、フランス語の基本表現や会話表現を学び、他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力を養うことに貢献します。
授業ではフランス語だけでなく、フランスの文化や歴史にも触れる機会を設けます。

授業の到達目標
1.　フランス語の単語を正しく読めるようになること。
2.　基本表現を用いてフランス語で簡単な会話ができるようになること。
3.　フランスの文化、歴史を理解すること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の復習をきちんと行うこと。特に単語や会話表現をしっかり覚えるように意識して学習してください。

評価方法
定期試験50％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度25％（会話練習など）、総合的に評価します。

教科書	参考図書
「新イコノス」、松本伊瑳子・内田智秀・下村武著、トレフル出版（TréFLE）	トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業にきちんと参加し、各自復習を実施してください。質問は授業前後に受け付けます。

01	Leçon1（主語の代名詞、動詞être、職業・国籍を表す単語）
02	Leçon2（名詞の性と数、冠詞、エリジオン）
03	Leçon3（第1群規則動詞、疑問文の作り方）
04	Leçon3（倒置の疑問文、練習問題）
05	フランスの文化①（フランスの世界遺産ーヴェルサイユ宮殿）
06	Leçon1～3の復習
07	Leçon4（動詞avoir、否定文、数字、時の表現）
08	Leçon4（疑問文の答え方、練習問題）
09	Leçon5（形容詞、数字）
10	Leçon5（特別な形容詞、練習問題）
11	フランスの文化②（フランスの世界遺産ーモン・サン・ミシェル）
12	Leçon4～5の復習
13	Leçon6（第2群規則動詞、指示形容詞、所有形容詞）
14	Leçon6（疑問副詞、練習問題）
15	前期のまとめと確認テスト
16	前期の復習
17	Leçon7（疑問形容詞、非人称構文）
18	Leçon7（動詞pouvoir、練習問題）
19	フランスの文化③（音楽）
20	Leçon6～7の復習
21	Leçon8（動詞aller、〈à+定冠詞〉の縮約、近接未来）
22	Leçon8（動詞vouloir、練習問題）
23	Leçon9（動詞venir、〈de+定冠詞〉の縮約、近接過去）
24	Leçon9（命令形、練習問題）
25	フランスの文化④（映画）
26	Leçon10（過去分詞、複合過去）
27	Leçon10（複合過去の否定形と疑問形）
28	Leçon10（動詞voir と prendre）
29	Leçon8～10の復習
30	まとめと確認テスト
31	なし

科目名:英語と英米文化ⅡＡ	担当者:高橋　妙子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: １年時に英語の授業を受講していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業を２部構成にし、前半はテキストを用いて英米文化を学び、Listening のコツを掴む練習やペアワークなどで会話の練習をします。後半は、欧米のビデオ（映画、海外ドラマなど）を見たり、洋楽を聞いていろいろなActivity にチャレンジします。

授業の到達目標
実際に使われている英語に触れ、シチュエーションや文化的背景を理解しながら、「使える英語」を聞き取り、内容を理解し、さらに使いこなす力を身につけていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。スマートフォンなどで音声をDLして聞くことができるので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Quiz = 40 %　　Activity (Pair Work & Group Work) = 10 %　　Review Test (Mid & Final) = 50 %

教科書	参考図書
Breakthrough PLUS 1 2nd Edition Miles Craven著 Macmillan	授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK)

01	Orientation
02	Unit 1 : Introductions (simple present & Yes/No questions)
03	Unit 1 : Introductions : Skills expansion
04	Unit 2 : What a life! (simple present & Wh-questions)
05	Unit 2 : What a life! : Skills expansion
06	Unit 3 : Free time (can/can't for ability)
07	Unit 3 : Free time : Skills expansion
08	Review Unit1-3
09	Unit 4 : Places (there is/are & can/can't for possibility)
10	Unit 4 : Places : Skills expansion
11	Unit 5 : Getting around (asking for & giving directions)
12	Unit 5 : Getting around : Skills expansion
13	Unit 6: Shopping (How much questions)
14	Unit 6: Shopping : Skills expansion
15	Review Unit4-6
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語と英米文化ⅡＢ	担当者:高橋　妙子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: １年時に英語の授業を受講していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業を２部構成にし、前半はテキストを用いて英米文化を学び、Listening のコツを掴む練習やペアワークなどで会話の練習をします。後半は、欧米のビデオ（映画、海外ドラマなど）を見たり、洋楽を聞いていろいろなActivity にチャレンジします。

授業の到達目標
実際に使われている英語に触れ、シチュエーションや文化的背景を理解しながら、「使える英語」を聞き取り、内容を理解し、さらに使いこなす力を身につけていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。スマートフォンなどで音声をDLして聞くことができるので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Quiz = 40 %　　Activity (Pair Work & Group Work) = 10 %　　Review Test (Mid & Final) = 50 %

教科書	参考図書
Breakthrough PLUS 1 2nd Edition Miles Craven著 Macmillan	授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK）。

01	Orientation
02	Unit 7 : What’s happening? (present continuous & affirmative/negative questions)
03	Unit 7 : What’s happening? : Skills expansion
04	Unit 8 : People (be like & look like)
05	Unit 8 : People : Skills expansion
06	Unit 9 : Having fun (present continuous for plans & making invitations)
07	Unit 9 : Having fun : Skills expansion
08	Review
09	Unit 10 : Vacation (simple past affirmative/negative time expressions)
10	Unit 10 : Vacation : Skills expansion
11	Unit 11 : Life stories (simple past questions & Wh-questions)
12	Unit 11 : Life stories : Skills expansion
13	Unit 12: Hopes and intentions (going go for intentions & want to/would like to)
14	Unit 12: Hopes and intentions : Skills expansion
15	Review
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英会話ⅡA	担当者:Seth William Wallace	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
英会話IIA is an elective course for second year students in the Liberal Arts Department.
The aim of this course is to enable students to provide basic information about themselves in English.
Also, students will learn conversation for survival in environments outside Japan.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course students can:
1. Communicate in English with confidence, 自信をもって英語で話せるようになります。
2. Understand more spoken English through improved listening skills, 英語の聴解力を高められます。
3. Speak with a strong command of grammatical accuracy, 英語を文法的に正しく話せるようになります。
4. Express themselves by using key conversational phrases, 英会話上の重要表現を使えるようになります。
5. Survive with confidence in English speaking environments. 英語が話されている場所でも、自信をもって生きていけるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to review the vocabulary learnt in every lesson and practice conversations with their classmates outside class. They need to talk a lot inside and outside the classroom.

評価方法
Classwork/Preparation/Participation (30%), Quizzes/Assignments (30%),Mid-semester Speaking Check (20%), Final Speaking Check (20%)

教科書	参考図書
Nice Talking With You 1 (Cambridge)	Please bring pen or pencil, notebook, textbook and dictionary to each class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Don't forget to bring your textbook and all your handouts to each class.
Participate actively in all activities.
Do all assigned homework on time and review what you study in class.
Finally, do your best and have fun using English with your teacher and classmates.

01	Course introduction, explanation of course goals and expectations.
02	Nice Talking With You 1 Unit 1 part 1: Introduction
03	Nice Talking With You 1 Unit 1 part 2: Introduction
04	Nice Talking With You 1 Unit 2 part 1: Family
05	Nice Talking With You 1 Unit 2 part 2: Family
06	Nice Talking With You 1 Unit 3 part 1: Shopping
07	Nice Talking With You 1 Unit 3 part 2: Shopping
08	Review of Units 1 to 3: Speaking Check 1
09	Nice Talking With You 1 Unit 4 part 1: Food
10	Nice Talking With You 1 Unit 4 part 2: Food
11	Nice Talking With You 1 Unit 5 part 1: Music
12	Nice Talking With You 1 Unit 5 part 2: Music
13	Nice Talking With You 1 Unit 6 part 1: Free Time
14	Nice Talking With You 1 Unit 6 part 2: Free Time
15	Review of Units 1 to 6: Speaking Check 2
16	None

2019年度シラバス

科目名:英会話ⅡB	担当者:Seth William Wallace	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
英会話IIB is an elective course for second year students in the Liberal Arts Department.
The aim of this course is to enable students to provide basic information about themselves in English.
Also, students will learn conversation for survival in environments outside Japan.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course students can:
1. Communicate in English with confidence, 自信をもって英語で話せるようになります。
2. Understand more spoken English through improved listening skills, 英語の聴解力を高められます。
3. Speak with a strong command of grammatical accuracy, 英語を文法的に正しく話せるようになります。
4. Express themselves by using key conversational phrases, 英会話上の重要表現を使えるようになります。
5. Survive with confidence in English speaking environments. 英語が話されている場所でも、自信をもって生きていけるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to review the vocabulary learnt in every lesson and practice conversations with their classmates outside class. They need to talk a lot inside and outside the classroom.

評価方法
Classwork/Preparation/Participation (30%), Quizzes/Assignments (30%),Mid-semester Speaking Check (20%), Final Speaking Check (20%)

教科書	参考図書
Nice Talking With You 1 (Cambridge)	Please bring pen or pencil, notebook, textbook and dictionary to each class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Don't forget to bring your textbook and all your handouts to each class.
Participate actively in all activities.
Do all assigned homework on time and review what you study in class.
Finally, do your best and have fun using English with your teacher and classmates.

01	Course introduction, explanation of course goals and expectations.
02	Nice Talking With You 1 Unit 7 part 1: Travel
03	Nice Talking With You 1 Unit 7 part 2: Travel
04	Nice Talking With You 1 Unit 8 part 1: Sports
05	Nice Talking With You 1 Unit 8 part 2: Sports
06	Nice Talking With You 1 Unit 9 part 1: Friends
07	Nice Talking With You 1 Unit 9 part 2: Friends
08	Review of Units 7 to 9: Speaking Check 1
09	Nice Talking With You 1 Unit 10 part 1: Work
10	Nice Talking With You 1 Unit 10 part 2: Work
11	Nice Talking With You 1 Unit 11 part 1: Movies
12	Nice Talking With You 1 Unit 11 part 2: Movies
13	Nice Talking With You 1 Unit 12 part 1: Personal Tech
14	Nice Talking With You 1 Unit 12 part 2: Personal Tech
15	Review of Units 7 to 12: Speaking Check 2
16	None

2019年度シラバス

科目名:ウェブ・コミュニケーション	担当者:高谷　邦彦	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 情報のデジタル化が進んで急激に変化している社会の「今」を、特にウェブで起きている技術やサービスの変化、そしてSNSの普及とコミュニケーションの変化に注目しながら解説します。
授業の到達目標 ウェブのさまざまなサービスを利用する際に必要となるリテラシー（知識や経験）を身につけることを目標とします。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 講義の中で紹介するインターネットのいろいろなサービスについては、興味があれば自分でも試してみるようにしてください。
評価方法 出席状況（ミニレポートの提出状況）30%、確認テスト70%

教科書	参考図書
なし（必要に応じて参考サイト等を指示します）	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ウェブの最新動向（新しいサービスの登場やネット上の事件など）によって、講義の内容が変わることがあります。

01	オリエンテーション　～ 情報社会とは何か
02	今ウェブで何が起きているのか
03	メディアとは何か　～ 電話というメディア
04	もうテレビはいらない？　～ マス・メディア時代の終わり
05	YouTube vs ニコニコ動画（１）
06	YouTube vs ニコニコ動画（２）
07	新しい動画視聴のスタイル ～ ニコ生、AbemaTV、ネット動画配信サービス
08	SNSの光と影
09	ツイッターの可能性
10	「インスタ映え」現象を考える
11	初音ミクの正体
12	震災とソーシャルメディア
13	ソーシャルメディア事件簿 ～ ウェブで身を守るために
14	コミュニケーション・デザインとは何か
15	ウェブのコミュニケーション ～ 確認テストと全体のまとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:ウェブデザイン	担当者:岩佐　孝子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 ウェブページをデザインする際に必要となる、HTMLやCSSのコーディングについて実践的に行い、自らページを制作してその仕組みを学ぶ。
授業の到達目標 普段から日常的に閲覧・利用しているウェブページの仕組みや原理について理解し、HTMLやCSSを用いてウェブページをデザインすることができるようになる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 昨今のウェブページの傾向や自分がよく利用しているウェブページを、「デザイン」や「構成」、「利用し易さ」という観点から意識して閲覧してみる。
評価方法 授業への参加態度50%　提出課題50%によって総合的に評価する。

教科書 適宜プリント配布	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡先は授業で開示する。データ保存用にUSBメモリを用意すること。

01	ウェブサイトのしくみと作成手順
02	コーディングとマークアップ言語
03	HTMLの基礎知識
04	HTMLの実習
05	CSSの基礎知識
06	CSSの実習
07	Webサイトの構築 HTMLの実習 CSSの基礎知識 CSSの実習
08	トップページ、サブページの作成、画像表示
09	リンクの設定 HTMLの基礎知識 HTMLの実習 CSSの基礎知識 CSSの実習
10	サイドメニューの作成、表の作成
11	動画の挿入、見栄えとバランス
12	課題ページ作成（１）
13	課題ページ作成（２）
14	課題ページ作成（３）
15	総まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:デジタル・デザイン	担当者:高谷　邦彦	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 デジタル画像の加工・編集に関する基本知識と技術を身につけて、オリジナルのチラシ（映画・ライブ・イベント等）やCDジャケットなどを制作します。
授業の到達目標 デジタルな画像処理の原理と基本知識を身につけます。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 気に入ったデザインのポスターやチラシなどを参考資料として収集しておくと良いでしょう。
評価方法 授業への参加状況（課題に取り組む姿勢）50%、提出課題50%

教科書	参考図書
必要に応じてプリントを配布	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 課題等のデータ保存用にUSBメモリを用意すること（詳細は授業内で指示します）

01	デジタル画像の概要
02	画像編集ソフト（Photoshop）について
03	デジタル画像編集 ～ 範囲選択
04	デジタル画像編集 ～ 写真の修正
05	イラストを描く（１）～ 基本図形の描き方
06	イラストを描く（２）～ パスの描画と編集
07	イラストを描く（３）～ ペンツールで曲線を描く
08	レイアウトの基本（１） ～ 名刺を作ってみよう
09	レイアウトの基本（２）～ スペースの使い方と写真の配置
10	デザイン実習（１）～ 最終課題の構想を練る
11	デザイン実習（２）～ 最終課題の制作
12	デザイン実習（３）～ 最終課題の制作
13	デザイン実習（４）～ 最終課題の制作
14	講評
15	まとめと未完成課題の仕上げ
16	

2019年度シラバス

科目名:フードデザイン	担当者:井寺　麻依	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
私たちが生きていくためには食べることは欠かせません。私たちの体は何をおいしいと感じ、何を必要としているのでしょうか？毎回調理実習、その内容に関連した食生活や食文化についての講義を行います。また、いろいろなものを食べ比べながら、自分に合った食生活のスタイルを見つけていきます。

授業の到達目標
①　食事作りの基本を学び、食事を考え、作り、食べることの楽しさを知る。
②　健康な食生活の基本や栄養に関する知識を理解する。
③　いろいろなものを食べ比べ、正しい選択ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で学んだ調理に関すること、健康に関することを活かして自宅でも積極的に料理をしてみてください。また、食や健康に関する情報に関心をもってください。

評価方法
授業への参加態度60%確認テスト40%（実技あり）

教科書	参考図書
家庭料理技能検定　公式ガイド4級	家庭料理技能検定　各級テキスト

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
持ち物は、エプロン・三角巾・布巾２～３枚、台拭きです。料理未経験でも大丈夫です。料理に興味がある方、健康な体作りに興味がある方は是非受講してください。

01	※調理実習の内容は食材の都合等で変更の場合があります。（カッコ内実習内容）【カッコ内食べ比べ内容】 1　健康で美しい身体作りのための生活習慣と食生活（調理実習はありません） 2　献立の立て方・おいしいごはんを炊く（おにぎり・手作りふりかけ）【玄米・麦ごはん・白米】 3　日本のだし（ごはん・味噌汁）【昆布かつおだし・にぼしだし・顆粒だし】 4　いろいろな切り方①（ピビンパ等）【冷凍ホウレンソウ・生ほうれん草】 5　いろいろな切り方②・おいしいサンドウィッチのポイント（ハンバーガー）【鶏ミンチ・豚ミンチ】 6　調味料を知ろう（手作り麺つゆの和風スパゲティ等）【未定】 7　女性の見方！大豆の栄養（マーボー豆腐等）【絹ごし豆腐・木綿豆腐】 8　卵の栄養（ホットケーキ・ポークビーンズ）【手作りホットケーキ・ホットケーキミックス】 9　肉を健康的に食べる方法（鶏むね肉のゴマダレ焼き等）【未定】 10　女子力アップ！魚を知ろう（煮魚等）【未定】 11　便利！乾物の使い方（高野豆腐の卵とじ・豆腐の白玉等）【未定】 12　食中毒を防ぐ・栄養成分表示の見方（南蛮漬け・ももゼリー等）【寒天ゼリーとゼラチンゼリー】 13　お弁当作りのポイント（肉巻き等） 14　日本の伝統（手作りぎょうざ）【冷凍餃子・手作り餃子】 15　確認テスト（炊飯器ピラフ等）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:エコライフ実習	担当者:辻　広志	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:「環境の科学」を受講していることが望ましい		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この実習では、水・大気・土壌などの環境や食品を化学的および生物学的に調査・分析・評価する手法を習得し、「食と環境」への理解を深める。調査の意義と方法について講義した後、グループ単位で実習を行い、実習レポートを作成する。

授業の到達目標
化学汚染、地球温暖化、酸性雨、大量廃棄物などの地球規模の環境問題は日々深刻化している。身近な生活環境に関する実習を通して、環境問題に関心を持ち、生活を見直すきっかけにしてほしい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
環境問題や暮らしに関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手するよう心掛けること。

評価方法
確認テスト40%、平常点60%（実習レポート、出席状況、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
作業しやすい服装と身だしなみを心がけること。天候や材料の入手状況等により授業計画を変更することがあります。eco検定（環境社会検定試験）の受験を希望する学生は相談に応じます。

01	1　実習ガイダンス 2　キャンパスの自然観察：五感マップをつくろう 3　飲料水の化学的水質検査：ミネラルウォーターの硬度を調べる 4　水質分析と水質浄化実験(1)：水道水と生活排水の水質を調べる 5　水質分析と水質浄化実験(2)：水道水の残留塩素を調べる 6　酸性雨の測定：身近な酸とアルカリの性質を調べる 7　食品添加物の簡易定性分析：漬物の合成着色料を調べる 8　食品・手指・室内の細菌検査①：簡易細菌検出キットによる一般細菌の培養 9　食品・手指・室内の細菌検査②：細菌コロニーの観察、衛生状態の判定 10 石鹸と合成洗剤の比較実験：界面活性剤の働きを調べる 11 土壌生物による環境診断：キャンパスの土壌生物を調べる 12 エコクッキング：ムラサキキャベツを使った三色焼きそばをつくろう 13 廃棄物とリサイクル：プラスチックの性質と分類 14 環境情報の活用：環境を大切にする消費者になろう 15 まとめと確認
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:職業教養講座Ⅰ	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限: 2018年度以前の入学者		単位数	8
		必須.選択	選択

授業概要と方法
職業教養講座は社会の様々な場面で必要とされる技術や技能を身につけること、および各種の検定や資格試験に合格し、資格を取得することをねらいとした講座です。受講には別料金がかかりますが、将来への貴重な投資となりうるものです。

授業の到達目標
自分の目指す資格に必要な知識や技能を身につけること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修

評価方法
職業教養講座の授業は、本学と同様１時限あたり90分で、14回以上の授業および最終日の試験が行なわれます。受講を修了し、最終日の試験を受けて合格すると単位が認定されます（成績評価は行いません）。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2019年度の開講講座はありません。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:キャリアデザインⅠ	担当者:全専任教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業後、社会で自分を活かしていくために必要な力を養います。各種の講演や講座、社会と接点を持つための研修、そして自分達での調査や報告発表のプレゼンテーションなどを行います。必要な知識や情報の獲得をし、実践方法を体験的に学び、社会人として活躍するための基礎となる力を身につけます。

授業の到達目標
(1) 社会で必要になる知識やマナー、行動力、思考力、チームワーク力を身につけること (2) 自分の進路について具体的に考えられるようになること

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
筆記試験対策問題集やオンラインでの小テスト、報告会などでの発表の準備作業、レポート作成など +upインターンシップにおける企業や事業所への訪問

評価方法
平常点45点： 授業参加・取り組み状況、『キャリエファイル』の記入活用状況、筆記試験対策問題集・オンライン学習への取組み、その他提出物レポート点35点： 「+up インターンシップレポート」、「キャリアデザインⅠレポート」発表点20点： 「+up インターンシップ報告会」、「キャリアデザイン報告会」

教科書	参考図書
『キャリエファイル』(現代教養学科作成)	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業の内容はすべて、社会で活躍していくのに必要になることです。毎回の授業に積極的に関与して、内容を吸収していくという姿勢が重要です。また話を聞く、自分で考える、マナーやルールを守ることなどは日常生活でも実践してください。授業内容の変更や、持ち物などは学科掲示板で確認してください。緊急の連絡にはLINEや電子メールを使うので、各自で登録をしておいてください。

01	社会人基礎力について
02	筆記試験対策・新聞の読み方
03	コミュニケーション力①
04	コミュニケーション力②
05	コミュニケーション力③
06	マナー講座
07	+upインターンシップ準備①
08	+up インターンシップ準備②
09	+up インターンシップグループ別作業
10	+up インターンシップ報告会準備（資料の整理）
11	+up インターンシップ報告会資料作成①
12	+up インターンシップ報告会資料作成②
13	+up インターンシップ報告会の準備（発表の演習）
14	+up インターンシップ報告会①
15	+upインターンシップ報告会②
16	模擬テスト（一般常識）
17	進路講演会①
18	メイク講座
19	進路講演会①
20	自己分析・他己分析、就職活動の流れ
21	進路講演会②（内定者報告）
22	業界研究①
23	業界研究②
24	業界研究③（企業の担当者から）
25	履歴書・エントリーシートの書き方
26	面接講座
27	情報収集の仕方
28	キャリアデザイン報告会準備
29	キャリアデザイン報告会準備
30	キャリアデザイン報告会
31	

科目名:教養演習Ⅰ	担当者:高谷　邦彦,茶谷　淳一,大草　知裕,辻　広志,綾部　六郎,矢澤　久史,山下　玲香,小出　祥子,松岡　崇暢	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　1年次に少人数で行われる演習です。大学での学び方や学生生活の過ごし方を考えたり、自分の生き方を含めた進路についても学んだりしていきます。　またこの授業では、他の授業で学んだ知識・スキルを活用しつつ、チームによる問題解決の体験を通じて「読む・聴く・話す・書く・調べる」力を発揮させる仕方も学習します。そのためにゼミの仲間とともに学内外でのさまざまなプロジェクトに取り組みながら、パソコンを使って資料を作成し、その成果を発表します。

授業の到達目標
　この授業では、一人ひとりの学生がゼミというチームの中でどのような役割を果たすべきかを考えながら、プロジェクトの企画や実行、まとめなどを行うことで、社会に出てから働くために本当に必要とされる力（社会人基礎力）を身につけ、円滑に仕事に従事できるようになることが目標です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　この授業においては、社会人基礎力の向上がもっとも重要な課題となります。ゼミの仲間とのチーム学習が中心となるので、日頃から連絡や意見交換などの基本的なコミュニケーションの機会を大切にし、ゼミ活動を充実させるように心がけることが重要です。

評価方法
　平常点（5割・出席状況なども含む）や提出レポート（4割・全6本）、共通テキスト『ゼミノート』の記入内容（1割）などから総合的に評価します。

教科書	参考図書
『ゼミノート』および配布資料	担当教員から指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当教員やゼミのメンバーとしっかりコミュニケーションを取り、充実した学生生活を送れるようにしましょう。

01	本授業の概要説明と自己紹介などの実施
02	大学生活の計画を立てる
03	各種プロジェクトと課題解決学習の概要説明
04	プロジェクト（生と性の講演会）の実施
05	プロジェクト（生と性の講演会）の反省
06	プロジェクト（学科内行事）の準備（１）
07	プロジェクト（学科内行事）の準備（２）
08	プロジェクト（学科内行事）の実施
09	プロジェクト（学科内行事）の反省
10	プロジェクト（生き方シンポジウム）の準備
11	プロジェクト（生き方シンポジウム）の実施
12	プロジェクト（生き方シンポジウム）の反省
13	個人課題の設定と明確化
14	プロジェクト（秋のセミナー）の概要説明
15	プロジェクト（秋のセミナー）の準備（１）
16	プロジェクト（秋のセミナー）の準備（２）
17	プロジェクト（秋のセミナー）の実施
18	プロジェクト（秋のセミナー）の実施
19	プロジェクト（秋のセミナー）の反省
20	プロジェクト（秋のセミナー）報告会（PC利用）
21	個人面談による課題解決学習（１）
22	プロジェクト（全学行事）の準備（１）
23	プロジェクト（全学行事）の準備（２）
24	プロジェクト（全学行事）の実施
25	プロジェクト（全学行事）の反省
26	プロジェクト報告集の作成（PC利用）
27	個人面談による課題解決学習（２）
28	次年度プロジェクトの概要説明
29	進路研究プロジェクトの準備
30	進路研究プロジェクトの実施
31	プロジェクト全体のまとめと発表

2019年度シラバス

科目名:日本語表現A	担当者:小出　祥子,大竹　志保美,原　美築	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 大学生活や、社会生活において、言語によるコミュニケーションは欠かせません。言語表現能力の向上をはかるため、日本語を「話す・聴く・書く・読む」力を培います。具体的には、学内でのインタビュー活動や、その成果のプレゼンテーション等を行ないます。活動への取組みを通じて、実践的な日本語表現力を身につけます。
授業の到達目標 １．対話の諸形式(1対1、1対複数…)に応じた適切な言葉遣いができるようになる ２．適切にメモを取ったり、あいづちを打ちながら、対話できるようになる ３．文章を書く際に、読み手を意識できるようになる ４．実用書を複数読み、筆者の意見を比較できるようになる
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 ・毎週行なわれる漢字小テストの学習をすること ・新聞をスクラップする習慣を身につけ、社会の出来事に対して関心を持つこと ・その他、必要に応じて課題が出ることがある
評価方法 授業への参加態度(課題の提出を含む)50%、漢字小テスト30%、確認テスト20%

教科書 松浦ほか著『実践日本語表現』(ナカニシヤ出版) 『漢検10日間でできる練習問題』2級または準2級(級は授業の中で指示しますので、授業開始前に購入しないでください)	参考図書 授業内で適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) グループ活動の多い演習形式の授業です。そのため、欠席は他の受講生の迷惑となります。やむを得ず欠席する場合は、事前に受講生同士で連絡を取り合い、お互いに迷惑をかけないように努めましょう。

01	ガイダンス　クラス分け
02	自己紹介、他己紹介をする
03	新聞の構成を知る・スクラップの方法を学ぶ
04	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の計画(1)グループをつくる、敬語を学ぶ
05	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の計画(2)インタビュー先を決定する
06	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の計画(3)質問項目の決定と模擬インタビュー
07	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の実施とまとめ
08	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の振り返り(1)手紙の書き方とお礼状の清書
09	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の振り返り(2)レジュメの作成と発表の練習
10	新聞学習・漢字学習・インタビュー活動の振り返り(3)複数クラス合同発表会
11	新聞学習・漢字学習・本の読み方を知る
12	新聞学習・漢字学習・あらまし読みシートの作成方法
13	新聞学習・漢字学習・あらまし読みシート(1)
14	新聞学習・漢字学習・あらまし読みシート(2)
15	まとめ・確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:日本語表現B	担当者:小出　祥子,大竹　志保美,原　美築	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
主に、論理的な日本語の文章を「読む力」と「書く力」を養成します。具体的には、図書館を利用し、文献検索の方法を学びます。更に、テーマに沿って、複数の文献を比較しながら読む活動を繰り返します。この活動により、各文献の要点を明確にし、自らも意見を持つ力を養います。
また、根拠に基づいた論理的な文章の作成方法を学び、就職活動における書類の作成や卒業研究に役立てます。

授業の到達目標
・自ら必要とする情報を文献から探すことができる
・複数の文献を読み、比較検討することができる
・客観的で説得力のある文章を書くことができる
・自らの魅力を分かりやすく文章で表すことができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・毎回の授業で、漢字小テストを行うため、学習を行なうこと
・新聞のスクラップを行なうこと
・授業内で読みきれない文献については、授業外で読むこと
・授業内で書ききれない文章については、授業外で作成すること

評価方法
授業への参加態度(課題の提出を含む)50%、漢字小テスト30%、レポート20%

教科書	参考図書
松浦ほか著『実践日本語表現』(ナカニシヤ出版)、『漢検10日でできる練習問題』2級または準2級	授業中に適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中はもちろん、授業外でも多くの文献を読む必要があります。また文章を書く際には、皆さん自身が意見を持ち、文章を作成しなければなりません。そのため、授業に主体的に取り組む姿勢が求められます。

01	漢字学習・新聞学習・ポスター制作の準備
02	漢字学習・新聞学習・ポスター制作の実施
03	漢字学習・新聞学習・ポスターの相互評価
04	漢字学習・新聞学習・文献の検索方法を知る
05	漢字学習・新聞学習・テーマの設定とテクストの探し方
06	漢字学習・新聞学習・あらまし読みシートの作成
07	漢字学習・新聞学習・比べ読みによるテクストの比較
08	漢字学習・敬語学習・論述の方法
09	漢字学習・敬語学習・引用の方法
10	漢字学習・敬語学習・話しことばと書きことば
11	漢字学習・敬語学習・論述文の相互添削
12	漢字学習・敬語学習・自己分析をする
13	漢字学習・敬語学習・履歴書、エントリーシートの書き方
14	漢字学習・敬語学習・面接の受け答え
15	漢字総復習・テーマ学習の発表会
16	

2019年度シラバス

科目名:コンピューター基礎演習	担当者:南　　裕一郎,岩佐　孝子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
コンピューターや各種ソフトウェアについての基礎知識やソフトウェアの活用方法を演習形式で学びます。

授業の到達目標
コンピューターやオフィスソフトの基本操作だけではなく、情報化社会で生きていくために必要となる総合的な情報活用力を身につけることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ここで学んだ内容は、授業の中だけで終わらせずに、大学生活（サークルや委員会活動）や就職活動など、実際のさまざまな場面で活用してみましょう。

評価方法
授業への参加状況（出席状況や授業態度）50%、課題50%。

教科書	参考図書
必要に応じてプリントを配布	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
課題等のデータ保存用にUSBメモリを用意すること（詳細は授業内で指示します）

01	オリエンテーション 〜 教室とPCの使い方
02	メールの設定とメール送受信
03	情報探索
04	著作権と肖像権
05	インターネット・セキュリティ
06	ファイルとフォルダ
07	数値分析（１）表計算ソフトの基本
08	数値分析（２）関数
09	数値分析（３）論理式と条件分岐
10	数値分析（４）グラフ化
11	ビジネス文書（１）
12	ビジネス文書（２）
13	プレゼンテーション
14	インターネット・コミュニケーション
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:プレゼンテーション演習	担当者:高谷　邦彦,岩佐　孝子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、単にプレゼンテーション・ソフトの操作方法を学ぶのではなく、説得力のあるプレゼンに必要となるメディアやツールの活用方法を学び、複数回の発表を実践します。

授業の到達目標
さまざまなプレゼンのスタイルを身につけ、「人前で話をする」という基本的な自己表現能力を高めることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
YouTubeなどの動画共有サイトには、世界中のさまざまなプレゼン映像がアップされていますので、それらを見て参考にしてください。

評価方法
出席と授業態度、提出課題、プレゼンの内容等によって総合的に評価します。

教科書	参考図書
必要に応じてプリント等を配布します。	授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
プレゼンは回数をこなすことで上達してゆくものです。この授業で学んだことを、大学生活や就活の際に活用するようにしましょう。

01	プレゼンテーションとは何か
02	効果的なプレゼン方法とメディアの選択
03	コミュニケーション演習
04	PowerPointの操作方法
05	個人プレゼンの準備（ストーリー構成）
06	個人プレゼンの準備（情報収集）
07	個人プレゼンの準備（各種メディアの活用）
08	個人プレゼンの準備（リハーサル）
09	個人プレゼンと講評（１）
10	個人プレゼンと講評（２）
11	グループ発表の準備（１）
12	グループ発表の準備（２）
13	グループ発表の準備（３）
14	グループ発表と講評
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:コミュニケーションの心理	担当者:矢澤　久史	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】スクールカウンセラー
　本講義では、スクールカウンセラーとして携わった児童生徒や保護者、教員とのカウンセリング経験を踏まえ、実際の場面で相手とどのようにコミュニケーションを取ったらよいかを考えていく。
① よりよい人間関係を築いていくことができるコミュニケーション力を身に付けるために、コミュニケーションに関する様々な心理学の知見を具体的な例を挙げながら、わかりやすく解説していく。
②２人ペアでコミュニケーションの実習を実施したり（全４回）、関連するＤＶＤを見ることによっても、講義の内容に対する理解を深める。

授業の到達目標
①人間関係をうまく形成するためのコミュニケーション（話の聴き方、話し方、質問の仕方）を身につける。
②コミュニケーションについての心理学的な知識（言葉の発達、男女の違い、来談者中心療法など）を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で興味を持った内容について関連図書を読んで、理解を深めること。

評価方法
確認テストの結果（８０％）＋各授業時の小レポート（２０％）

教科書	参考図書
指定なし	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業の最後に授業の感想や疑問点などを小レポートにまとめて提出してもらう。

01	コミュニケーションについてどのくらいの知識がある？（事前調査）、愛着の形成
02	話の上手な聴き方を体験しよう（ペアによる実習を含む）
03	どのように質問したら会話が長続きする？（閉ざされたvs. 開かれた質問）（ペア実習を含む）
04	あなたは早口、それともゆっくりとした口調で話す？（ペア実習を含む）
05	コミュニケーションのコツ（Ｉメッセージ、イエスバット話法）
06	相手に対してどのように言葉をかけたら、会話がうまく進むのだろう（やる気の出る言葉かけ）
07	来談者中心療法、カウンセラーによる面談（DVD「来談者中心療法」視聴）
08	無言のコミュニケーション（実習）。コミュニケーションの成立はいつからか？（ヘスの研究）
09	赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション（ＤＶＤ・ＮＨＫスペシャル「赤ちゃん」前半視聴）
10	赤ちゃんはどのようにして言葉を獲得していくのだろう（ＤＶＤ「赤ちゃん」後半視聴）
11	赤ちゃんとお父さんのコミュニケーション(ＤＶＤ「お父さんへ・赤ちゃんからのメッセージ」)
12	あなたは楽観的それとも悲観的？（自分の考え方のクセを知ろう）（心理検査実習）
13	楽観主義と悲観主義どちらがいい？
14	イルカセラピーと発達障害（ＤＶＤ「イルカセラピー」視聴）
15	男性と女性の会話の違い（ＤＶＤ・ＮＨＫスペシャル・「男と女」第１集視聴）、確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:接客の心理	担当者:上野　真由美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代教養学科ディプロマポリシーの3.他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力について、ビジネスの場では、人に快適なサービスと接遇で満足してもらうための具体的な考え方、行動の仕方、話し方などが問われることから、この授業では相手に満足を提供する「サービス」と、その行動の「接遇」について学ぶ。接遇に必要な所作は実践練習を行い、サービス接遇検定の問題をグループワークと発表を行う。検定試験受験を視野に入れ授業を進める。

授業の到達目標
① サービス・接遇の仕事の基本を理解し、コミュニケーション技術を身につける。② サービス接遇検定の合格を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
何かをしてもらう、あるいは物を買うときにどんなサービスや接遇が快適であるかを考え、アルバイト先などの働いている人によく注意を向けて観察する。さらに社会人になった自分の姿をイメージする。サービス接遇検定などの資格試験に挑戦する。毎回の行動目標に取り組み、振り返りを行い次回の授業で各自の達成度を測る。授業で学んだことを実践し立ち居振る舞いの向上に努める。

評価方法
授業内レポート・提出物（60%）、授業に対する意欲的な取り組み・参加態度（40%）を評価し総合的に行う。

教科書	参考図書
サービス接遇検定受験ガイド準1級　早稲田教育出版	サービス接遇検定受験ガイド3級・2級

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段：金曜1限後の休み時間講師控室

01	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の確認
02	グループワーク	必要とされる接遇の所作
03	グループワーク	美しい振る舞いの基本
04	グループワーク	美しい振る舞いの実践
05	印象の良い身だしなみ	
06	グループワーク	傾聴
07	問題演習と解説	お客さまへの対応・サービスマインド
08	問題演習と解説	仕事に対する心構え
09	ロールプレイング	ビデオ視聴と全体練習
10	グループワーク	練習実践
11	グループワーク	リハーサル
12	グループワーク	総合発表と相互評価1
13	グループワーク	総合発表と相互評価2
14	ホスピタリティとサービス	「サービス」ビデオ視聴とレポート
15	学習のまとめとレポート	
16		

2019年度シラバス

科目名:色彩の心理	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】岡崎国立共同研究機構生理学研究所勤務
　色彩は、物の区別やファッションなど日常生活で幅広く活用されている感覚情報であるが、この授業では、担当者の経験を活かして、色彩に関する心理学の実験手法や、生理学的なデータの紹介を含めて授業展開していく。色彩に関して、光の性質、色の三属性、色を感じる目の仕組み、色を表すための表色系などを学習していくとともに、配色カードを使った配色作業を行う。

授業の到達目標
(1) 色彩の知覚に関係する光や視覚についての基礎知識を得ること。
(2) 色相、明度、彩度などに基づいて、色を体系的に理解すること。
(3) イメージなどの心理的効果と色や配色との関係を学ぶこと。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
配色などの課題作業が授業時間内に終わらない場合、翌週までの課題になります。

評価方法
授業への取り組み姿勢(40%)、期末試験の得点(50%)、作業などによる作成物(10%)

教科書	参考図書
配色カード（指定された153色以上のカードを含むもの）	色彩心理学入門（中公新書)、色彩検定テキストなど

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　できるだけ正確な色を観察するため配色カードを使います(¥500-700)。
　検定試験にチャレンジする場合は研究室や図書館の過去問題集などを利用してください。

01	ガイダンス
02	光と色
03	色を感じる目の仕組み
04	色の三属性
05	色の名前と表現方法
06	色相環やトーンマップの作成
07	色の表現
08	色の数値化や三次元構造
09	動物の色覚と進化
10	ユニバーサルデザインについて
11	色相にもとづいた配色
12	明度や彩度にもとづいた配色
13	グラデーション、アクセントカラー、セパレーション
14	環境やファッションにおける色彩
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:現代の文化	担当者:井上　文人	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問です。「現代の文化」は、「時代や社会環境の変化に対して的確に対応」し、「社会と調和しながら、自信を持って自己実現」し続けるために、様々な身近な「現代文化作品」に表現された自己自身の〈人間の生き方の諸問題〉の能動的な学修を通じて、〈自己の生き方〉を主体的に探求することを授業の概要と方法とします。

授業の到達目標
①様々な「現代文化作品」に表現された〈人間の生き方の諸問題〉を系統的に考察します。②自己が愛着する「現代文化作品」に表現された自己自身の〈生き方の諸問題〉の能動的な考察を通じて、自己が希求する〈自己の生き方〉を明らかにします。③〈自分が好きなものの中には自分がある〉ことを体感的に修得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な準備学修：２時間。事後学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な事後学修：２時間。

評価方法
成績評価は、①授業への参加態度30％と②期末レポート70％の配分にもとづいて行います。

教科書	参考図書
教科書はありません。毎回資料を配布します。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の〈人間の生き方の諸問題と課題〉は継続的で日常的な考察が重要です。生き方を自覚化しましょう。連絡先は授業で開示します。

01	授業ガイダンス
02	現代文化と哲学
03	現代日本のヒット曲
04	Mr.Children
05	浜崎あゆみ
06	宇多田ヒカル
07	AKB48・嵐
08	EXILE・SEKAI NO OWARI
09	Kポップ
10	ミュージカル
11	お笑い
12	ディズニーランド
13	メイク
14	宮崎アニメ
15	『君の名は。』・まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:からだを動かす	担当者:山下　玲香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、体育の知見から、人間の体の使い方、あらゆる身体活動について広く講義を行う。また知識を身につけるだけでなく、自分の体をどのように使うのか実践を行い、発表に向けての計画・準備を通し、他者へ伝える発信力を養う。

ヒトが生きていく中で自然と行える動作も、もとをたどれば遊びから学んでいることが多い。また、幼い頃の遊びは、スポーツ活動や健康行動に発展する。講義の前半では、古くから脈々と受け継がれている遊び（伝承遊び）を中心にヒトの身体活動を学ぶ。中盤では社会におけるスポーツを多方面からアプローチし、様々なかかわり方を学ぶ。後半では余暇としての身体活動について広く学ぶ。全体を通して、遊びやスポーツなどの余暇の活動によって人生が豊かになることを知り、自分の身体活動の視野を広げることを目的とする。

授業の到達目標
１）様々な角度から身体活動を捉え理解することができる
２）考えたことを表現したり具現化して実践することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段からスポーツや遊び（レジャーを含める）に興味関心を持ち、文献や書物、テレビ、新聞などに目を通すこと

評価方法
授業の参加態度40%　まとめの課題テスト30%　　提出物・ノート30%
授業中の迷惑行為（私語、飲食、化粧、スマホや携帯電話等の使用、遅刻、無断退出等）を行った場合、平常点から減点する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
レジメはしっかりファイルに綴ってください
最後にノートチャックがあります

01	「遊び」とは　ホモ・ルーデンス
02	子どもと遊び　伝承遊び（昔遊び）
03	伝承遊びの発展　身体活動としての遊び　発育発達
04	グループワーク①　身近なもので遊ぶ（新聞、文具など）
05	グループワーク②　屋外で遊ぶ（自然遊び、運動系の伝承遊びなど）
06	スポーツの語源　生涯スポーツと競技スポーツ
07	スポーツ産業（観戦　企業スポーツ　協賛　広報など）
08	グループワーク③　マイチームをつくろう
09	グループワーク④　マイチームを紹介しよう
10	余暇　レジャー
11	レクリエーション　ニュースポーツ
12	グループワーク⑤　ニュースポーツの開発
13	グループワーク⑥　発表準備
14	グループワーク⑦　発表
15	まとめのテスト
16	

2019年度シラバス

科目名:自己の探求	担当者:井上　文人	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問です。「自己の探求」は、「時代や社会環境の変化に対して的確に対応」し、「社会と調和しながら、自信を持って自己実現」し続けるために、「自分自身を深く知り、現代に生きる私達自身が直面している生き方の諸問題を能動的に学修することを通じて、〈自分自身の新たな生き方〉を探求することを授業の概要と方法とします。

授業の到達目標
①〈自分自身〉を根源的に考察します。②〈人間の生き方〉の諸問題を体系的に理解します。③〈自分自身の生き方〉の根本的な考察能力を能動的に学修し、〈新しい自分の生き方〉の端緒を獲得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：本授業で扱われる〈自己の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な準備学修：２時間。事後学修：本授業で扱われる〈自己の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な事後学修：２時間。

評価方法
成績評価は、①授業への参加態度30％と②期末レポート70％の配分にもとづいて行います。

教科書	参考図書
教科書はありません。毎回資料を配布します。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
〈自己の生き方の諸問題と課題〉は継続的で日常的な考察が重要です。生き方を自覚化しましょう。連絡先は授業で開示します。

01	授業ガイダンス
02	自己分析アンケート
03	「シンデレラ・コンプレックス」と女性の生き方
04	現代を生きる女性達の生き方の問題 現代を生きる女性達の生き方の問題
05	「ピーターパン・シンドローム」と男性の生き方
06	現代を生きる男性達の生き方の問題
07	現代を生きる人間の生き方の課題と哲学
08	『君たちはどう生きるか』
09	「コペル君」と「世界観」
10	『僕を探しに』
11	『ビックオーとの出会い』
12	「自分探し」とは何か？
13	『〈未来〉は〈いま〉にある』他
14	『私の〈仮面〉』他
15	『〈自分創り〉は〈他者創り〉』他・まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ&エクササイズ　A	担当者:榎本　宣子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実技
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
バドミントンの魅力のひとつは、だれでも手軽に楽しむことができる点にある。技術や戦術を学ぶことにより、運動量の多さや、技術の奥行きの深さ、戦術の複雑さに驚かされる。ダブルスゲームのフォーメションの理論と戦術、シングルスゲームのレベル別の試合を通して、バドミントンの楽しさを体験する。バドミントンの理論と実践、またそれらを通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。

授業の到達目標
・準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。・スポーツの場の空間配置を整え、安全に留意したスポーツ行動の習慣化。　・市民スポーツの愛好者団体に参加し、リーダーシップを発揮することができる。・選択履修したスポーツ種目の特性を理解し、基本的技術、ルール、マナー、審判法を修得し、市民スポーツ競技会等に参加することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配布資料からスポーツのルールや技術、戦術、歴史の予習復習をする。

評価方法
授業への積極的な参加度と、授業の練習記録とレポート及び、技術的な進歩度によって総合的に評価する。授業への取り組み50%、種目特性の理解及び技術の習得度50%。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれのスタート地点は違います。毎回の授業で全体の目標以外に、自らの目標を設定し、あきらめずに努力を重ねましょう。小さな進歩の積み重ねが、スポーツの楽しさへとつながります。

01	オリエンテーション．授業の進め方の説明など。
02	ストレッチの理論と実践　そのⅠ基本　ラケットの使い方Ⅰ
03	ストレッチの理論と実践　そのⅡ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅱ　シャトルの特性
04	ストレッチの理論と実践　そのⅢ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅲ　ラリーを楽しむ
05	ストレッチの理論と実践　そのⅣ　応用　ショットⅠ(ハイクリア・ドライブ)ダブルス簡易ゲーム
06	ストレッチの理論と実践　そのⅤ　応用　ショットⅡ(ヘアピン）ダブルスゲームのルールと審判
07	ショットⅢ（プッシュ）ダブルスゲーム。
08	ショットⅣ（ロブ）バドミントンの歴史、ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーション。
09	ショットⅤ（スマッシュ）ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーションの応用
10	ロングサービスとショートサービス。ダブルスゲーム。
11	修得した技術の見直し。フットワーク(前後　左右への動き）　シングルスゲームのルールと審判。
12	運動感覚の習得Ⅰ　　シングルスゲーム（技術レベルに応じたシングルスゲーム）
13	運動感覚の習得Ⅱ　各ショットの完成のための個別練習。シングルスゲーム
14	運動感覚の習得Ⅱ　各ショットの完成。強いスマッシュのための個別練習。シングルスゲーム
15	まとめとして習得した技術の発表。
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ&エクササイズ　A	担当者:横井　康博	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実技
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
生涯スポーツとして広く受け入れられているゴルフという種目を授業内にだけにとどまらず、在学中または卒業後にも生かせる講義を行う。初心者を対象とした指導を行うように基礎的な部分を重視しながら進めていく。

授業の到達目標
自分にあったグリップやスタンスを見つけ、自分のスイングを確立する。さらに、そのスイングでボールを打つ際にも崩れないスイングリズムを身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特に捻転を求める種目なので授業内でもフォローはするが、各自で柔軟性を高める準備を行う。テレビなどでゴルフの中継を見ておく。

評価方法
基本的に全出席が望ましい。平常点・レポート点・授業態度・実技点を下記のように総合評価する。なお、服装やアクセサリーの不備に関しては、平常点から減点することとする。平常点３０％・レポート点１０％・授業態度４０％・実技点２０％

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アクセサリー禁止。服装は、ジャージや体操服（ジーンズやスウェット禁止）と運動靴で受講すること。

01	オリエンテーション　今後の授業の進め方
02	ゴルフの基礎知識
03	ゴルフスイングの基本Ⅰ　グリップの種類と握り方
04	ゴルフスイングの基本Ⅱ　アドレス姿勢の重要性
05	ゴルフスイングの基本Ⅲ　スイング軌道について①　バックスイング　切り返し　ダウンスイング
06	ゴルフスイングの基本Ⅳ　スイング軌道について②　インパクト　フォロースルー
07	ゴルフスイングの基本Ⅴ　スイングリズムと体重移動
08	ショットの基本Ⅰ　ボールを置く位置の違い
09	ショットの基本Ⅱ　打球の強弱を意識して
10	ショットの基本Ⅲ　方向性を意識して
11	ショットの基本Ⅳ　自身のコントロールによる打ち分け
12	ショートゲーム①
13	ショートゲーム②　グランドゴルフ
14	ショートゲーム③　パッティング
15	まとめ　目標達成度チェック
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ&エクササイズ　B	担当者:伊藤　理香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実技
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
エアロビクスとはエアロビックダンスエクササイズの略語で、「有酸素運動＝酸素を取り入れながら行う運動」という意味です。現代人に適した運動のひとつで、音楽に合わせて楽しくからだを動かすことができます。運動の目的は、生活習慣病の予防など健康維持および増進です。本講義では、音楽に合わせてのからだを動く巧みさ（達成）や表現力を身につけます。またグループワークとグループ発表(全4回)を行います。

授業の到達目標
この授業では、①エアロビクスの特性・効果を理解する②エアロビクスを通してからだを動かす楽しみを体得する③からだを動かすことによって表現する楽しみを得ることの３点を目標に行います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
運動から得られる効果また必要性および現代社会における健康と疾病状況を事前学習しておく（運動の楽しさ・有酸素運動の効果・生活習慣病予防・など）。15時間

評価方法
授業への参加態度(積極的な実技への取り組み内容)50% 、グループワークへの取り組み25% 、授業内でのミニレポート25% とします。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	エアロビクスとは何か　ー　エアロビックダンスエクササイズの背景、エアロビクス体験
02	エアロビクス体験（入門クラス）、エアロビクスの特徴と効果
03	エアロビクス体験（初級クラス①）、運動のプログラム構成
04	エアロビクス体験（初級クラス②）、基本となる動きの種類
05	エアロビクス体験（初級クラス③）、正しい姿勢と動き方（効果的な動き方）
06	エアロビクス体験（初級クラス④）、目標運動強度（目標心拍数の設定、主観的運動強度）
07	エアロビクス体験（中級クラス①）、運動の効果（呼吸循環器系）
08	エアロビクス体験（中級クラス②）、運動の効果（骨格筋的）
09	エアロビクス体験（中級クラス③）、運動の効果（精神的）
10	クオリティーライフ向上（自分のからだを知り、生活に活かす）
11	エアロビックダンスエクササイズ・グループワーク① テーマ作りと曲の選択
12	エアロビックダンスエクササイズ・グループワーク② 基本動作を用いて動き作り
13	エアロビックダンスエクササイズ・グループワーク③ フォーメーション作り
14	エアロビックダンスエクササイズ・グループワーク④ ダンス表現を楽しむ
15	グループ発表
16	なし

2019年度シラバス

科目名:ボランティア論	担当者:松岡　崇暢	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　ボランティア活動に関する、基礎的な教養と実践に必要な知識などを学んでいきます。身近な生活の中に蔓延している課題について、ボランティア活動を通じてどのように解決できるのか考えていきましょう。ボランティアの社会的な役割や可能性についても掘り下げて考えましょう。

授業の到達目標
　受講学生が、意欲を持ち社会や地域を良くするためにボランティア活動に参加し、活躍できることを最終目標とします。そのために必要なボランティア活動の基礎的な制度の理解、ボランティア活動を支える制度の活用などを学びます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動に関する情報は、新聞記事・文献・テレビ・インターネットなどを通じて得ることができます。常にアンテナを張り巡らし、様々なボランティア活動に興味関心を持ってください。また、自分だったらどのような活動に取り組みたいのか、その取り組みを行うことで何を改善できるのかを柔軟に考えてみましょう。

評価方法
定期試験80%　授業の参加態度20%

教科書	参考図書
レジメ配布	適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中だけでなく、普段の生活の中でボランティア活動に対する意識を持ってください。

01	授業ガイダンス（シラバスの説明）　ボランティア活動とは何か
02	市民が地域や社会を変えていく可能性とは何か
03	海外でのボランティア活動の位置付けと国内のボランティア活動の位置付け
04	学生が活躍するボランティア活動
05	制度から考えるボランティア活動
06	まちづくりに関わり深いボランティア活動
07	企業と行政に関わり深いボランティア活動
08	農山村で活躍するボランティア活動
09	身近な福祉の担い手としてのボランティア活動
10	地域福祉とコミュニティに関わり深いボランティア活動
11	ボランティア活動を支える仕組み―中間支援組織の役割―
12	NPOという法人格の特徴を学ぶ
13	ボランティア活動に向けた準備（個人ワーク）
14	ボランティア活動に向けた準備２（グループワーク）
15	授業全体のまとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:人間と健康	担当者:山下　玲香	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 女性として強く、たくましく、しなやかに生きるために、自分のカラダの不思議や過去・未来の自分の健康を見つめることや、社会で生活するための知識として、現代社会の健康問題や障がいを持つ人への理解を深める。
授業の到達目標 １）現代病や女性特有の病気について理解を深める。２）自分の健康や運動について興味関心を持ち、生涯の健康と運動の見通しを立てる。３）健康や運動について興味関心を持ち、様々な視点から考える力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 １）授業で出された課題についてしっかり取り組むこと。２）興味関心のあるテーマについて、書籍やインターネットなどで調べること。
評価方法 １）確認テスト50%、平常点50%（出席状況、課題、授業への取り組み姿勢）の100点満点で評価する。２）授業中の迷惑行為（私語、飲食、化粧、スマホや携帯電話等の使用、遅刻、無断退出等）を行った場合、平常点から減点する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) １）授業には前向きな姿勢で臨んでください。課題やディスカッション、グループワークなど、積極的に取り組んでくれることを期待しています。２）授業中に配布した資料、ノート、メモなどは全て1つのファイルに綴るようにしてください。

01	オリエンテーション、自分のからだとむきあう
02	女性のからだと健康①　：発育発達、加齢
03	女性のからだと健康②　：疾病
04	女性のからだと健康③　：妊娠・出産
05	女性と運動①　：体育、生涯スポーツ
06	グループワーク①　：生理中の運動について考えよう
07	女性と運動②　：競技スポーツ
08	女性と運動③　：障害者スポーツ
09	情報リテラシー①　：情報の収集方法
10	情報リテラシー②　：マインドマップの活用
11	グループワーク②　：女性の健康と社会　グループで問題を探ろう
12	グループワーク③　：女性の検討と社会　グループでまとめよう
13	社会の中の自分　：将来の自分をえがいてみよう
14	ディスカッション　：「電車にベビーカー」どう思う？
15	まとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:ホームヘルパー実習	担当者:松岡　崇暢、サポート知多	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
介護職員初任者研修を取得するには、130時間の講義・演習と修了試験に合格する必要があります。130時間のうち39時間分を自宅学習し、その後スクーリングでグループワークや実際にベッドや車椅子等を使って介護の仕方を勉強します。さらに介護の現場で実際に介護を経験します。

授業の到達目標
介護の現場で働くための第一歩の研修が「介護職員初任者研修」です。ヘルパーという仕事の理解、老化・認知症・障害の理解、介護保険や障害者総合支援法という制度の理解、実際に介護の仕方を勉強し、介護の現場で働くために必要な知識を習得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実際に1日施設で実習を行います

評価方法
・自宅学習によるレポート　25%
・スクーリングの出席状況及び受講態度、実技演習　25%
・実習態度及びレポート　25%
・筆記試験　25%

教科書	参考図書
介護職員初任者研修テキスト　中央法規出版(株)発行	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
テキストの中から問題を出しますので、テキストにしっかり目を通してください。テキストで理解できないことはインターネット等で調べると理解し易いです。疑問点などある場合は、直接“サポートちた　山森”までご連絡下さい。ＮＰＯ法人地域福祉サポートちた　ＴＥＬ：0562-33-1631・ＦＡＸ：0562-33-1743

01	1自宅学習　介護に必要な基礎知識を自宅でテキストを使って学習し、レポートを提出します。 2スクーリング　講義と演習(グループワークやベッド・介護用品等を実際に使って体験的に学習します。）１）職務の理解２）介護における尊厳の保持・自立支援３）介護の基本４）介護・福祉サービスの理解と医療との連携５）介護におけるコミュニケーション技術６）老化の理解７）認知症の理解８）障害の理解９）こころとからだのしくみと生活支援技術 3実習　介護の行われている現場で実際に介護を経験します。 4修了試験
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:ＮＰＯインターンシップ	担当者:松岡　崇暢	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　科目の特徴として、夏期休暇や春期休暇にNPOの現場で10日間程度の研修を行います。多くのNPOは、地域や社会を改善するために多岐に渡る分野で活動をしています。実際にNPOの現場で研修を受けることで、NPOを深く理解し、地域者社会にどのような影響があるのか実感します。

授業の到達目標
　NPOインターシップを通じ、NPOに関する理解や社会的な役割を深く理解します。得られた体験は、将来の地域活動やキャリア形成に役立つことを目標としております。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
○事前学習：NPOに関する情報収集と学習、NPOインターシップ説明会の参加、事前学習レポートの提出（1000字程度）
○説明会後の学習：研修日誌の提出、事後レポートの提出（1000字程度）
○提出期限厳守

評価方法
　事前事後レポート、研修の取り組み姿勢、研修先の評価を踏まえて総合的に評価をします。（研修日誌やレポート40％・研修先評価40％・取り組み姿勢20％）

教科書	参考図書
なし	適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研修は学外で行うため、安全確保と体調管理に特に注意しましょう。また、時間厳守は社会における基本的なマナーです。真面目に取り組むことで成長につながりますので、研修期間中は積極的な姿勢で取り組んでください。

01	①NPOインターシップの説明会 １．NPOへの理解を深める ２．活動内容を理解する ３．研修内容とスケジュールの確認 ②選別　希望者が多い場合は選別を行うことがある ③実施説明会　研修における注意事項の説明 ④事前指導　事前レポート等の提出物は、締め切り厳守 ⑤実施期間　夏期・春期期間中（10日程度） ⑥研修内容　受け入れ先の指示に従う ⑦事後指導　研修日誌の提出と確認、事後レポート等の提出物は、締め切り厳守
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:カウンセリング入門	担当者:岡本　加苗	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
①「自分の心」について積極的な関心を持って理解を深め、「他者の心」に真摯で温かな眼差しを向けるカウンセリングの基本姿勢を学びます。これは、現代教養学科のディプロマポリシー「３.他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力」の習得と深い関連性があります。
②授業の方法は、講義とそれに関連した自己理解・他者理解のための体験学習（個人またはグループ・ワーク）という構成で進めます。
③毎回、授業への出席票を兼ねたふり返りレポートの作成をお願いします。

授業の到達目標
①授業を通して自己理解・他者理解を深めることができます。
②基礎的なカウンセリングの知識と技法を学ぶことができます。
③グループで課題に取り組むことで社会的スキルを身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①授業の中で関心を持ったテーマについて、関連書籍などを読み、理解を深めてください。
②授業で得た学びを積極的に日々の生活に取り入れ、生きた知識として活用しましょう。

評価方法
授業への参加態度３５％、ふり返りレポート３５％、確認テスト３０％

教科書	参考図書 授業の中で適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段：授業前後の講師控室
☆体験学習では、ペアやグループでの活動を多く取り入れます。社会的スキルのトレーニングと考えて、積極的に取り組みましょう。

01	ガイダンス
02	心の実験　～心って何だろう？～
03	性格とカウンセリング　～心理テストから自分を理解する～
04	ライフサイクルとカウンセリング　～青年期の課題～
05	恋愛カウンセリング　～男ゴコロ・女ゴコロ～
06	おとぎ話に現れるこころの世界　～深層心理学～
07	過去のトラウマからの脱却を目指す！　～精神分析的心理療法～
08	心のトラブルに対処できるワザを身につける　～認知行動療法～
09	「私」の成長を支えるカウンセリング　～クライアント中心療法～
10	聴き上手？話し上手？①　～傾聴～
11	聴き上手？話し上手？②　～アサーション～
12	夢分析入門　～夢とのつきあい方～
13	芸術療法入門　～描画療法～
14	ストレス社会を生きる　～ストレス・コーピング～
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:医療実務	担当者:塚本　佳子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
医療実務に関連する法規、医療機関のしくみ、医療費のしくみ、医療用語、患者接遇など、医療機関の事務職員として必要な知識を学びます。さらに、ホスピタルコンシェルジュ、調剤事務管理士などの検定合格をめざします。また、授業で理解した内容を業務に活かせるよう、PBL（問題解決学習）を取り入れます。

授業の到達目標
　医療事務に関連する法規、医療機関のしくみ、医療費のしくみ、医療用語、患者接遇の方法などを理解するとともに、医療機関窓口等での基本業務について、得た知識を応用し、考えることができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業のみの学習では知識の定着が難しいため、必ず復習として自宅学習をすること。・各回の授業で出された課題を積極的に取り組み、理解しづらい点は付箋などをつけ必ず次の授業にて質問すること。

評価方法
定期試験60％、課題提出40％

教科書	参考図書
調剤薬局事務テキスト１（医療保障制度）調剤薬局事務テキスト2（算定とレセプト）調剤薬局事務テキスト3（トレーニングブック）医療関連用語・略語集　（全て、ソラスト）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション／医療の歴史
02	医事業務１（窓口業務、言葉づかい）
03	医事業務２（電話応対、クレーム対応）
04	医療供給体制１（病院組織と医療従事者）
05	医療供給体制２（医療と安全、病院会計）
06	医療保障制度の基本用語
07	医療保険制度のあらまし１（各制度と基本用語）
08	医療保険制度のあらまし２（高額療養費）
09	保険診療と医療費
10	公費負担医療制度と保険者番号
11	その他の医療保障制度（労災、自賠責など）
12	介護保険制度
13	医療情報文書の種類と取扱い
14	医療用語１（解剖）
15	医療用語２（生理学・生化学）
16	医療用語３（疾病・症状）
17	医療用語４（検査・処置）
18	医療事務職員の基本業務を考える（ＰＢＬ）
19	医事業務におけるﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄを考える（ＰＢＬ）
20	薬と薬効
21	調剤基本料のしくみと算定方法
22	調剤基本料算定の実際
23	薬剤料等のしくみと算定方法
24	薬剤料等算定の実際
25	調剤料のしくみと算定方法
26	調剤料算定の実際
27	薬学管理料のしくみと算定方法
28	薬学管理料算定の実際
29	調剤レセプトの書き方
30	調剤レセプト作成演習
31	定期試験

科目名:病院インターンシップＳ	担当者:病院インターンシップ運営委員会、教養演習Ｉ担当教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　大学の提携した病院や医療機関にて、実際の事務や受付などの仕事を研修生として体験する。また、それに関して必要となる事前の準備や、研修終了後の振り返りを行う。実習先での研修だけでなく、事前の説明会やガイダンスなどへの出席、事前訪問も授業に含まれる。「病院インターンシップS」は1週間程度の研修を対象とする。なお希望人数が多い場合には大学による選考が行われる。

授業の到達目標
　病院や医療機関での仕事のイメージを体得するとともに、病院や医療機関などで働くのに必要となる技能、知識、心構えなどを理解して、その後の学習に取り入れていく。また、学外での実社会の方との関わりの中で、社会人として必要になるコミュニケーション力や情況把握力、責任感などを養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　説明会は他のインターンシップと合同で開催される場合もあり、昼休みなどに実施されるので、掲示版の案内を見て確認すること。履歴書などの書類の提出や、場合によっては事前訪問なども必要になる。
　実習中は現場の職員や医療従事者の方と同じく責任感および緊張感のある行動が求められる。そのために礼儀作法や身だしなみ、一般常識、コミュニケーション能力などについて、普段から(日常的に)意識を高めておく必要がある。

評価方法
　研修日誌と研修レポートをもとにした研修内容と研修成果（60%)、実習先の評価と事前事後の指導をもとにした研修態度（40%)、という割合で評価する。

教科書	参考図書
ガイダンスや事前指導で適宜指示する。	『就職ガイドブック』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
通常の授業科目とは、履修登録の時期や方法が異なるので、注意する。
学生課が窓口となり、緊急な連絡などもあるので、メールなどで迅速な連絡ができるようにしておくこと。

01	事前指導、研修、事後指導から構成される。 事前指導：（7時間） (1) 研修先や研修概要に関する説明会 (2) 希望人数によっては選考 (3) 研修先ごとのガイダンス (4) 研修先の事前訪問 研修：（50時間） ・前期は夏季休業、後期は春季休業中に各自の研修実施先にて研修を行う。 ・研修内容は、実習先によって異なる。基本的に研修者のために用意されたプログラムに従って研修を行い、 実施先での担当者による指導を受ける。 事後指導：（3時間） (1) 研修日誌の提出 (2) 研修レポートの作成
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:病院インターンシップＬ	担当者:病院インターンシップ運営委員会、教養演習Ｉ担当教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　大学の提携した病院や医療機関にて、実際の事務や受付などの仕事を研修生として体験する。また、それに関して必要となる事前の準備や、研修終了後の振り返りを行う。実習先での研修だけでなく、事前の説明会やガイダンスなどへの出席、事前訪問も授業に含まれる。「病院インターンシップL」は2週間程度の研修を対象とする。なお希望人数が多い場合には大学による選考が行われる。

授業の到達目標
　病院や医療機関での仕事のイメージを体得するとともに、病院や医療機関などで働くのに必要となる技能、知識、心構えなどを理解して、その後の学習に取り入れていく。また、学外での実社会の方との関わりの中で、社会人として必要になるコミュニケーション力や情況把握力、責任感などを養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　説明会は他のインターンシップと合同で開催される場合もあり、昼休みなどに実施されるので、掲示版の案内を見て確認すること。履歴書などの書類の提出や、場合によっては事前訪問なども必要になる。
　実習中は現場の職員や医療従事者の方と同じく責任感および緊張感のある行動が必要になる。そのために礼儀作法や身だしなみ、一般常識、コミュニケーション能力などについて、普段から(日常的に)意識を高めておく必要がある。

評価方法
　研修日誌と研修レポートをもとにした研修内容と研修成果（60%)、実習先の評価と事前事後の指導をもとにした研修態度（40%)、という割合で評価する。

教科書 ガイダンスなどで適宜指示する。	参考図書 『就職ガイドブック』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
通常の授業科目とは、履修登録の時期や方法が異なるので、注意する。
学生課が窓口となり、緊急な連絡などもあるので、メールなどで迅速な連絡ができるようにしておくこと。

01	事前指導、研修、事後指導から構成される。 事前指導：（7時間） (1) 研修先や研修概要に関する説明会 (2) 希望人数によっては選考 (3) 研修先ごとのガイダンス (4) 研修先の事前訪問 研修：（50時間） ・前期は夏季休業、後期は春季休業中に各自の研修実施先にて研修を行う。 ・研修内容は、実習先によって異なる。基本的に研修者のために用意されたプログラムに従って研修を行い、 実施先での担当者による指導を受ける。 事後指導：（3時間） (1) 研修日誌の提出 (2) 研修レポートの作成
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:社会と経済	担当者:茶谷　淳一	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
私たちの暮らしがいまどのような状況にあるのか、これからどのように変わろうとしているのかを考える手がかりとして、現在政府が行っている経済政策＝アベノミクスとエネルギー政策について解説し、問題点を考えます。そのなかで経済に関して知っておきたい言葉や考え方を身につけ、また経済と私たちの暮らしが密接に関わっていることを理解できるようにお話しします。

授業の到達目標
①社会や経済のあり方に関心を持ち、新聞や日々のニュースに、自ら触れようとするようになる。②現代日本の経済社会に関する基礎的な知識を身につけ、現代経済に関連することがらについて、自分なりに考えることができる。③ニュースなどを鵜呑みするのではなく、批判的に考えることができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①新聞やテレビのニュース、ドキュメンタリーを積極的に見ましょう。そして今、何が起こっているのかを敏感に悟ることができるようになりましょう。②宿題として単元ごとの確認テストがあります。必ず自分で解答しましょう。

評価方法
各単元終了後の確認テスト課題（5点×２）＋期末の確認テスト（90点）。授業のコメントシートも参考にします。単元終了後の確認テスト課題の再試験は行いません。欠席した場合、後日試験用紙を受け取ることはできません

教科書	参考図書
なし。授業で配布するレジュメをもとに授業を進めます。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
重要なニュースの説明などのため、授業が予定通りに進まないことがあります。レジュメの余白にメモを取ること。質問は木曜昼休みに研究室へ。途中退出・遅刻・私語など受講マナーを守れない場合は受講を取り消します。

01	授業の目標と進め方、評価について　　HOT ISSUE
02	アベノミクスとは？
03	景気とは何か？
04	「大胆な金融緩和」で経済は、くらしはどうなる？
05	「大胆な財政政策」で経済は、くらしははどうなる？
06	「規制緩和」で経済は、くらしはどうなる？
07	アベノミクスが目指す日本の未来
08	「アベノミクス」のまとめ　単元ごとの確認テストの解答・説明
09	エネルギーについて考える
10	日本のエネルギー政策と原子力利用
11	原子力の経済性
12	核燃料サイクルと核のゴミ
13	新しいエネルギーの利用　ドイツの経験
14	「エネルギー」についてのまとめ　単元ごとの確認テストの解答・説明
15	授業のまとめと期末の確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:現代の経営	担当者:清水　真	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　この科目では、日常生活とのかかわりを含め、ビジネスの視点から据えた個人の行動や市場・会社の仕組みを理解することを基本とする。理解を深めるため、問題解決学修を取り入れる。
授業の到達目標 　社会人として社会の諸問題を判断し、解決するための、社会のしくみに関する基礎的知識・素養をみにつけることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　事後学修として、自宅で会社の仕組みについて理解を深める。
評価方法 　授業への参加態度50%、試験50%による総合評価

教科書 プリントを適宜配布する。	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	経済の基礎
02	ビジネスの発展
03	流通の意義と役割
04	売買業者のビジネス
05	流通活動とマーケティング
06	企業の形態と経営組織(1)
07	企業の形態と経営組織(2)
08	経営戦略（１）戦略パターン・経営資源の配分法
09	経営戦略（２）M&Aの実態と経営手法
10	企業の資金調達
11	サービス業のビジネス
12	金融機関のビジネス
13	企業活動と税
14	人事・労務の仕組み
15	確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:マーケティング	担当者:清水　真	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 身近に存在する商品が、どのように開発、価格設定、販売促進され、消費者の手元に届くかを学ぶのが本授業の概要である。基本的に講義形式で授業を進めるが、理解を深めるため、グループディスカッションも実施する。
授業の到達目標 マーケティングとは如何なるものかを理解し、今日における社会環境の課題を発見するとともに、それを解決する能力を身につけることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 事後に、ショッピングに出かけ、授業に学んだことを念頭に、商品価格の比較、販売員の態度、広告などを調べる。グループディスカッションの準備学修としてケースを熟読し、課題をまとめる。
評価方法 授業への参加度50%、テスト50%による総合評価

教科書 適宜プリントを配布	参考図書 マーケティングと消費者（慶應義塾出版会）
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	マーケティングとは何か
02	マーケティングの誕生
03	マーケティング環境としての消費
04	サービス・マーケティング
05	ブランドの構築と消費者との関係性
06	製品計画(1)新製品開発と戦略
07	製品計画(2)製品ミックス，製品属性
08	価格決定(1)価格の持つ意味
09	価格決定(2)価格の種類と価格の決定方式
10	プロモーション(1)コミュニケーション
11	プロモーション(2)AIDMA，人的販売
12	プロモーション(3)販売促進，広告・宣伝・パブリシティ
13	流通チャネル(1)流通チャネルの構築基準と機能，流通系列化
14	流通チャネル(2)流通系列化をめぐる変化とSCM
15	確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:企業インターンシップS	担当者:企業インターンシップ運営委員会、教養演習Ⅰ担当教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　大学が協定を結んでいる学外の企業や事業所にて、実際の事務などの仕事を研修生として体験する。研修先での研修だけでなく、事前の説明会やガイダンスなどへの出席、事前訪問、および研修終了後の振り返りも単位取得の要件である。希望人数が多い場合には大学による選考が行われる。なお、「企業インターンシップS」は1週間程度の研修を対象とする。

授業の到達目標
　企業や事業所、店舗などでの仕事のイメージを体得するとともに、実際の職場で働くのに必要となる技能、知識、心構えなどを理解して、その後の学習に取り入れていく。また、学外での実社会の方との関わりの中で、社会人として必要になるコミュニケーション力や情況把握力、責任感などを養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　説明会は他のインターンシップと合同で開催される場合もあり、昼休みなどに実施されるので、掲示版の案内を見て確認すること。履歴書などの書類の提出や、場合によっては事前訪問なども必要になる。
　実習中は現場の職員の方と同様の責任感および緊張感のある行動が求められる。そのために礼儀作法や身だしなみ、一般常識、コミュニケーション能力などについて、普段から(日常的に)意識を高めておく必要がある。

評価方法
　研修日誌と研修レポートをもとにした研修内容と研修成果（60%)、実習先の評価と事前事後の指導をもとにした研修態度（40%)、という割合で評価する。

教科書	参考図書
ガイダンスなどで適宜指示する。	『就職ガイドブック』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
通常の授業科目とは、履修登録の時期や方法が異なるので、注意する。
学生課が窓口となり、緊急な連絡などもあるので、メールなどで迅速な連絡ができるようにしておくこと。

01	事前指導、研修、事後指導から構成される。 事前指導：（7時間） (1) 研修先や研修概要に関する説明会 (2) 希望人数によっては選考 (3) 研修先ごとのガイダンス (4) 研修先の事前訪問 研修：（50時間） ・前期は夏季休業、後期は春季休業中に各自の研修実施先にて研修を行う。 ・研修内容は、実習先によって異なる。基本的に研修者のために用意されたプログラムに従って研修を行い、 実施先での担当者による指導を受ける。 事後指導：（3時間） (1) 研修日誌の提出 (2) 研修レポートの作成
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:企業インターンシップL	担当者:企業インターンシップ運営委員会、教養演習Ⅰ担当教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　大学が協定を結んでいる学外の企業や事業所にて、実際の事務などの仕事を研修生として体験する。研修先での研修だけでなく、事前の説明会やガイダンスなどへの出席、事前訪問、および研修終了後の振り返りも単位取得の要件である。希望人数が多い場合には大学による選考が行われる。なお、「企業インターンシップL」は2週間程度の研修を対象とする。

授業の到達目標
　企業や事業所、店舗などでの仕事のイメージを体得するとともに、実際の職場で働くのに必要となる技能、知識、心構えなどを理解して、その後の学習に取り入れていく。また、学外での実社会の方との関わりの中で、社会人として必要になるコミュニケーション力や情況把握力、責任感などを養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　説明会は他のインターンシップと合同で開催される場合もあり、昼休みなどに実施されるので、掲示版の案内を見て確認すること。履歴書などの書類の提出や、場合によっては事前訪問なども必要になる。
　実習中は現場の職員の方と同様の責任感および緊張感のある行動が求められる。そのために礼儀作法や身だしなみ、一般常識、コミュニケーション能力などについて、普段から(日常的に)意識を高めておく必要がある。

評価方法
　研修日誌と研修レポートをもとにした研修内容と研修成果（60%)、実習先の評価と事前事後の指導をもとにした研修態度（40%)、という割合で評価する。

教科書	参考図書
ガイダンスなどで適宜指示する。	『就職ガイドブック』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
通常の授業科目とは、履修登録の時期や方法が異なるので、注意する。
学生課が窓口となり、緊急な連絡などもあるので、メールなどで迅速な連絡ができるようにしておくこと。

01	事前指導、研修、事後指導から構成される。 事前指導：（7時間) (1) 研修先や研修概要に関する説明会 (2) 希望人数によっては選考 (3) 研修先ごとのガイダンス (4) 研修先の事前訪問 研修：（50時間) ・前期は夏季休業、後期は春季休業中に各自の研修実施先にて研修を行う。 ・研修内容は、実習先によって異なる。基本的に研修者のために用意されたプログラムに従って研修を行い、 実施先での担当者による指導を受ける。 事後指導：（3時間) (1) 研修日誌の提出 (2) 研修レポートの作成
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:ジェンダーと法	担当者:綾部　六郎	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　みなさんは「ジェンダー」や「セクシュアリティ」ということばをこれまでに聞いたことがありますか？ わたしたちが先人たちの努力によってこのことばを知ったときから、性をめぐる考え方の新たな可能性が大きく切り開かれました。
　自立した女性となるために、こうした考え方について法学の観点から学んでみましょう。

授業の到達目標
　この授業では、こうしたジェンダーやセクシュアリティということばや、それらが法律とどうかかわっているのかということについて、具体的な題材を通じて学び、それまでの自分とは違う視点を得られるようにします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常的な出来事のなかに潜んでいるジェンダー／セクシュアリティ上の問題を、法的な視点から正しく分析するための視点を獲得することが大切です。

評価方法
1．確認テスト（レポート試験になることもありうる）の成績（90%）2．任意課題の提出（適宜加点する）3．受講態度などの勘案（10%）

教科書	参考図書
開講までに指示します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
座席指定制になります。

01	ガイダンスの実施（授業での約束事などについて説明します。）
02	導入：「セクシュアリティと法」とはなにか？
03	性別：法的性別の根拠は？
04	性同一性障がい：性別違和をもつ当事者に法は応答できているか？
05	性刑法：誰をどのように守るものであるべきか？
06	親子：性的マイノリティは親になれるのか？
07	婚姻：カップルの特別扱いに合理性はあるか？
08	暴力：ドメスティック・ヴァイオレンスは異性間だけの問題か？
09	企業：企業が性的マイノリティにできることとは？
10	学校教育：「性の多様性」学習の保障に向けて必要なこととは？
11	人権：誰のどのような人権か？
12	ノルム：平等か解放か？
13	クィア：クィアな視点は法になにをもたらすのか？
14	補論：科学・技術の発展が法や性的マイノリティに与える影響とは？
15	授業のまとめなど
16	なし

科目名:オフィススタディ	担当者:吉田　智美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ビジネス社会で働いていくために必要な基本的な心構え、知識を会社内でのケースを通して理解する。アルバイトを含め社会生活で必要とされるビジネスマナーを身に付け、様々な状況に臨機応変に対応できるように修得し、行動できるようにする。授業の流れは、最初に内容に関する説明を行い（インプット）、その後、プリントなどで問題を解き（アウトプット）し、知識の定着を図る。秘書検定2級の資格取得を目標にする。

授業の到達目標
大学生活やアルバイトなどの社会経験の中で、最低限困らないようにビジネスマナーを身に付け、臨機応変に対応できる力を身に付けていくことを目標とする。インターンシップなどで、社会人との関わりを持ちながら疑問に思ったことを、明らかにし、正しく行動することができるようなる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前課題や事後学修、復習、検定試験対策、確認テスト対策などでおおよそ30時間程度の予習復習を要する。具体的な内容に関しては、授業中に指示する。１～2回（事後）テキストの対応部分を読み、まとめる（4時間）3～4回（事前・事後）自分が使っている言葉や使われている言葉についての疑問点をあげ、正しく使うことができるようにする（4時間）5～11回（事後）テキストの対応部分を読み、授業中に間違えた問題を再度確認する（4時間）12～13回（事後）ビジネス文書を作成し、社内文書を確実にかけるようにする（4時間）14～15回（事前）授業で学んだ部分を秘書検定過去問題で確認（4時間）

評価方法
授業への参加態度（話し合いへの参加、提出物）４０％、実技試験20％、確認テスト20％

教科書	参考図書
秘書検定2級クイックマスター（秘書検定2級取得者も必要）、秘書検定2級実問題集（秘書検定2級取得者は、準1級問題集を使用）　前期に、秘書概論を受講した学生はそのまま同じテキストを使用する。	授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
前期の秘書概論と同じテキストを使用する。秘書概論を受講した学生は、オフィススタディで新しくテキストを購入する必要はない。

01	オリエンテーション　　仕事をする上で必要な心構え
02	職場と人間関係について
03	敬語と接遇用語について①　敬語の種類と使い分け
04	敬語と接遇用語について②　接遇用語
05	命令・指示の受け方、報告・説明の仕方について
06	苦情処理の仕方、断り方について
07	来客応対について①　応接室の対応、茶菓の出し方など
08	来客応対について②　上座・下座、紹介の仕方など
09	電話応対について①　言葉遣い
10	電話応対について②　会議中などの対応の仕方など
11	交際の業務（慶弔、贈り物のマナー）
12	ビジネス文書の作成①　社内文書
13	ビジネス文書の作成②　社外文書
14	書類の取り扱い方、資料管理
15	環境の整備　まとめ　確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:秘書概論	担当者:吉田　智美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
秘書業務を通じて、職業人として求められる資質や要求される役割などを学んでいく。さらに、秘書検定の問題やケースワークをもとに、具体的に必要とされる人材について理解をする。グループワーク（全５回）を行い、社会人としての心構えを認識する。

授業の到達目標
秘書としてだけでなく、職業人として取り巻く人間関係、関係対応などを知ることで将来働く姿をイメージし、学生時代とは異なる社会人としての対応ができるようなることを目標とする。秘書検定2級の検定合格を目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会問題に対して、新聞やニュースなどから積極的に知識を得るようにすること。事前課題や事後課題、検定対策、確認テスト対策などで、おおよそ30時間程度の予習復習を要する。具体的な内容に関しては、授業中に指示する。1回（事前）秘書検定はどのような問題なのか、テキストを読む（4時間）2-3回（事後）今までのコミュニケーションの仕方について、普段の生活に取り入れる（4時間）4～11回（事後）授業内で説明された部分をテキストで確認をし、間違えた問題を解き直し理解する（4時間）12-13回（事後）グループワークで学んだことをまとめる（4時間）14-15回（事前）学んだ部分を秘書検定の過去問題で確認する（4時間）

評価方法
授業への参加態度（話し合いへの参加、提出物）40%、レポート20%、確認テスト40%

教科書
秘書検定2級クイックマスター（秘書検定2級取得者も必要）、秘書検定2級実問題集（秘書検定2級取得者は準1級実問題集を使用）

参考図書
授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
秘書検定などの検定取得を目指し、主体的に学んでほしい。

01	オリエンテーション　学生と社会人との違いについて
02	社内・社外の人とのコミュニケーションについて①　聴き方、話し方　グループワーク
03	社内・社外の人とのコミュニケーションについて②　伝え方　グループワーク
04	秘書として備えるべき資質について
05	補佐役として秘書としての立場
06	秘書に求められる能力について
07	秘書の役割機能について
08	秘書を取り巻く人間関係について
09	仕事をしていく上で必要な職務知識について
10	秘書の日常業務①　定型業務について
11	秘書の日常業務②　非定型業務について
12	仕事をしていく上で求められる心構えについて　グループワーク
13	仕事をしていく上で求められる人材とは　グループワーク
14	企業で働くということについて
15	まとめ、確認テスト、解説
16	なし

2019年度シラバス

科目名:簿記	担当者:高木　義彦	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ビジネス社会で働く際に必要な基本知識としての簿記の基本原理を理解し、現代の企業の在り方や経営の仕組みを学ぶとともに、実社会に出たときに役立つ準備のための実践的な技術を身に付けます。簿記の習得のためには、自分で問題を解き、反復練習することが重要です。本授業では、問題演習を多く取り入れ、知識の確実な定着を図るため確認テスト（２回）を行います。

授業の到達目標
初めて簿記を勉強する人を対象として、日商簿記検定試験３級レベルの簿記の基本原理を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
＜準備学習＞教科書を使って、各単元の内容を事前に予習しておくこと。（30時間）＜事後学修＞記帳練習帳を確実に行い、内容を確認すること。（90時間）

評価方法
授業への参加態度（50%）確認テスト（50%）

教科書	参考図書
日商簿記３級テキスト（株式会社カリアック）	授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
反復繰り返しを大切に、記帳練習帳を活用して事後学修を確実に行い、内容を確認することが重要です。

01	企業の簿記
02	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表
03	収益・費用と損益計算書
04	取引と勘定記入
05	仕訳と転記
06	仕訳帳と総勘定元帳
07	試算表と精算表
08	損益計算書と貸借対照表
09	現金・預金の記帳（1）
10	現金・預金の記帳（2）
11	商品売買の記帳
12	掛け取引の記帳
13	手形取引の記帳
14	その他の債権・債務の記帳
15	まとめと小テスト（1）
16	有価証券の記帳
17	固定資産の記帳
18	純資産（資本）と税金の記帳
19	決算整理（売上原価の計算）
20	決算整理（貸し倒れの見積もり）
21	決算整理（減価償却）
22	決算整理（費用・収益の繰り延べ）
23	決算整理（費用・収益の見越し）
24	８桁精算表の作成（1）
25	８桁精算表の作成（2）
26	８桁精算表の作成（3）
27	財務諸表の作成
28	５伝票制と転記
29	総合演習
30	まとめと小テスト（2）
31	

2019年度シラバス

科目名:データベース演習	担当者:伊藤　宏隆	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ビジネスにおいて収集したデータの管理と分析は重要な業務となっている。この授業では、EXCEL のデータベース機能を用いて、データ管理とデータ分析について学習する。一人一台パソコンを使用して、例題の学習、練習問題、課題演習を行う。

授業の到達目標
例題や演習の遂行を通して、EXCELのデータベース機能を自由自在に使いこなし、ビジネス実務で活用できるようなデータの入力、編集、並べ替え、抽出、関数の活用やデータ分析のスキルを身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業前には、教科書を読んで授業内容を事前に把握しておく（2時間）。授業後には、授業で学習した内容をパソコンを使用して復習し、各回で課された課題を遂行する（2時間）

評価方法
授業への参加態度 20%　課題80%

教科書	参考図書
今すぐ使えるかんたんEx　Excelデータベース　プロ技BESTセレクション　国本温子　技術評論社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料の掲示、授業連絡はMoodleにて行う。

01	データベースの基礎
02	データベース、テーブルの作成
03	データの入力、編集
04	データベース作成の演習
05	データの並べ替えと抽出
06	データの集計と条件付き書式
07	データの並べ替え、抽出、集計の演習
08	関数の活用(1)：合計、件数
09	関数の活用(2)：平均、順位、偏差値
10	関数の活用の演習
11	ピボットテーブルにょるデータの分析
12	ピボットグラフによるデータの見える化
13	ピボットテーブル、ピボットグラフの演習
14	データの効率的な管理
15	総合演習
16	

2019年度シラバス

科目名:コンピュータ・ネットワーク	担当者:木下　博光	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
コンピュータの基本である、2進数の計算から始め、通信の仕組みを学習していく。ソーラーパネルを使った光通信の実験なども行う。

授業の到達目標
コンピュータやインターネットなど、近年の情報技術の進展は著しい。現代の情報社会において、これらの仕組みを正しく理解し使用することが求められている。この講義ではこれからの社会参加に向けて、コンピュータネットワークに関する基礎的な知識を習得することを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
パソコン情報のホームページなどを見て、最新の技術に関心を持つ。

評価方法
15回目に行う確認テスト（100%）の成績により評価する。

教科書	参考図書
随時プリント配布	栢木先生のITパスポート教室　平成３１／０１年　出版社:技術評論社　ISBN: 9784297101817

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
最近では各メディアで情報機器や技術に関する話題を目にする機会も多いと思います。講義の理解を深めるためにも、日頃から関心をよせるように心がけましょう。参考図書の購入を強く勧めます。

01	ガイダンス
02	コンピュータネットワークの歴史
03	2進数の計算
04	16進数の計算
05	通信ネットワークの原理　bit、bps
06	パソコンの仕組み（ハードウェア）CPU・RAM・HDD・VGA・Ethernet
07	通信機器の仕組み（ハードウェア）サーバーとクライアント構成
08	ソフトウエアの仕組み（クライアント編）ブラウザーとメーラー
09	ソフトウエアの仕組み（サーバー編）Webサーバの役割と機能
10	ネットワーク層・トランスポート層・アプリケーション層
11	イーサネット（LAN)構成法・IPv4・IPv6, 無線LAN
12	情報セキュリティ対策　ウィルス対策、不正アクセス
13	クラウドコンピューティング SaaS（アプリケーション）、IaaS（ハードウェア）
14	最新の通信技術紹介
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:ＩＴパスポート入門	担当者:木下　博光	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 ストラテジ系（経営全般）、マネジメント系（IT管理）、テクノロジ系（IT技術）の各分野の基礎から取り組み、毎回CBT（Computer Based Testing）を使って問題を解いていく。
授業の到達目標 経営戦略、マーケティング、財務、法務など経営全般をはじめ、セキュリティ、ネットワークなどのITの基礎知識、プロジェクトマネジメント知識など幅広い分野の知識習得し、国家試験「ITパスポート」取得を目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 過去問題集を活用して国家試験対策を行う。
評価方法 15回目に行う確認テスト（100%）の成績により評価する。

教科書	参考図書
随時プリント配布	栢木先生のITパスポート教室　平成31/01年　出版社: 技術評論社　ISBN: 9784297101817

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 就職内定後、企業からITパスポート取得を求められる学生が毎年出てきます。就職活動前に取得することを強く勧めます。

01	ガイダンス　国家試験受験方法と合格基準
02	テクノロジ系（基礎理論）
03	テクノロジ系（アルゴリズムとプログラミング）
04	テクノロジ系（コンピュータ構成要素・システム構成要素）
05	テクノロジ系（ソフトウエア・データベース）
06	テクノロジ系（マルチメディア・ネットワーク・セキュリティ）
07	ストラテジ系（会計・財務・経営戦略）
08	ストラテジ系（ビジネスインダストリ・システム戦略）
09	ストラテジ系（知的財産権・標準化関連）
10	マネジメント系（システム開発技術・開発プロセス・手法）
11	マネジメント系（プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント）
12	マネジメント系（システム監査）
13	過去問1
14	過去問2
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:Ｅｘｃｅｌ演習	担当者:岩佐　孝子　鈴村　市恵	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 「Microsoft Office specialist (MOS) Excel2016」とは企業が求めるパソコンスキルにおいて、有益な資格である。その資格取得対策として、この授業は4日間とプラス非常時用予備日1日で集中開催される。 模擬試験を通して、試験のノウハウを身につけ、必要な操作を習得する。 　また、資格取得試験は授業とは別日に、学外にて予定している。
授業の到達目標 Microsoft Office Specialist(MOS)　Excel2016の資格取得を目標とする。 社会で活用が求められる、Microsoft Excelの技術を、MOS Excel2016対策テキストを利用し、実践的に身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 事後学修として、授業で習った操作を繰り返し練習し、身に付けておくこと。 授業後と予備日の教室開放を有効活用する。
評価方法 授業への参加態度60%　模擬試験30%　資格試験合否の結果10%によって総合的に評価する。 各担当教員の話をよく聞くこと。

教科書	参考図書
MOS Excel 2016対策テキスト& 問題集 (FOM出版)	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡先は授業で開示する。 受験料として9,800円＋税が必要となる。 集中開催のため、休むと授業についてこれなくなるので注意すること。

01	MOS試験概要、出題範囲１（ワークシートやブックの作成と管理）
02	出題範囲２（セルやセル範囲のデータの管理）
03	出題範囲３（テーブルの作成）
04	出題範囲４（数式や関数を使用した演算の実行）
05	受験者登録
06	出題範囲５（グラフやオブジェクトの作成）
07	模擬試験１
08	模擬試験２
09	模擬試験３
10	模擬試験４
11	模擬試験５
12	模擬試験補足
13	受験準備（最終確認）
14	受験操作説明
15	学外における検定試験
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＡ	担当者:李　正子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
これからの時代は、外国人との共生が必要となる。このような時代や社会環境の変化に対して的確に対応するためにも、英語以外の外国語習得、特にアジア言語の習得は必須であると思われる。また、より広い視野に立って物事を考えるためにも他国の言語や文化を学ぶことは有意義である。韓国語と韓国文化１では、上記の内容を念頭におき、初級レベルの韓国語の文法と会話、文化について理解を深める。

授業の到達目標
ハングル（韓国語の文字）が読めるようになり、簡単な日常会話ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学習：その日に学習する課のCDを聞き、音読の練習をする。事後学習：その日に学んだ単語を覚え、本文とともに覚える。

評価方法
授業への参加態度：30%、確認テスト（4回）：60%、課題・提出物：10%

教科書	参考図書
「即！実践　楽しもう韓国語」金孝珍、白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
好奇心、興味をもって授業に臨むこと。積極的な姿勢が質問を生み、質問が増えれば学習効果が高まるはず。

01	授業の説明、導入
02	文字編　第１課　基本母音
03	文字編　第２課　子音（１）
04	文字編　第３課　子音（２） 文字編　第３課　子音（２） 課
05	復習とまとめ、ミニ会話
06	文字編　第４課　複合母音
07	文字編　第５課　終声、日本語のハングル表記
08	確認テスト、文化体験　映画鑑賞①
09	文化体験　映画鑑賞②
10	文字編　第６課　発音の変化、子音の名前
11	会話編　第１課①　～は、名詞です（か？）　名詞文の합니다体
12	会話編　第１課②　～も、～と申します
13	会話編　第２課①　～が、～ではありません
14	会話編　第２課②　～は何ですか？名詞文の해요体、専攻
15	授業と確認テスト
16	
17	会話編　第３課②　～と、～に（位置）
18	会話編　第４課①　です/ます　用言文の합니다体、～を
19	会話編　第４課②　～で（場所）、～に（時間）
20	調理実習
21	会話編　第５課①　用言文の해요体①
22	会話編　第５課②　用言文の해요体②、～しに（目的）
23	確認テスト
24	会話編　第６課①　否定形、～より（比較）
25	会話編　第６課②　～で（手段、方法、方向）、～から～まで（場所）
26	会話編　第７課①　漢数詞、誕生日、誕生日の歌
27	会話編　第７課②　同意を求める語尾、感嘆を表す語尾
28	会話編　第８課①　固有数詞、時間表現
29	会話編　第８課②　～から～まで（時間）
30	確認テスト

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＡ	担当者:金　昭鎤	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
韓国語と韓国文化ＩＡ
グローバル化が進む現代社会において他国を理解することは大切です。特に最も近い国、韓国の言語や文化を知ることはお互いを理解するために重要な意味を持つと思われます。韓国語と韓国文化ＩＡでは韓国語の文字と基礎文法を学びつつ、韓国の文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
ハングルを習得し、旅行など実際の場面で役に立つ表現が話せるようになります。また実践的な会話能力を身に付け、テキストの読解を通して語彙力、表現能力を高めていきます。「読む、書く、聴く、話す」の四技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を高めることによって、言語にとどまらず、隣国の文化に対する理解を深めることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する各課のCDを聞き、音読の練習をしてください。（所要時間約30分）
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。（所要時間約30分）
その他日頃、k-popや韓国語ドラマなどの身近な韓国の文化に触れることをお勧めします。

評価方法
授業への参加程度３０％、確認テスト４０％、課題３０％

教科書	参考図書
『即！実践　楽しもう韓国語』　白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学は日々の重ねが重要です。授業内容を必ず復習するようにしてください。

01	オリエンテーション及びハングルのしくみ
02	文字編　第１課　基本母音
03	文字編　第２課　子音（１）
04	文字編　第３課　子音（２）
05	まとめ、確認テスト、ミニ会話
06	文字編　第４課　複合母音
07	文字編　第５課　終声、日本語のハングル表記
08	文字のまとめ、文化体験　映画鑑賞①
09	文化体験　映画鑑賞②
10	文字編　第６課　発音の変化①子音の名称
11	文字編　第６課　発音の変化②あいさつ言葉
12	まとめ、確認テスト、日本語のハングル表記
13	会話編　第１課①　～は、～です
14	会話編　第１課②　～も、～と申します、自己紹介
15	まとめ、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＡ	担当者:金　三淑	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
これからの時代は、外国人との共生、特にアジアからの外国人との付き合いが無条件に必要となります。このような時代や社会環境の変化に対して的確に対応するためにも、英語以外の外国語習得、特にアジア言語の習得は必須であると思われます。また、より広い視野に立って物事を考えるためにも他国の言語や文化を学ぶことは有意義です。韓国語と韓国文化１では、上記の内容を念頭におき、基本的な韓国語の文法と会話、文化について理解を深めます。

授業の到達目標
ハングル（韓国語の文字）が読めるようになり、簡単な日常会話ができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分。事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分。K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度：30%、確認テスト：40%、課題：30%

教科書	参考図書
教科書「即！実践　楽しもう韓国語」金孝珍著、白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
好奇心、興味をもって授業に臨んでください。積極的な姿勢が質問を生み、質問が増えれば学習効果が高まります。

01	ガイダンス
02	文字編　第１課　基本母音
03	文字編　第２課　子音（１）
04	文字編　第３課　子音（２）
05	まとめ、確認テスト、ミニ会話
06	文字編　第４課　複合母音
07	文字編　第５課　終声、日本語のハングル表記
08	確認テスト、文化体験　映画鑑賞①
09	文化体験　映画鑑賞②
10	文字編　第６課　発音の変化①　子音の名称
11	文字編　第６課　発音の変化②、あいさつ言葉
12	まとめ、確認テスト、日本語のハングル表記
13	会話編　第１課①　～は、～です
14	会話編　第１課②　～も、～と申します、あいさつの表現
15	まとめ、確認テスト
16	なし
17	会話編　第３課①　こそあど（指示詞）、あります・ありません、家族
18	会話編　第３課②　～と、～に、位置を表す言葉
19	会話編　第４課①　です・ます、～を
20	会話編　第４課②　～で（場所）、～に（時間）
21	確認テスト（自己紹介）　文化体験　映画鑑賞①
22	文化体験　映画鑑賞②
23	会話編　第５課①　用言の丁寧語①
24	会話編　第５課②　用言の丁寧語②、～しに（目的）
25	確認テスト
26	会話編　第６課①　否定形、～より（比較）
27	調理実習
28	会話編　第７課①　漢数詞、誕生日、誕生日の歌
29	会話編　第７課②　同意を求める語尾、感嘆を表す語尾
30	確認テスト
31	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＢ	担当者:李　正子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
同じ教科書の会話編３課からスタートし、初級レベルの韓国語の文法と会話、また文化について理解を深める。

授業の到達目標
韓国語と韓国文化１で学んだ「ハングル」という文字を使って、読み、聞き、書き、話すことを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学習：その日に学習する課のCDを聞き、音読の練習をする。
事後学習：その日に学んだ単語を覚え、本文とともに覚える。

評価方法
授業への参加態度：30%、確認テスト（4回）：60%、課題・提出物：10%

教科書	参考図書 「即！実践　楽しもう韓国語」金孝珍、白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
好奇心、興味をもって授業に臨むこと。積極的な姿勢が質問を生み、質問が増えれば学習効果が高まるはず。

01	会話編　第３課（１）この・その・あの、～と
02	会話編　第３課（２）位置を表す言葉、～にあります
03	会話編　第４課（１）합니다体、～を
04	会話編　第４課（２）～に、～で
05	第３課、第４課まとめと小テスト（합니다体）
06	会話編　第５課（１）해요体１
07	会話編　第５課（２）해요体２、～しに行きます
08	まとめと中間テスト
09	文化体験 文化体験「韓国料理について」
10	会話編　第６課（１）否定形１、～の方へ、～より
11	会話編　第６課（２）否定形２、～から～まで
12	第６課まとめと小テスト
13	会話編　第７課（１）漢数詞、何月何日
14	会話編　第７課（２）同意・確認の語尾、感嘆・驚きの語尾
15	まとめと期末テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＢ	担当者:金　昭鋏	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
韓国語と韓国文化ＩＢ
グローバル化が進む現代社会において他国を理解することは大切です。特に最も近い国、韓国の言語や文化を知ることはお互い理解するために重要な意味を持つと思われます。韓国語と韓国文化ＩＢでは韓国語の文字と基礎文法を学び、韓国の文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習するとともに、日本語や日本文化との対比の観点から韓国語や韓国文化に対する理解を深めることが目的です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する各課のCDを聞き、音読の練習をしてください。（所要時間約30分）
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。（所要時間約30分）
その他日頃、k-popや韓国語ドラマなどの身近な韓国の文化に触れることをお勧めします。

評価方法
授業への態度３０％、確認テスト４０％、課題３０％

教科書	参考図書
『即！実践　楽しもう韓国語』　白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、積極的に授業に参加してください。
語学は日々の重ねが重要です。授業内容を必ず復習するようにしてください。

01	オリエンテーション及び前期の復習
02	会話編　第２課①　전공이 뭐예요? 専攻は何ですか。
03	会話編　第２課②　語彙プラス　趣味，国の名前
04	会話編　第３課①　도서관 옆에 있습니다. 図書館の横にあります。
05	会話編　第３課②　文化コーナー人を呼ぶときの表現
06	まとめ、確認テスト
07	会話編　第４課①　토요일은 아르바이트를 합니다. 土曜日はアルバイトをします。
08	会話編　第４課②　曜日のまとめ、語彙プラス
09	確認テスト、文化体験　映画鑑賞①
10	文化体験　映画鑑賞②
11	会話編　第５課①　한국 영화를 좋아해요? 韓国映画が好きですか。
12	会話編　第５課②　ワークシート합니다体と해요体
13	会話編　第６課①　별로 안 멀어요. あまり遠くありません。
14	会話編　第６課②　～より、から、までの表現
15	まとめ、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と韓国文化ＩＢ	担当者:金　三淑	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
これからの時代は、外国人との共生、特にアジアからの外国人との付き合いが無条件に必要となります。このような時代や社会環境の変化に対して的確に対応するためにも、英語以外の外国語習得、特にアジア言語の習得は必須であると思われます。また、より広い視野に立って物事を考えるためにも他国の言語や文化を学ぶことは有意義です。韓国語と韓国文化１Ｂでは、上記の内容を念頭におき、基本的な韓国語の文法と会話、文化について理解を深めます。

授業の到達目標
ハングル（韓国語の文字）が読めるようになり、簡単な日常会話ができるようになります。みんなの前で自己紹介ができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分。事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分。K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度　30%、確認テスト　40%、課題　30%

教科書	参考図書
教科書「即！実践　楽しもう韓国語」金孝珍著、白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
好奇心、興味をもって授業に臨んでください。積極的な姿勢が質問を生み、質問が増えれば学習効果が高まります。

01	前期の内容の復習
02	会話編　第２課　　전공이 뭐예요? 専攻は何ですか。
03	会話編　第３課①　 도서관 옆에 있습니다.　 図書館の横にあります。
04	会話編　第３課②　文化コーナー　人を呼ぶときの表現Ⅱ
05	まとめ、確認テスト
06	会話編　第４課①　 토요일은 아르바이트를 합니다. 土曜日はアルバイトをします。
07	会話編　第４課②　　曜日のまとめ、語彙プラス
08	確認テスト（自己紹介）、文化体験Ｉ　映画鑑賞①
09	文化体験Ｉ　映画鑑賞②
10	会話編　第５課①　한국 영화를 좋아해요?　韓国映画が好きですか。
11	会話編　第５課②　ワークシート　합니다体と해요体
12	文化体験Ⅱ　韓国の歌など
13	会話編　第６課①　　별로 안 멀어요. あまり遠くありません。
14	会話編　第６課②　　～より、～から～まで等の表現
15	まとめ、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:中国語と中国文化ＩＡ	担当者:張　書 涵,李　瑾	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業では、発音から学習する中国語の入門コースで、主に初歩的な表現とその応用を中心に行い、同時に初級の発音、語彙、文法事項をマスターしていく。中国語の土台となる中国の歴史と文化などについて授業の内容に織り交ぜて紹介し、また、中国の食文化、若者の生活などについても理解を深めていく。

授業の到達目標
　中国語の特徴や入門レベルでの表現形式を学んでいく共に、実際のコミュニケーションに役立つ簡単な中国語を身につけることを目標とする。発音や表現などについては細かい指導をし、文法、表現の構造など説明した上で、毎回グループ会話発表を通して定着を図り、更に必要に従い、授業の補助手段として音声教材などを使って行っていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業は演習を中心とするため、添付のＣＤを十分に利用し、授業中に出された課題や予習、復習をしっかりと行い、授業に積極的に取り組んでください。

評価方法
　授業で会話発表や参加状況20%、テスト80%

教科書	参考図書
『実学実用初級中国語』陳　淑梅・劉光赤　著　朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　メールなどで連絡手段とする。

01	ガイダンス・中国語の概要
02	第１課　声調と単母音 第１ 第１課　声調と単母音
03	第１課　ドリル練習
04	第２課　複母音
05	第２課　ドリル練習
06	文化体験　切り紙
07	第３課　子音
08	第３課　ドリル練習
09	第４課　鼻母音・ｒ化
10	第４課　ドリル練習　漢詩を読む
11	発音のまとめ・確認テスト
12	第５課　キャンパスで初対面
13	第５課　ドリル練習
14	会話練習と発表
15	前期のまとめと確認テスト
16	
17	第７課　喫茶店で
18	ドリル練習⑦
19	会話練習と発表
20	文化体験　中国の詩
21	第８課　趣味を語る
22	ドリル練習⑧
23	会話練習と発表⑧
24	文化体験　中華料理
25	第９課　Tシャツを買う
26	ドリル練習⑨
27	会話練習発表⑨
28	文化体験　中国の歌
29	後期のまとめ
30	確認テスト
31	なし

2019年度シラバス

科目名:中国語と中国文化ＩＢ	担当者:張　書 涵,李　瑾	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業では、発音から学習する中国語の入門コースで、主に初歩的な表現とその応用を中心に行い、同時に初級の発音、語彙、文法事項をマスターしていく。中国語の土台となる中国の歴史と文化などについて授業の内容に織り交ぜて紹介し、また、中国の食文化、若者の生活などについても理解を深めていく

授業の到達目標
　中国語の特徴や入門レベルでの表現形式を学んでいく共に、実際のコミュニケーションに役立つ簡単な中国語を身につけることを目標とする。発音や表現などについては細かい指導をし、文法、表現の構造など説明した上で、毎回グループ会話発表を通して定着を図り、更に必要に従い、授業の補助手段として音声教材などを使って行っていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業は演習を中心とするため、添付のＣＤを十分に利用し、授業中に出された課題や予習、復習をしっかりと行い、授業に積極的に取り組んでください。

評価方法
　授業で会話発表や参加状況20%、テスト80%

教科書	参考図書
『実学実用初級中国語』陳　淑梅・劉光赤　著　朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　メールなどで連絡手段とする。

01	前期の復習
02	第６課　名前を尋ねる
03	第６課　ドリルの練習
04	第７課　喫茶店で
05	第７課　ドリルの練習
06	文化体験　映画鑑賞
07	第８課　趣味を語る
08	第８課　ドリルの練習 第８課　ドリルの練習
09	第９課　Tシャツを買う
10	第９課　ドリルの復習
11	食文化の体験
12	食文化の体験
13	第10課　レストランで
14	第10課　ドリルの練習
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:アジアの歴史	担当者:布　和	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は、現代教養学科が掲げるディプロマポリシーの一部である「幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って、物事を考えていくことが出来る思考力」という内容に関連している。授業では、アジア各地域の歴史を紙媒体資料及び視聴覚資料を使って、近現代史中心に学ぶ。授業過程では、グループ学習やプレゼンテーションを取り入れる形でより知識に対する理解を一層深めるつもりである。

授業の到達目標
15回の授業を通じて、学生たちはアジアの歴史に関する基本的な知識を身につけ、また、アジア各国の現状についての理解もより一層深めるはずである。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
なるべく資料を事前に配布し、授業の予習と復習は、少なくともそれぞれ2時間程度行うこと

評価方法
欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション（30%）及びレポート（40%）で総合評価する。

教科書	参考図書
教科書を使わないが、講義ごとにプリントを配布する。	授業中に知らせる。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業進度は事情によって多少な変化が生じる。教員の連絡先及びオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	講義紹介（アジアの歴史とは）
02	１東アジアの歴史（全般）
03	①日本の歴史
04	②中国の歴史
05	③朝鮮半島の歴史
06	２東南アジアの歴史（全般）
07	①島嶼部の歴史
08	②大陸部の歴史
09	第一回目の学生によるプレゼンテーション
10	３南アジアの歴史（全般）
11	①インドの歴史
12	②その他の国の歴史
13	４西アジアの歴史
14	５中央アジアの歴史
15	第二回目のプレゼンテーション
16	なし

2019年度シラバス

科目名:国際経済入門	担当者:茶谷　淳一	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
外国貿易や外国為替のしくみや国際通貨ドルの「秘密」など、国際経済問題を理解するために必要な基本的なことがらを学びながら、国際経済の視点から現実の経済社会で起こっている諸問題について自分なりに考える力を養います。

授業の到達目標
①世界経済や国際経済に関する新聞記事やニュースに関心を持って触れようとするようになる。②現代社会を理解するために必要な国際経済の基本的な知識を習得し、今、世界で起こっていることについて自分なりに考えることができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テレビのニュースやドキュメンタリーを見たり、新聞の「見出し」を毎日眺めるようにしましょう。また各単元終了後に出題される課題を解き、提出しましょう。

評価方法
各単元終了後の確認テスト課題（5点×２）＋期末の確認テスト（90点）。コメントシートも参考にします。単元終了後の確認テスト課題の再試験は行いません。欠席した場合、後日試験用紙を受け取ることはできません。

教科書	参考図書
なし。授業時に配布するレジュメを使います	グローバルエコノミー（岩本ほか著　有斐閣）、１ドル札の動きでわかる経済のしくみ（かんき書房）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
重要なニュースの説明などのため、授業が予定通りに進まないことがあります。レジュメの余白にメモを取ること。質問は木曜昼休みに研究室へ。途中退出・遅刻・私語など受講マナーを守れない場合は受講を取り消します。

01	この講義のねらいと、評価について　日本の貿易構造をみる
02	なぜ後れた国が輸出できるのか？　国によって得意な商品が異なる　比較優位
03	産業の空洞化と保護主義
04	HO仮説と交易条件
05	モノカルチャー構造と貿易
06	新しい貿易の試み～フェアトレード
07	「貿易」のまとめ　単元ごとの確認テストの解答と解説
08	お金は国によって異なる　両替と為替取引
09	外国為替相場はどのように決まるのか？①
10	外国為替相場はどのように決まるのか？②　日本「円」の為替相場の歴史
11	「１ドル＝120円」は単なる数式か？　「ドル」ってなあに？
12	「USドル」が基軸通貨・国際通貨になった理由　「ドル」の前はいつも“１”
13	基軸通貨・国際通貨ドルがアメリカにもたらすメリット　為替相場の変動はよいことか？
14	「ドル」と私たちの暮らし　「外国為替」のまとめ　単元ごとの確認テストの解答と解説
15	授業のまとめと期末の確認テスト
16	なし

科目名:ホテルインターンシップ	担当者:ホテルインターンシップ運営委員会、教養演習Ⅰ担当教員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　大学の提携したホテルや旅館にて、接客の業務や、関連する現場の管理、事務、行事運営などの仕事を研修生として体験する。研修先での研修だけでなく、事前の説明会やガイダンスなどへの出席、事前訪問、および研修終了後の振り返りも授業に含まれる。

授業の到達目標
　接客やホスピタリティに関する仕事のイメージを体得する。また、将来ホテル等で働くために必要となる技能、知識、心構えなどを理解して、その後の学習に取り入れていく。また、学外での実社会の方との関わりの中で、社会人として必要になるコミュニケーション力や情況把握力、責任感などを養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　説明会は他のインターンシップと合同で開催される場合もあり、昼休みなどに実施されるので、掲示版の案内を見て確認すること。履歴書などの書類の提出や、場合によっては事前訪問なども必要になる。
　実習中は現場の職員やスタッフの方と同様の責任感および緊張感のある行動が求められる。そのために礼儀作法や身だしなみ、一般常識、コミュニケーション能力などについて、普段から(日常的に)意識を高めておく必要がある。

評価方法
　研修日誌と研修レポートをもとにした研修内容と研修成果（60%)、実習先の評価と事前事後の指導をもとにした研修態度（40%)、という割合で評価する。

教科書	参考図書
ガイダンスなどで適宜指示する。	『就職ガイドブック』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
通常の授業科目とは、履修登録の時期や方法が異なるので、注意する。
学生課が窓口となり、緊急な連絡などもあるので、メールなどで迅速な連絡ができるようにしておくこと。

01	事前指導、研修、事後指導から構成される。 事前指導：（7時間） (1) 研修先や研修概要に関する説明会 (2) 希望人数によっては選考 (3) 研修先ごとのガイダンス (4) 研修先の事前訪問 研修：（50時間） ・前期は夏季休業、後期は春季休業中に各自の研修実施先にて研修を行う。 ・研修内容は、実習先によって異なる。基本的に研修者のために用意されたプログラムに従って研修を行い、 実施先での担当者による指導を受ける。 事後指導：（3時間） (1) 研修日誌の提出 (2) 研修レポートの作成
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:フランス語とフランス文化ＩＡ	担当者:伊奈　友梨子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、英語以外の外国語や外国文化に触れることで、幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って物事を考える思考力を育てることに貢献します。
教科書に沿って授業を進めます。15回の授業の中で3-4回、単語や会話表現などの確認テストを実施し、授業内容をきちんと理解できているかを確認します。また、授業中に簡単な会話の練習を行います。

授業の到達目標
1.　フランス語の単語が読めるようになる。
2.　フランス語であいさつ、自己紹介ができるようになる。
3.　フランス語で短い文章を読めるようになる。
4.　フランスの文化を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の復習をきちんと行うこと。特に単語や会話表現をしっかり覚えるように意識して学習してください。

評価方法
定期試験50％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度25％（会話練習など）、総合的に評価します。

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業にきちんと参加し、各自復習を実施してください。質問は授業前後に受け付けます。

01	オリエンテーション
02	アルファベ、フランス語の発音
03	つづり字の読み方、あいさつ
04	フランスの文化と社会①（フランスの学生生活）
05	テオとユリが自己紹介します（1）
06	フランスの文化と社会②（フランス雑学）
07	テオとユリが自己紹介します（2）
08	フランスの文化と社会③（カフェ）
09	ユリがテオの店を訪れます
10	フランスの文化と社会④（フランス人の生活観）
11	兄弟・姉妹について話します
12	フランスの文化と社会⑤（ショッピング）
13	テオがユリの妹について尋ねます
14	フランスの文化と社会⑥（レストラン）
15	総復習と確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:フランス語とフランス文化ＩＢ	担当者:伊奈　友梨子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、英語以外の外国語や外国文化に触れることで、幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って物事を考える思考力を育てることに貢献します。
教科書に沿って授業を進めます。15回の授業の中で3-4回、単語や会話表現などの確認テストを実施し、授業内容をきちんと理解できているかを確認します。また、最後には『星の王子さま』を原文で読むことに挑戦します。

授業の到達目標
1.　フランス語の単語が正しく読めるようになる。
2.　フランス語の基本表現を言うことができるようになる。
3.　フランス語で短い文章を読めるようになる。
4.　フランスの文化を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の復習をきちんと行うこと。特に単語や会話表現をしっかり覚えるように意識して学習してください。

評価方法
定期試験50％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度25％（会話練習など）、総合的に評価します。

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業にきちんと参加し、各自復習を実施してください。質問は授業前後に受け付けます。

01	前期の復習①
02	前期の復習②
03	テオはユリを食事に誘います
04	フランスの文化と社会①（フランス人の祝日と週末）
05	二人が週末の予定を話します
06	フランスの文化と社会②（パリ近郊への一日の旅）
07	モン・サン・ミシェルを訪れます
08	フランスの文化と社会③（フランスの世界遺産）
09	モン・サン・ミシェルで満ち潮を待ちます
10	フランスの文化と社会④（フランスの地方都市）
11	テオがユリを両親に紹介します
12	テキストの総復習
13	『星の王子さま』を原文で読む①
14	『星の王子さま』を原文で読む②
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語と英米文化ＩＡ	担当者:三浦　紀美代	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、イギリスを旅していく設定で書かれたエッセイや会話を題材にして、リーディング、リスニング、文法を中心に演習を行います。またイギリスを舞台にした映画や映像を使用し、イギリス文化に対する理解も深めます。またフレーズ集を用い、日常生活で使用する表現をペアワークでの練習を通し学びます。

授業の到達目標
この授業は学生が文法事項を理解し、英文を正確に読み取り、聴くことができるようになることを目標とします。また、イギリス文化に対する理解を深めます。更には、実際のコミュニケーションの場で使用される簡単な会話を理解し、実践できるようになることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習をすることが大切です。授業始めにフレーズ集からの確認テストを行うので準備が必要です。また、日頃から英語を聴き、海外ニュースを観るなど異文化に対し意識を向けるようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度10%　確認テストとリスニング課題30%　Review test 60%で総合的に評価します。

教科書	参考図書
″Let’s Check Out the UK!”(金星堂)　“Active Communication with Phrases”(南雲堂)	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習復習を継続していくことで英語の力は伸びていきます。授業には必ず辞書を持参して下さい。

01	Introduction
02	Day 1 I Can’t Wait to Explore Britain! (Listening, Vocabulary , Grammar)
03	Day 1 I Can’t Wait to Explore Britain! (Reading) / Phrase ①
04	Day 2 How about Going to a Pub? (Listening , Vocabulary, Grammar) / Phrase ②
05	Day 2 How about Going to a Pub? (Reading)/Phrase ③
06	Day 3 The Scenery is Breathtaking, Isn’t It? (Listening, Vocabulary, Grammar)/Phrase④
07	Day 3 The Scenery is Breathtaking, Isn’t It? (Reading) / Phrase ⑤
08	Review (Day 1~ Day 3) / Phrase ⑥
09	Day 4 What Do You Suggest We Do Today? (Listening, Vocabulary, Grammar)/Phrase ⑦
10	Day 4 What Do You Suggest We Do Today? (Reading) / Phrase⑧
11	Day 5 This Is a Multi-Ethnic Country (Listening, Vocabulary, Grammar) / Phrase ⑨
12	Day 5 This Is a Multi-Ethnic Country (Reading) / Phrase ⑩
13	Day 6 What’s It Like Being a Student in the UK?(Listening,Vocabulary,Grammar,Reading)
14	Day 7 Mmm…It Sounds Too Risky (Listening, Vocabulary, Grammar, Reading)
15	まとめとReview test (Day 4~ Day 7)
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語と英米文化ＩＡ	担当者:樋田　禎美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「英語ドリル」を用いて日常生活で使える慣用表現を練習しながら、英語でやり取りする基礎を養います。伝えたいことを気持ちをこめて話す練習をします。イギリス旅行をする登場人物と共にイギリスの社会や美しい風景、歴史、そこに暮らす人々と出会って、異文化理解を深めます。

授業の到達目標
１．状況に応じた自然な表現を使える
２．会話を続けようとする意欲をもつ
３．英国文化を学び、異文化を尊重して違いを楽しむ気持ちをもつ
４．まとまりのある文章を読み、大意をつかめる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
英語ドリルのCDを聞いて、課題に取り組んでください。Let's Check Out the UK!の音声はダウンロードしてリスニング問題に取り組み、語彙の発音と強勢を確認し、通じる英語を目指しましょう。

評価方法
授業への参加態度15%　提出物30%　確認テスト55%

教科書	参考図書
Let's Check Out the UK!（金星堂）Active Communication wih Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外のニュースやドラマ、映画をたくさん観てください。連絡手段はオリエンテーションで伝えます。

01	オリエンテーション
02	英語ドリル　Unit１ Eating Out　Day 1:I Can't Wait to Explore Britain!
03	英語ドリル　Unit 2 Transportation　Day 2:How about Going to a Pub?
04	英語ドリル　Unit 3 College& University Life　Day 3:The Scenery Is Breathtaking, Isn't it?
05	英語ドリル　Unit 4 Fashion　Day 4:what Do You Suggest We Do Today?
06	英語ドリル　Unit 5 Part-time Jobs　Day 1,2 復習
07	英語ドリル　復習 Unit 1-5　確認テスト①　Day 3,4 復習
08	英語ドリル　Unit 6 Hair&Make-Up　Day 5:This Is a Multi-Ethnic Country
09	英語ドリル　Unit 7 Shopping　Day 6:What's It Like Being a Student in the UK?
10	英語ドリル　Unit 8 Dating　Day 7:Mmm...It Sounds Too Risky
11	英語ドリル　Unit 9 Technology　Day 8:You Should Try Fish and Chips!
12	英語ドリル　Unit 10 Health　Day 5,6 復習
13	英語ドリル　復習 Unit 6-10　Day 7,8 復習
14	英語ドリル　復習 Unit 1-10　Day 1-4 復習
15	英語ドリル　復習 Unit 1-10　確認テスト②　Day 5-8 復習
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語と英米文化ＩＢ	担当者:三浦　紀美代	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、イギリスを旅していく設定で書かれたエッセイや会話を題材にして、リーディング、リスニング、文法を中心に演習を行います。またイギリスを舞台にした映画や映像を使用し、イギリス文化に対する理解も深めます。またフレーズ集を用い、日常生活で使用する表現をペアワークでの練習を通し学びます。

授業の到達目標
この授業は学生が文法事項を理解し、英文を正確に読み取り、聴くことができるようになることを目標とします。また、イギリス文化に対する理解を深めます。更には、実際のコミュニケーションの場で使用される簡単な会話を理解し、実践できるようになることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習をすることが大切です。授業始めにフレーズ集からの確認テストを行うので準備が必要です。また、日頃から英語を聴き、海外ニュースを観るなど異文化に対し意識を向けるようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度10%　確認テストとリスニング課題30%　Review Test 60%で総合的に評価します。

教科書	参考図書
“Let’s Check Out the UK!”(金星堂)　“Active Communication with Phrases”　(南雲堂)	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習復習を継続していくことで英語の力は伸びていきます。授業には必ず辞書を持参して下さい。

01	Introduction
02	Day 8 You Should Try Fish and Chips! (Listening, Vocabulary, Grammar,Reading)
03	Day 9 It’s Fun Listening to Different Accents (Listening, Vocabulary, Grammar)/Phrase⑪
04	Day 9 It’s Fun Listening to Different Accents (Reading)/Phrase ⑫
05	Day 10 Do You Fancy Something Sweet? (Listening, Vocabulary, Grammar) / Phrase ⑬
06	Day 10 Do You Fancy Something Sweet? (Reading) / Phrase ⑭
07	Day 11 I Should Have a Black-Cab Experience (Listening,Vocabulary,Grammar)/Phrase ⑮
08	Day 11 I Should Have a Black-Cab Experience (Reading)/Phrase ⑯
09	Review(Day8~Day11)/ Phrase ⑰
10	Day 12 I’m Looking forward to Seeing Wales!(Listening,Vocabulary, Grammar)/Phrase ⑱
11	Day 12 I’m Looking forward to Seeing Wales!(Reading)/Phrase ⑲
12	Day 13Don’t You Know that UK Designs Are Popular?(Listen,Vocab,Grammar, Reading)
13	Day 14 Would You Like to See a Play?(Listening,Vocabulary,Grammar, Reading)/Phrase⑳
14	Day 15 That’s the Great Thing about Travel! (Listening, Vocabulary, Grammar, Reading)
15	まとめとReview test (Day 12~ Day 15)
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語と英米文化ＩＢ	担当者:樋田　禎美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「英語ドリル」を用いて日常生活で使える慣用表現を練習しながら、英語でやり取りする基礎を養います。伝えたいことを気持ちをこめて話す練習をします。イギリス旅行をする登場人物と共にイギリスの社会や美しい風景、歴史、そこに暮らす人々と出会って、異文化理解を深めます。

授業の到達目標
１．状況に応じた自然な表現を使える
２．会話を続けようとする意欲をもつ
３．英国文化を学び、異文化を尊重して違いを楽しむ気持ちをもつ
４．まとまりのある文章を読み、大意をつかめる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
英語ドリルのCDを聞いて、課題に取り組んでください。Let's Check Out the UK!の音声はダウンロードしてリスニング問題に取り組み、語彙の発音と強勢を確認し、通じる英語を目指しましょう。

評価方法
授業への参加態度15%　提出物30%　確認テスト55%

教科書	参考図書
Let's Check Out the UK!　(金星堂)　Active Communication with Phrases　(南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外のニュースやドラマ、映画をたくさん観てください。連絡手段はオリエンテーションで伝えます。

01	オリエンテーション
02	英語ドリル　Unit 11 Watching Movies　Day　9: It's Fun Listening to Different Accents
03	英語ドリル　Unit 12 Listening to Music　Day 10: Do You Fancy Something Sweet?
04	英語ドリル　Unit 13 Cooking　Day 11:I Guess I Should Have a Black-Cab Experience
05	英語ドリル　Unit 14 Accomodation　Day 12:I'm Looking forward to Seeing Wales!
06	英語ドリル　Unit 15 Hobbies　Day　9,10 復習
07	英語ドリル　Unit 11-15 復習　確認テスト①　Day 11,12 復習
08	英語ドリル　Unit 16 Travel Abroad Day 13:Don't You Know that UK Designs Are Popular?
09	英語ドリル　Unit 17 Job Hunting　Day 14:Would You Like to See a Play?
10	英語ドリル　Unit 18 Problems&Solutions　Day 15:That's the Great Thing about Travel!
11	英語ドリル　Unit 19 Requests&Appeals　Day 13-15 復習
12	英語ドリル　Unit 20 Discussions&Presentations　Day 13-15 復習
13	英語ドリル　Unit 16-20 復習　Day　9-12 復習
14	英語ドリル　Unit 11-20 復習　Day 13-15 復習
15	英語ドリル　Unit 11-20 復習　確認テスト②　Day　9-15 復習
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英会話ＩＡ	担当者:佐分 ｼﾞｭﾃﾞｨｽ ｽﾐｽ	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is a conversation intensive course. Each class students will have to communicate in English with each other and the teacher. Students will be introduced to new vocabulary every week, and topics that relate to the vocabulary.

授業の到達目標
The goal of this course is to help develop skills to maintain a basic English conversation. The class will touch on topics that will allow the students to be able to interact in an English-only environment.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students will be required to send video recordings for quizzes and homework, They will be expected to work in pairs and groups to complete class activities. Homework will include worksheets and topic research. Students will be expected to produce projects and reports.
Please note the course schedule may change to fix the speed and level of the class.

評価方法
Grading scale Participation 10%
In class work 10%
Homework 20%
Quizes 20%
Projects 20%
Exam 20%

教科書
Instructor will provide worksheets for class.

参考図書
Students will need to prepare a binder with at least 30 clear sheets. Writing supplies and binder must be brought to each and every class.We will review every lesson.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please try to speak in class. Making mistakes is an important part of learning.

01	Lesson 1 Welcome, Class Introduction / Self Introduction
02	Lesson 2 About Me
03	Lesson 3 My Family
04	Lesson 4 My Body
05	Lesson 5 I Am Sick
06	Lesson 6 Review Quiz and Nouns
07	Lesson 7 Where Is The Mall
08	Lesson 8 Traveling
09	Lesson 9 Clothing
10	Lesson 10 Dating
11	Lesson 11 Review Quiz and Verb Practice
12	Lesson 12 Group Project Selection
13	Lesson 13 Welcome to Japan
14	Lesson 14 Group Project and Exam
15	Lesson 15 Exam review and Game Day
16	make up if needed

2019年度シラバス

科目名:英会話ＩＡ	担当者:Lee Sargent	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
英会話I A is an elective course for first year students in the Liberal Arts Department. The aim of this course is to enable students to provide basic information about themselves in English. Also, students will learn about other cultures and environments outside Japan.

授業の到達目標
By the end of the spring semester the students should be able to give a brief introduction about themselves, friends and where they live.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
A vocabulary list will be given at the end of each lesson. Students should learn the meaning of the vocabulary and remember this for use in the following week’s lesson. Students will need listen to and read English learning websites and write about them in a journal outside of class time. Students will need to use smartphones or a computer to find these websites.

評価方法
Completion of Website task and journal ウェブサイトを見たり、ジャーナルを書いたりして　３０％
Participation & Homework 積極性と宿題　３０％
Vocabulary quiz (3) 単語クイズ　（３つ）１５％
15th week unit quiz 授業とクイズ(筆記) １５週目　２５％

教科書	参考図書
Textbooks: All materials in English will be provided by the instructor,	A clear file with at least 30 leaves and a notebook

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
You need to think about, read or listen to English more than once a week. Please look at the recommended Website each week outside the classroom. You can talk to me in person before the lesson or contact me .I’ll tell you my e-mail address in the class.

01	Introduce yourself. Course Introduction. Using Websites
02	Introduce other people
03	A+++ Conversations
04	Congratulations
05	Apologies
06	Good and Bad Manners
07	Helping People
08	Review Lessons 1-7 Quiz Game
09	Daily Life
10	Favourite Foods
11	Personalities
12	Friends
13	Childhood Memories
14	Future Plans and Dreams
15	Review Lessons 8-14 Quiz
16	

2019年度シラバス

科目名:英会話ＩＢ	担当者:佐分 ｼﾞｭﾃﾞｨｽ ｽﾐｽ	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is a conversation intensive course. Each class students will have to communicate in English with each other and the teacher. Students will be introduced to new vocabulary every week, and topics that relate to the vocabulary.

授業の到達目標
The goal of this course is to help develop skills to maintain a basic English conversation. The class will touch on topics that will allow the students to be able to interact in an English-only environment.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students will be required to send video recordings for quizzes and homework, They will be expected to work in pairs and groups to complete class activities. Homework will include worksheets and topic research. Students will be expected to produce projects and reports.
Please note the course schedule may change to fix the speed and level of the class.

評価方法
Grading scale Participation 10%
In class work 10%
Homework 20%
Quizes 20%
Projects 20%
Exam 20%

教科書
Instructor will provide worksheets for class.

参考図書
Students will need to prepare a binder with at least 30 clear sheets. Writing supplies and binder must be brought to each and every class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please try to speak in class. Making mistakes is an important part of learning.

01	Lesson 1 First Semester Review
02	Lesson 2 Projects
03	Lesson 3 Music
04	Lesson 4 Routines
05	Lesson 5 Halloween Project Presentations
06	Lesson 6 TV shows and Movies
07	Lesson 7 Hotels
08	Lesson 8 Money Money Money
09	Lesson 9 Health
10	Lesson 10 Quiz and Games
11	Lesson 11 Traveling
12	Lesson 12 American Holidays
13	Lesson 13 Christmas
14	Lesson 14 Review and Exam
15	Lesson 15 Exam Review and Group Presentation
16	make up if needed

2019年度シラバス

科目名:英会話ＩＢ	担当者:Lee Sargent	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
英会話I B is an elective course for first year students in the Liberal Arts Department. The aim of this course is to enable students to provide basic information in English to survive in a foreign environment. Also, students will learn about other cultures and environments outside Japan.
Students will have the opportunity to improve their conversation skills in English through: 1) active participation with other students, 2) building active vocabulary, 3) building listening skills, 4) improving grammatical accuracy, 5) developing basic writing skills.

授業の到達目標
By the end of the second semester student will be able to communicate in a variety of situations for survival in a foreign environment. Students will also be able to describe some aspects of Japanese culture and society.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
A vocabulary list will be given at the end of each lesson. Students should learn the meaning of the vocabulary and remember this for use in the following week’s lesson. Students will need to read and listen to English learning websites and write about them in a journal outside of class time. Students will need to use smartphones or a computer to find these websites.

評価方法
Completion of Website task and journal ウェブサイトを見たり、ジャーナルを書いたりして 35%Mini quizzes (3) 単語クイズ 15%15th week unit quiz (written); week 15 １５週目のクイズ(筆記) 20%Participation and Homework, 積極性と宿題 30%

教科書	参考図書
All materials in English will be provided by the instructor,	A clear file with at least 30 leaves and a notebook

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
You need to think about, read or listen to English more than once a week. Please look at the recommended Website each week outside the classroom. You can talk to me in person before the lesson or contact me. I’ll tell you my e-mail address in the class.

01	Introduce yourself. Course Introduction. Using Websites
02	Families
03	Falling in Love
04	Directions around To
05	Shopping
06	Shopping for Clothes
07	Leisure Time
08	Review Lessons 1-7
09	On Vacation
10	Bus and Train Travel
11	Travelling by Car
12	Air Travel
13	Occupations
14	Learning to Drive
15	Review Lessons 8-14 Quiz
16	

2019年度シラバス

科目名:英語能力認定	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　現在、世界約60カ国で実施され、日本においても企業の人事や自己啓発活動の一環として利用されている国際コミュニケーション英語能力テストTOEIC（Test of English for International Communication の略、トーイック）において、一定の結果を出し、それを申請した場合、単位として認定する。目標点を具体的に持つことで、各自の英語能力向上のための自主的な学習を促したい。

授業の到達目標
　継続的学習の結実が成果として現れると考えて設定された科目である。一度の受験で終りではなく、何度も試験にチャレンジして、高得点を目指すことで、英語力を高めていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　語学は継続的な学習が重要である。英語関係の授業を受講するほか、図書館や教員の研究室、ESC(English Study Center)には問題集や英語教材、視聴覚資料等があるので活用してほしい。

評価方法
350点以上を優、400点以上を秀とする。

教科書	参考図書 TOEICのレベル別の問題集など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
＜勉強に関して＞
　TOEICで点数を得るためには、総合的な読取りおよび聞取りの力が必要とされる。これらを伸ばすには、基礎を踏まえたうえで、継続的な学習が必要になる。短期的に成果が出なくても、あせらずに２年間じっくりと、少しずつ取り組んで行ってほしい。
　また、高得点を得るためには、語彙や文法、状況に応じた表現の学習、英語の音やTOEIC出題形式への慣れなど、さまざまな要素の勉強が必要になる。目的に応じた教材や資料が、図書館など学内に用意されているので、利用して、自分のペースで勉強をしていってほしい。必要に応じて担当の教員に問い合わせてくれれば、模擬試験などの対応もできる。

＜TOEICの受験に関して＞
　学内におけるTOEIC・IP（Institutional Program 団体試験制度）を利用して受験するか、学外で一般向けにに実施される公式テストを受験する。検定料は受験者が負担する。
　TOEIC・IPの実施に関しては掲示板にて告知する。

＜単位の認定＞
　各学年の前期および後期に「認定単位申請」のための期間が設けられる。この期間に、本人の試験結果（原本とコピー）および「認定申請書」を教務課へ提出する。原本は後に返却する。申請は２年間で、１回のみ可能である。上位の成績に挑戦する者は、最終受験の結果を待って申請することになる。在学中に受験した試験の結果であれば、最新の結果でなくても、申請可能である。

01	ガイダンスを参考にして、各自の学習計画を立てる。
02	申請が前提となるので、本人からの申し出がなければ単位としては認定されない。
03	学内でのTOEICが、年に3-4回実施されるので掲示板での案内に注意しておく。
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:身体と表現	担当者:鏡味　富美子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
豊かな人間関係を築くには心と身体の柔軟性が必要とされます。この授業では内外両面からアプローチ、美しい立振る舞い(姿勢・歩き方)やショートドラマを体験(台本書き・出演・発表)します。また毎回プリントの簡単なＱ＆Ａに答え自分自身を客観的に見つめます。プリントはコメントをつけ最後の講義にまとめて返却します。

授業の到達目標
美しい立ち振る舞いや人を惹きつける話、話し方を身に付けましょう。自分や他人の長所を見つけ、コミュニケーションを楽しめる私になりましょう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人間観察をしてみましょう。

評価方法
平常点80％(授業の参加意欲・態度)と発表20％で評価します。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	都度紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、身体を動かしますが特にシューズ・ウェアは必要ありません。ショートドラマ(寸劇)など、女優になったつもりで楽しんで演じてみましょう！

01	オリエンテーション
02	身体のリラックス①(ストレッチ・姿勢と歩き方)
03	身体のリラックス②(発声練習・朗読)
04	身体のリラックス③(パントマイム)　　※身体のリラックスでは簡単なショートドラマを体験
05	自分探し(自分年表の作成)　　※思い出の写真や品物で歓談しましょう
06	屋外講義(テーマを決めていつもとは違う雰囲気で進めます)　　※天候により入れ替わり有
07	心のリラックス①(ショートドラマ体験、セキセイインコと共演)
08	心のリラックス②(体験した事をショートドラマにしてみる)
09	心のリラックス③(創ったショートドラマの発表・感想など)
10	表現①手紙を書いてみよう
11	表現②短い文章(詩・短歌・川柳など)を書いてみよう
12	表現③中くらいの文章(エッセイ・短編小説)書いてみよう
13	表現④発表内容の検討　　※講師が個々にアドバイスします
14	発表の準備・稽古
15	発表の準備・稽古
16	発表・まとめ

2019年度シラバス

科目名:ダンスＡ	担当者:本吉　真寿美	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実技
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 この科目は、ディプロマ・ポリシーに示されている行動力とコミュニケーション力の獲得を目的とするものである。ダンスを通して、自己表現力や創造力を高め、心身ともに健やかで明るく積極的に活動する力を養う。また、グループでの創作演習などにおいて、皆で協力し一つの目標を成し遂げる達成感などを学ぶ。
授業の到達目標 ダンス表現の基礎技能を身につける。自分なりの動きで伸び伸びと表現する。他者と協同して作品を創り、発表する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 学習した基本動作を練習して身につけたり、テレビやインターネットで様々なダンスの作品を視聴したりすることが望ましい。
評価方法 基礎技能や創作作品（70%）及びレポート等の課題（30%）により評価する。欠席等による授業への不参加がある場合は総合点から減点する。

教科書	参考図書
指定なし	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 運動に適した服装と身だしなみで、装飾品は外して受講すること。運動用室内シューズを持参すること。

01	基本のリズムどり①
02	基本のリズムどり②
03	リズムの応用とステップ①
04	リズムの応用とステップ②
05	リズムとステップのルーティーン
06	ボディコントロールの基本
07	ボディコントロールの応用
08	自己表現
09	創作（フリーダンス）
10	グループでの創作①
11	グループでの創作②
12	フォーメーション練習
13	総合演習①
14	総合演習②
15	グループでの発表
16	

2019年度シラバス

科目名:ダンスB	担当者:栗林　三奈子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実技
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
毎回の授業で「よさこい」についての座学と実技を行う。鳴子の鳴らし方、足運び、基礎を学び20分前後の座学を入れて、歴史、各地の祭りの特徴、パレードやステージの違い、衣装、小道具、大道具、楽曲、演出などを伝えていく。正調よさこいが踊れるよう、創作をして発表し評価していく。

授業の到達目標
各グループに分かれて決められた曲の創作振り付けを行う。グループで意見を出し合いながら、コミュニケーションをとりチーム力をあげること、また基礎練習で得た技術を使い、よさこい鳴子踊りを個性豊かに表現し、グループで演出をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
YouTubeなどで各祭りの動画を見てくることを宿題とすることがある。

評価方法
グループ練習での積極性、協調性。個人の表現能力、チームとしての仕上がりを評価する。
授業への参加態度40%　鳴子技術習得度30%　個人の表現能力40%

教科書	参考図書
なし	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
表現する方法は無限にあることを知ってもらいたい。動画を見て自分の好きな表現方法を知ると、踊ることがより楽しいものになる。目で見て感じることはとても大切。自分がどんな風に踊っているかを鏡を見たり、自分の踊る姿を撮影することで技術の向上にもつなげていく。スマホ、飲み物、タオル持参で授業に参加してください。

01	よさこいの歴史、高知よさこいについて。鳴子の持ち方と鳴らし方。
02	祭りについて。地域性。鳴子の鳴らし方と足運び
03	パレードとステージの違い。鳴子の鳴らし方と隊列移動。正調よさこい振り落とし開始
04	衣装、小道具、大道具。正調よさこい練習
05	楽曲について。正調よさこい練習
06	祭りに必要なもの。正調よさこい練習
07	チーム特性。正調よさこい練習
08	動画を見てきてもらい感想を発表する。正調よさこい完成。創作グループを決める
09	正調よさこい復讐。グループ別創作活動開始
10	グループ別創作活動
11	グループ別創作活動
12	グループ別創作活動
13	グループ別創作活動
14	グループ別創作活動
15	グループ別創作活動
16	グループ別創作活動発表(評価のためのグループ発表) グループ別創作活動　グループごとに発表

2019年度シラバス

科目名:映像メディアの世界	担当者:溝渕　久美子	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 現在、私達の身の回りには映画やテレビなどの様々な視覚メディアがあふれています。映画史と映画の表現技法を学びながら、映画がどのように作られているのかを理解し、実際に映画の分析を行うことで、多角的に映像作品を鑑賞する力を身につけます。
授業の到達目標 学生が映画を「感動した」「面白かった」というだけではなく、映像表現のルールを学んだ上で、それを応用して表現技法や物語構造の点から客観的に分析し、説得力をもって人に伝えらえるようにすることが目標です。また、映画の誕生からトーキーまでの映画史を概観することで、映画というメディアが歴史的にどのようなものだったかを理解し、現在の映像環境についての理解を深めることも目標です。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学習として、参考図書を事前に読んでおくこと(4時間程度)。講義中に部分的に取り上げた映画は各自視聴し、また、日常生活で映画やドラマ等の映像表現に触れた際には、表現技法や物語構造に注意して見ていくこと。
評価方法 講義への貢献度50%最終試験50%

教科書	参考図書
講義中に指示します。	講義中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 授業中にメールアドレスを公開しますので、質問や困ったこと・気になることがある場合は、そちらまで連絡してください。楽しく映画の勉強をしていきましょう。

01	映画を「見る」前に：映像表現の面白さ、感想と分析の違い
02	映画史1　映画に至るテクノロジー 映画史1　　映画以前のテクノロジー
03	映画史2　映画の誕生
04	映画史3　初期映画とは何か？
05	映画史4　古典的ハリウッド映画①　サイレント映画の表現『あれ』
06	映画史5　古典的ハリウッド映画②　物語映画の形式とサイレント映画
07	映画史6　古典的ハリウッド映画③　トーキー映画の表現『或る夜の出来事』
08	映画史7　古典的ハリウッド映画④　音による表現と自主規制、映画ジャンル
09	映画史8　古典的ハリウッド映画から逸脱するもの
10	映画の表現技法１　カメラの前の視覚的な要素とカメラに関わる要素
11	映画の表現技法2　編集とサウンド
12	対極分析をしてみよう①　対極分析のやり方、『Mr.& Mrs.スミス』分析
13	対極分析をしてみよう②　『アバター』分析①
14	対極分析をしてみよう③　『アバター』分析②
15	対極分析をしてみよう④　『アバター』分析③　まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:食生活と健康づくり	担当者:辻　広志	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 私たちの食生活はこの半世紀で大きく様変わりし、豊かさや便利さが増した反面、生活習慣病や食品不安、環境負荷などの新たな問題を生み出している。この授業では、配布プリントを中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、新聞記事、アンケート、実習等を通して、これからの望ましい食生活のあり方について考える。
授業の到達目標 食品・栄養に関する基礎知識を習得するとともに、「食と健康」「食の安全」「食と環境」について正しく理解し、自ら実践する習慣を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 食と健康に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手するよう心掛けること。食品を購入する際に、パッケージの表示（原材料名、消費・賞味期限、食品マーク等）を確認すること。
評価方法 確認テスト50%、平常点50%（出席状況、授業感想文、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 「食生活アドバイザー」等の食に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：ヒトの食生態
02	味覚の科学：なぜ食べ物をおいしいと感じるのか？
03	日本型食事の効用：なぜ和食は世界一の健康食なのか？
04	漢方医学と食事：陰の食品と陽の食品
05	生活習慣病と食事：肥満を防ぐには何をどのように食べるべきか？
06	食事・栄養評価法：自分の栄養状態について調べよう
07	有害物質による食品汚染：日本の食の安全を揺るがしたさまざまな事件
08	食品添加物と食品表示：菓子パンの添加物を調べよう
09	食品の腐敗と保存：塩分や糖分を加えるとなぜ腐りにくくなるのか？
10	食品添加物の簡易実験：うがい薬で食品中のビタミンＣやデンプンを調べよう
11	食品と寄生虫：サナダムシの生活史とヒトへの感染経路
12	健康食品とフードファディズム：安全な健康食品の見分け方
13	現代の食問題：新聞の記事をまとめ、グループ内で発表しよう
14	飽食の実態と対策：食品の賞味期限・大量廃棄・リサイクル
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:自然と生活	担当者:辻　英之	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー）資格希望者は、資格申請及び登録料の納入が必要		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
限界自治体ともいうべき長野県やすおか村。非効率、不合理と切り捨てられてきた山村が今、循環型の地域社会作りの先頭に立っている。村民とヨソモノ・若物の環境教育NPOが協働して、持続可能な地域社会を創る事例（山村留学など）を、主に視聴覚教材やわかりやすいワークショップを用いて紹介する。また、多彩なゲストスピーカーをやすおか村から招へいすると共に、山村の旬を感じる実物（薪、野菜、獣などなど）を持参する。それら参加型の授業を通して自然と共存する人間のあり方を考察する。

授業の到達目標
へき地山村に住む人々が営む自然と共存する暮らし。その暮らしに潜む教育力を学び、今求められる自然と人間の関係性を考えると共に、自然とつきあうスキルを理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業の都度テキストを読むとともに、自然現象や自然災害の情報、農山漁村の情報、教室の外の学びなどについてインターネットや新聞などマスメディアを通しての情報収集に努めること。

評価方法
授業への参加態度20%　各回ごとのコメントペーパーの内容20%　テキストを読んでの課題レポート30%　筆記試験30%

教科書	参考図書
『奇跡のむらの物語　～1000人の子どもが限界集落を救う！』（辻英之編著、農文協、1785円）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
信州のへき地山村から毎週通い、山村のリアルタイムの情報を伝える。また、ビジュアルな教材を使用する。　資格取得についての質問は随時受け付ける。講師の連絡先は授業で提示する。

01	オリエンテーション
02	相手を理解するということ（ワークショップ）
03	自然体験活動の特質１（ワークショップ）　～過疎へき地山村のリアル実態を理解する～
04	自然体験活動の指導１（ゲストスピーク）　～里山・棚田保全とこどもの教育の奇妙なWIN-WINN関係～
05	自然体験活動の特質２（グループワーク）～もったいないの本質は感謝のこころ～
06	然体験活動の指導２（グループコンテスト）～暮らしの中にある木の種類当てクイズ！～
07	自然体験活動の技術１（グループコンテスト）～エコツアーの企画をつくってみよう！～
08	自然体験活動の技術２（ワークショップ）　猟師が来たぞ！　～野生生物・獣害との闘い～
09	自然体験活動の技術３（ワークショップ）　～地域を潤す地産地消と農家のプライド～
10	自然体験活動の技術４（プレゼンテーション）　～自然と暮らしの関係性を見える化せよ～
11	やってみよう商品開発！（ワークショップ）　～旬の資源を使って商品開発～
12	自然体験活動の安全管理（講義）　～東日本大震災など自然災害から学ぶこと
13	自然体験活動の安全管理２（講義）～自然災害から身を守るには～
14	総括ディスカッション
15	まとめと確認テスト（資格認定試験）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:自然環境と生き物の世界	担当者:辻　広志	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。

授業の到達目標
地球環境、生物多様性、生態系のしくみについて理解し、環境保全活動の実践方法を知る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅周辺にはどのような動植物が生息しているか調べる。環境問題や野生生物に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手する。

評価方法
レポート点50%、平常点50%（出席状況、授業感想文、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「エコ検定」等の環境に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：生物多様性と生態系サービス（自然の恵み）
02	生物多様性の危機の現状：世界のカエル類の約３割は絶滅の危機に瀕している！
03	生態系のしくみ：オオカミが自然を守っている？
04	植物の種子散布：身近な雑草の繁殖戦略
05	野外実習：キャンパスの樹木観察
06	侵略的外来種：アカミミガメ、ブラックバス、アライグマが日本の生態系を破壊する
07	環境変動による環境負荷：地球温暖化が生物に及ぼす影響
08	有害化学物質による環境汚染：「沈黙の春」と「メス化する自然」
09	生態系の保全：世界自然遺産の光と影
10	希少種の保全：レッドデータブックで絶滅危惧生物を調べよう
11	企業・市民による環境保全活動：企業の環境報告書を読もう
12	自然再生事業：ビオトープと多自然川づくり
13	女子学生の自然体験：身近な生き物アンケート
14	ダーウィンの進化論：生物多様性と進化のしくみ
15	まとめと確認
16	なし

科目名:キャリア支援	担当者:教務委員	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	8
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は資格の取得や検定の合格に対して単位を認定する形態の科目です。この科目を活用して、自分自身の成長やスキルアップにつながる資格や検定にチャレンジし、将来の視野や展望を広げてください。なお単位の認定対象となるのは、原則として大学在学中に取得・合格した資格・検定になります。

授業の到達目標
1　社会人基礎力を向上させる資格・検定などの取得を目指すことで、高度な教養を広く身につける。
2　各種の資格・検定などを取得することで卒業後の進路の幅を広げる。
3　将来の職業に関連したスキルアップを目指すことで、高度職業人としての知識・技能の修得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　指定された資格・検定を取得するためには、十分な学習時間が必要となります。
　資格・検定によっては、本学で対策のための授業、内容的に関連の強い授業が開講されていますので、活用してください。また参考書、問題集、過去問などの資料が図書館や教員の研究室に用意されている場合もあるので、活用してください。
　単位認定が可能な資格・検定などについては、変更や更新がなされるので、その都度確認してください。

評価方法
　指定された資格・検定などの合格証を根拠にして、その難易度に応じた単位数の認定をします。職業教養講座を受講した場合、職業教養講座の単位と合算したうえで、上限は8単位までが認定されます。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
申請の時期が11月と1～2月の2回になります。掲示などで案内されるので、合格証書などの必要書類を用意しておいて下さい。

01	以下の要件などを確認のうえ、申請してください。 ・別に掲示する本学入学後に取得した検定・資格を対象に所定の単位を認定しますが、特定の条件を満たしている場合、入学前に取得した資格などであっても認定できる場合がありますので、教務課で相談してください。 ・同一の資格・検定などにおいて上位の級位を取得した場合、下位の級で申請をしていなければ加算して単位を認定します。 ・申請に当たっては、所定の用紙に資格など取得の事実を証明する書類のコピーなどを添えて、教務課へ提出してください。 ・以上のほかにも、もし不明な点などがあれば教務課に相談してください。 なお、認定された単位は通常の成績評価とは異なり、GPAの算入対象ではありません。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:海外研修	担当者:大草　知裕	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「海外研修」は、学生自らが立案した計画にもとづいて、海外で短期の語学学習や文化体験などをする科目である。単位修得には海外での研修を行うとともに、渡航する前の準備となる事前学習や、研修後の課題作成が含まれる。語学力だけでなく、目的に向かって着実に努力を続けられる行動力や、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力を身につける。

授業の到達目標
(1)　語学力の向上：　自分の学びたい外国語が使われている環境で生活し、語学力を向上させる。　(2)　異文化の体験：　文化や生活習慣の違いを現地で体験することで、視野を広げる、価値観を見直す、行動力を伸ばす、など将来につながる貴重な経験を得る。　(3)　事前学習、事後報告の重要性を学ぶ：　単なる旅行とは異なる、計画や事前学習などの重要性についても学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
ツアーや航空券の手配、旅券の取得、保険の申請、現地通貨や支払い手段の準備などについて、教員は情報提供や助言を行うが、最終的な手続きは個人で行う。　渡航先の情勢や為替レートなどは、ニュースなどを見て、継続的に把握しておくこと。

評価方法
学生個人による海外での研修的な活動で、現代教養学科が定める基準に従い、十分な学習経験と認められる活動に対し、単位を認める。事前学習(30%)、研修(60%)、課題(10%)をもとに評価する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	(事前学習) ①担当教員によるガイダンスに出席し、研修計画立案に必要な条件等を理解する。 ②研修国・地域、研修課題、実施計画・内容等を所定の書式で提出し、担当教員の許可を得て、事前指導を受ける。 (研修活動中) ③研修期間中は研修課題を達成するために必要な学習活動を行う。 ④活動記録を作成する。 (事後学習) ⑤研修期間終了後、指定された時期までに活動記録と研修日誌を提出する。 ⑥科目「海外研修」を履修登録し、単位の認定を申し出る。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:国内研修	担当者:茶谷　淳一	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
学生自らが立案したプランにもとづいて現実の社会で様々な人々と交流しながら活動することを通して、普段の学校を中心とした生活では得られない経験をすることで、社会で必要とされる自信、知識や技能を見つけることを目的とします。

授業の到達目標
①経験や何らかの「力」を身につけ、自分の考えや行動に自信をもつようになる。②視野が広がり、様々な意見を受け入れることができる。③社会で働くために必要とされる力＝社会人基礎力を向上させ、多様な人びとと協働することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備活動（例えば、研修先の事前調査、研修プランの立案、受け入れ先との交渉、保護者との相談など）、研修、事後活動（研修日誌の整理、研修先への御礼の手紙の作成、レポートの作成、活動報告プレゼンテーションなど）。

評価方法
事前に担当者から認められた活動だけが対象となります。準備・事後活動の取組みの様子（10点）、研修日誌（20点）、活動報告（レポート、発表　70点）

教科書	参考図書
なし	必要に応じて紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまでに200人近くの学生が北海道から沖縄までの各地で様々な活動をしました（具体例は随時紹介します）。研修したい学生は「国内研修」の時間に研究室へ相談に来ること。詳細は配布される資料を参照すること。

01	学生が個人の責任の下で行う国内での研修活動のうち、十分な学習経験が得ていると認められる活動を所定の方法で評価し、単位を認めます。詳細は別に配付される資料などで確認すること。（以下、一部抜粋） 1．国内研修として認められる条件と基準　①研修する課題が明確であること、②事前・事後指導に全て出席すること、③受入機関が明確であること、④期間が合計で実質10日間以上あり、一日あたり3時間以上活動すること、④他の科目の単位認定の対象ではないこと、⑤普段の生活では得られない経験や能力、知識が得られること。 2．履修方法　担当者に申し出ること。履修登録は研修後、担当者の指示を受けて行うこと。 3．注意事項　①保護者の同意を必ず得ること、②研修中に発生する費用やトラブルに対する責任について大学は一切責任を負わない。研修実施上の費用や責任は学生本人と保護者にあることを理解しておくこと。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	